

5  
6  
7  
8  
9  
50  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
6

始



# 支那鑛業時報

## 第十六號

昭和三年三月一日

南滿洲鐵道株式會社地質調查所

### 目次

#### 論說及報文

直隸省臨榆縣石門寨炭田調查報文.....一  
直隸省臨榆縣石門寨炭田義院口附近調查報文.....二  
奉天省鳳城縣榛子溝鑛產地地質調查報文.....三

#### 雜錄

奉天省黑山縣八道濠炭田.....四  
山西省平定縣陽泉保晉公司炭礦.....五  
關東州鑛區及鑛產額統計(自昭和元年至昭和二年).....六  
撫順及煙臺炭鑛採炭概況(自昭和二年九月).....七

#### 時事彙報

滿洲.....四一  
▲關東州◎關東州鑛業規則中鑛物名改正◎苦灰石採掘費▲奉天省◎馬鹿溝鑛山近況◎黑松林滿鑛近況◎復縣產石版石工場◎石門寨英盤地方炭田近況◎南嶺煤礦有限公司設立計劃◎遼陽縣ノ石灰採掘◎北京農商部ノ鑛山調查命令◎西安煤礦公司◎劉省長ノ奉天省富源開發策◎張作霖氏ノ鑛山開掘訓令▲吉林省黑龍江省◎吉林省各炭礦出產量◎興安嶺ノ金礦蒙古及西比利亞.....四二  
◎英國ノ對露金鑛利權會社◎勞農踏查白金礦發見.....四三

北支那.....四五  
▲直隸省◎天津輸移出入鑛產物▲山東省◎青島附近ノ石材◎石炭戰時特別稅.....四五

中支那.....四六  
▲安徽省◎湖北省◎湖南省◎東亞通商株式會社支那產鑛石輸入◎楊子江沿岸鐵礦及滿鐵鑛概要.....四六

南支那.....四七  
▲福建省◎福州ニ於ケル鑛業會社狀況▲廣東省◎廣西省◎廣東廣西滿鐵鑛▲貴州省◎貴州省石油發見.....四七

支那一般.....四八  
◎中國各省ノ金鑛◎一九二四年度鑛山採掘權.....四八



# 支那鑛業時報 第六十九號

(昭和三年三月一日)

## 論說及報文

### 直隸省臨榆縣石門寨炭田調查報文

地質調査所員

木村六郎  
大羽時男

#### 一、位置及交通

(石門寨炭田義院口附近  
調査報文第一圖參照)

茲ニ石門寨炭田ト稱スルハ直隸省秦皇島驛ノ北方約一七籽ナル石門寨附近ニ廣域ニ略南北ニ敷衍スル炭田ヲ總稱シ  
東ハ潮水峪及石門寨ニヨリ、西ハ義院口及山陽寨ニヨリ、北ハ板廠峪及查家莊ニヨリ、南ハ黑山窩附近ニヨリ圍繞セ  
ラル、東西約五・五籽、南北一三籽、面積七一・五平方籽ノ地域ヲ占メ、其北西部ナル義院口附近炭田面積一〇平方籽  
ノ區域ハ別ニ之レヲ調査シ題シテ「石門寨炭田義院口附近調査報文」ト成シ之レヲ報告セリ、今回調査セルハ該義院口  
附近以外ノ區域ニシテ本炭田ノ大部分ニシテ其主要部ヲ占ム

本炭田ハ京奉線秦皇島驛及埠頭ニ近ク、其石炭ノ輸送ニハ長城輕便鐵道、柳江輕便鐵道及開灤炭礦所有鐵道ニ依レ



リ、長城輕便鐵道ハ長城煤鐵公司ノ専用ニシテ山元ナル石嶺驛ト秦皇島貯炭場間ニ二杆ニ敷設セラレ該貯炭場ヨリ開  
 灤炭礦所有鐵道ニ聯絡シ六杆ニシテ埠頭ニ到リ、柳江輕便鐵道ハ柳江煤鐵公司ノ専用ニシテ柳江驛ト秦皇島貯炭場間  
 一杆ニ敷設セラレ該貯炭場ヨリ開灤炭礦所有鐵道ニ聯絡シ二杆ニシテ埠頭ニ到ル、埠頭ハ二千噸級運送船六艘乃至  
 八艘ヲ一時ニ繫留セシムルコトヲ得ヘク一艘ノ運送船ニ石炭ヲ積込ムニ一晝夜ヲ要スト云フ  
 今長城炭一應ノ運賃及埠頭諸掛リヲ舉クレハ左ノ如シ

山元ヨリ秦皇島貯炭場ニ至ル運賃及諸掛リ	大洋 一〇〇六
貯炭場ニ於ケル開灤炭礦所有鐵道貨車積料	〇〇一一
貯炭場ヨリ埠頭ニ至ル運賃	〇〇七〇
輸出税	〇〇三〇
貨車卸シ及船積料	〇〇三〇
夜荷役ノ場合	〇〇〇八
長城輕便鐵道及開灤鐵道手数料	〇〇三三
其他備船ノ場合埠頭諸掛リ大約左ノ如シ	
埠頭料 一晝夜(二千噸以下ノ船)	一三〇〇〇
稅關輸出手數料	二五〇〇
船ノ「エージェントフィー」	三〇〇〇
「パイロットフィー」	二〇〇〇

計	二〇五〇〇
秦皇島埠頭ヨリ大阪迄運賃(一應)	金 四〇〇

### 一、鑛區及沿革

本炭田(義院口附近炭田ヲ除ク、以下之ニ準ス)ニ於ケル鑛區及其煤礦公司ノ主ナルモノ四アリ即チ北ヨリ長城煤鑛  
 公司、泰記煤鑛公司、寶成煤鑛公司及柳江煤鑛公司是ナリ

#### (一) 長城煤鑛公司

本區域内ニ於テ從來稼行セラルハ小峪溝區域ニアリテハ九成窑、棗樹房、王家山及芍葯坑等ニシテ何レモ小窑ニ  
 シテ厚サ一尺五寸乃至四尺ノ立炸(天然コークス)ヲ採掘シ望寶窑區域ニアリテハ厚サ二〇尺ノ炭層ヲ採掘セルモ湧水  
 量多量ナリシ爲メ之レヲ中止セリト云フ(中略)  
 因ニ公司ノ總投資額ハ約一六〇一八〇萬弗ニシテ且ツ現時山元一切ノ經費ハ一ヶ月五萬弗一六萬弗ナルヲ以テ貯  
 炭場渡シ石炭一應價格平均五弗トスレハ一ヶ月一萬二千噸ノ出炭量ヲ以テ收支相償フモノ、如シト云フ  
 出炭量ハ一日二五〇噸一七〇〇噸ニシテ七、八、九ノ三ヶ月間ハ坑内湧水多量ニシテ休山スルモノ多キカ爲メ一ヶ  
 年平均約一五萬噸乃至一八萬噸内外ニシテ其中一等塊炭、二等塊炭及粉炭ノ割合竝ニ秦皇島貯炭場渡シ一應賣價左ノ  
 如シ

一等塊炭	二〇〇—一〇〇	賣價(大洋)	七・五
產出割合(%)			



二等塊炭 三〇〇—三五〇  
粉炭 五〇〇—五五〇

六・五  
三〇—三五

一等塊炭ハ明炸(良質無煙炭)ノ塊炭、二等塊炭ハ明炸、立炸(天然コークス)及爆炸(燃燒ニ際シバチバチ音スル石炭)ノ混合塊炭、粉炭ハ明炸、立炸及爆炸ノ粉炭

石炭ノ販賣ハ秦皇島貯炭場渡シニシテ專賣人制ニ依ル、該專賣人タルモノハ公司ニ五千弗乃至五萬弗ノ保證金ヲ納メテ其專賣權ヲ得ルモノニシテ現時專賣權所有者ハ天津ニ四、上海ニ一、日本内地及滿洲ニ一、營口ニ一其他數箇所トシ其他該專賣權規約ヲ無視シテ之レヲ賦與セラレタルモノアリ、該專賣人ノ一ケ年取扱炭量ハ概ネ天津六萬噸、上海四萬噸、日本内地及滿洲一萬噸及其他四萬噸ナリトス(中略)

大連ニ於ケル長城炭一應ノ賣價(市内配達料共)(大連市無煙公司取扱)ハ左ノ如シ

粒撰中塊炭	金	二四・〇〇	粒撰小塊炭	二四・五〇
精撰一等塊炭		二二・七〇	二等塊炭	一九・二〇
豆炭		一三・五〇	粉炭	九・八〇

(豆炭及粉炭ハ貯炭場渡價)

(二) 泰記煤鑛公司

本鑛區ハ民國三年八月孫際午及三谷末次郎ノ合辦トシテ試掘許可ヲ得同年一月試掘シテ厚サ〇・七五米ノ炭層二層及ヒ厚サ〇・六米ノ炭層一層ニ着炭セリ次テ同七年淺野關係日支汽船株式會社之レヲ繼承シ同汽船會社ヨリ一三萬弗、東拓會社ヨリ一七萬弗計三〇萬弗ヲ投資シテ北坑ヲ開坑シ一日ニ約一〇〇噸ヲ出炭セルコトアルモ資金缺乏ノ爲

メ同九年採掘ニ休止シ以テ今日ニ及ヘリ

(三) 寶成煤鑛公司

本鑛區ハ民國三年五月張起富及高某ノ開採ニ係リシモ資金缺乏ノタメ資本金四〇萬弗ノ株式組織トナシ二堅坑、二斜坑ヲ開坑セルモ一斜坑ノミ着炭セルタメ休止セシカ民國四年十二月再ヒ開坑シタリト云ヒ現時寶成室、其謝溝及早呼嶺ニ於ケル三斜坑ニヨリ一日合計一八〇噸内外ノ出炭アリ

(四) 柳江煤鑛公司

本鑛區ハ民國三年八月試掘許可ヲ得テ資本金七〇萬弗ノ株式組織ナル柳江煤鑛公司之レヲ開採シ民國四年三斜坑、一堅坑ニヨリテ一日約九十噸乃至一〇〇噸ノ出炭アリト云ヒ現時柳江附近ニ二斜坑、一堅坑及四炸室、芍葯坑ニ各一斜坑アリテ一日計約三〇〇噸内外ノ出炭アルモ炭質長城炭ニ稍劣レルト、斜坑深部ニ漸次深クナリテ採掘ニ困難トナリ從ツテ出炭及販賣意ノ如クナラス近時稍悲境ニ陥リツ、アリト云フ

三、地勢及地質

本炭田ハ地形上之レヲ山地、丘陵地及平地ニ分チ得、山地ハ地域ノ西部ニ連互シ高距海拔三二〇米乃至四〇〇米(平地々並ヨリ高サ二〇〇米乃至三〇〇米)ニシテ山側ノ傾斜稍急峻ニシテ本炭田西部ノ峭壁ヲナシ、丘陵地ハ山地ノ東部及南東部ニ略南北ニ連互シ高距海拔一〇〇米乃至一八〇米(平地々並ヨリ高サ六〇米乃至八〇米)ニシテ波狀ニ起伏シ、平地ハ主トシテ石河ノ本流及其支流ノ流域ニシテ本地域ノ北部ニ於テハ略ホ南北ニ、中央部ニ於テハ北西ヨリ南東ニ又ハ東西ニ、南部ニ於テハ南西ヨリ北東ニ敷衍シ石門寨部落ノ東方ニ於テ廣濶ナル耕地ヲ構成ス



地質ハ奥陶紀層、二疊石炭紀層、中生層、沖積層、安山岩及玢岩ヨリ成ル  
奥陶紀層ハ丘陵地ノ東部ヲ構成シテ略南北ニ亘リ敷衍シ二疊石炭紀層ニヨリテ不整合ニ被覆セラレ、本層ハ主トシ  
テ灰黑色乃至灰色ノ石灰岩ヨリ成リ本炭田北部ニ於テハ北二〇度西ニ走リテ南西方ニ二〇度ニ傾斜シ、中部及南部ニ  
於テハ北二〇度乃至四五度東ニ走リテ北西方ニ一五度乃至二五度ニ傾斜ス、本層ハ石門寨西部ニ於テ化石「マクルレ  
ア」ヲ包藏ス

二疊石炭紀層ハ丘陵地ノ大部ヲ占メテ南北ニ敷衍シ奥陶紀層上ニ載リ本炭田北部ニ於テハ北一〇度乃至二〇度西ニ  
走リテ南西方ニ二〇度乃至三〇度ニ傾斜シ、中部及南部ニ於テハ北一〇度乃至四〇度東ニ走リテ北西方ニ二〇度乃至  
二六度ニ傾斜シ概ネ西方ニ傾斜スル單斜構造ヲ成ス、本層ハ其岩質及層序ニ依リテ下部ヨリ順次下部砂岩層、下部夾  
炭層及上部砂岩層ニ分ツコトヲ得、下部砂岩層ハ主トシテ上莊地、大神樹及柳江東部ノ丘陵地ヲ構成シ主トシテ黃褐  
色乃至白色ノ堅硬砂岩ヨリ成リテ其下部ニ頁岩ノ薄層及耐火粘土層ヲ夾有ス、下部夾炭層ハ王家山、石嶺莊、大神樹  
ノ西方、白臺ノ西方、柳江及黑山窪等ニ分布シ主トシテ灰黑色又ハ灰綠色ノ頁岩砂岩ノ互層ヨリ成リ、其下部ニ石灰  
岩ノ薄層ヲ夾有スルコトアリテ其湖水峪ノ西方ニ於ケル石灰岩ハ化石海百合及珊瑚類ノ破片ヲ包藏シ、其上部ニ概  
ネ二層ノ炭層ヲ夾有スルノ外本層ハ大神樹附近ニ於テ化石「コルダイト」及柳江附近ニ於テ化石「ネウロプテリス」ヲ包  
藏シ其他化石封印木、蘆木、鱗木及「ベコプテリス」ヲ包藏スト云フ、上部砂岩層ハ下部夾炭層上ニ載リ南北ニ亘リ  
テ廣域ニ分布シ主トシテ下部ニ白色乃至淡褐色砂岩層、上部ニ赤色砂岩層ノ累層ヨリ成リ時ニ頁岩及礫質砂岩ヲ夾有  
スルコトアリ本層ハ其下部ニ二層ノ耐火粘土層ヲ夾有ス

中生層ハ下部夾炭層及上部砂岩層ヲ不整合ニ被覆シテ山地ト丘陵地ノ間ニ略南北ニ亘リテ分布シ下部ニ礫岩層、上  
部ニ砂岩頁岩ノ互層アリテ該砂岩頁岩互層ハ一層又ハ二層ノ炭層ヲ夾有シ高莊ノ西方及夏家峪附近ニ於テハ化石「フ  
エニコプシス」ヲ包藏シ上部三疊紀乃至下部侏羅紀ニ相當ス  
沖積層ハ平地ヲ構成シ主トシテ砂及礫ヨリ成ル  
安山岩及玢岩ハ山地ヲ構成シ主トシテ中生層及下部砂岩層ヲ略整合的ニ熔岩流ヲ成ス

#### 四、夾炭層及炭層賦存ノ狀況

夾炭層ハ(一)二疊石炭紀層ニ屬スル下部夾炭層及(二)中生層ニ屬スル上部夾炭層ノ二ナリ

##### (一) 下部夾炭層

下部夾炭層ハ奥陶紀石灰岩層及下部砂岩層ヲ不整合ニ被覆シ上部砂岩層ニ不整合ニ被覆セラレ略南北ニ亘リテ狹長  
ニ敷衍シ北部ニ於テハ北四〇度西ニ走リテ南西方ニ二〇度ニ傾斜シ南部ニ於テハ北二〇度乃至四〇度東ニ走リテ北西  
方ニ二〇度乃至二六度ニ傾斜シテ概ネ西方ニ傾斜スル單斜構造ヲ形成シ其層ノ厚サ北部ニ於テハ約二五〇米、中部ニ  
於テハ約三〇―五〇米、南部ニ於テハ約一五〇米内外ニシテ北部及南部ニ厚ク中部ニ薄シ、本層ハ北部ニ於テハ半壁  
溝附近ニ於ケル走向北六〇度西、傾斜北西方八五度ナル斷層ニ依リテ變移シ南部ニ於テハ二龍山附近ニ於ケル走向北  
八〇度東、傾斜北西方七〇度ナル斷層ニ依リテ上部及下部ノ二砂岩層略相接シテ夾炭層ノ露出狹小ナリ

炭層ハ該下部夾炭層中ニ介シ上層及下層ノ二層アリテ主トシテ長城煤礦、泰記煤礦(稼行休止)、寶成煤礦及柳江  
煤礦ニヨリテ採掘セラル

(イ) 長城煤礦 ハ小峪溝區域及望寶壑區域ニ於テ採掘ス、小峪溝區域ハ半壁溝斷層ヨリ王家山ニ至ル南北約一二〇



○米ノ區域ニシテ一堅坑、八斜坑アリ其狀況左ノ如シ

斜坑ノ傾斜角度	堅坑又ハ斜坑	實信窩	同和窩	楊樹窩	華興窩	華寶窩	坑口ヨリノ着炭距離(米)	域區掘採		上層、下層ノ區別	炭層ノ厚サ(米)	採炭歩合		
								深	片			粉炭	二等塊炭	一等塊炭
二〇	北井斜坑	堅坑	斜坑	斜坑	斜坑	斜坑	三三	一〇	六〇	上層	一・八一—二・二	二	二	六
二〇	南大井斜坑	堅坑	斜坑	斜坑	斜坑	斜坑	一〇五	一〇	一〇	上層	一・八一—二・二	二	二	六
二〇	同益窩斜坑	堅坑	斜坑	斜坑	斜坑	斜坑	一八〇	九〇	一〇	上層	一・八一—二・二	二	二	六
二〇	復和窩斜坑	堅坑	斜坑	斜坑	斜坑	斜坑	一三五	七五	一〇	上層	三・〇	二	二	六
二〇	北井斜坑	堅坑	斜坑	斜坑	斜坑	斜坑	一八〇	九〇	一〇	上層	二・〇	五・五	三・五	一

同和窩ヨリ同益窩ニ至ル各坑ハ其片盤坑道ニヨリテ相通ス

合歩炭採	炭層ノ厚サ(米)	上層、下層ノ區別	域區掘採	坑口ヨリノ着炭距離(米)	採炭歩合		堅坑又ハ斜坑	王義山窩	新大井	曹家櫃	大斜坑
					粉炭	二等塊炭					
五・五	一・〇	上層	深 一五〇	一八〇	二	二	堅坑	堅坑	堅坑	斜坑	一五〇
三・五	一・〇	上層	片 一五〇	一八〇	二	二	堅坑	堅坑	堅坑	斜坑	一五〇
三・五	二・〇	上層	深 一二〇	一八〇	二	二	堅坑	堅坑	堅坑	斜坑	一五〇
三・五	二・〇	上層	片 九〇	一八〇	二	二	堅坑	堅坑	堅坑	斜坑	一五〇
四・〇	二・七	下層	深 六〇	一五〇	二	二	堅坑	堅坑	堅坑	斜坑	一五〇

左右片盤延ニ於テ炭層尖減ス

望寶窩區域ハ上莊地附近ニシテ三堅坑、一斜坑ニヨリ採掘セラル、其狀況左ノ如シ

域區掘採	坑口ヨリノ着炭距離(米)	斜坑ノ傾斜角度	堅坑又ハ斜坑	王義山窩	新大井	曹家櫃	大斜坑	採炭歩合	
								深	片
六〇	四〇	一〇—二〇	堅坑	堅坑	堅坑	斜坑	斜坑	二	二
三六〇	一〇五	一〇—二〇	堅坑	堅坑	堅坑	斜坑	斜坑	二	二
三〇〇	四二	一〇—二〇	堅坑	堅坑	堅坑	斜坑	斜坑	二	二
三〇〇	三〇	一〇—二〇	堅坑	堅坑	堅坑	斜坑	斜坑	二	二
三〇〇	三〇	一〇—二〇	堅坑	堅坑	堅坑	斜坑	斜坑	二	二



合歩炭探	炭層ノ厚サ(米)			上層、下層ノ區別	上層	上層	下層	下層	層
	粉炭	二等塊炭	一等塊炭						
二	四	四	四	二・〇	不詳	一・〇	二・五	二	二

(ロ) 泰記煤礦 ハ管テ北坑ニ於テ採掘セラレ現時休止シ入坑調査スルコト能ハサリシモ其坑内圖ニ依リ之レヲ檢スルコトヲ得ヘク其他其謝溝ニ於テハ寶成煤礦公司ニ於テ自鑛區ナリトシ之レヲ採掘ス、其狀況左ノ如シ

炭層ノ厚サ(米)	採掘區域		坑口ヨリノ着炭距離(米)	堅坑又ハ斜坑	北坑	其謝溝
	片	深				
三〇・六	一〇八	七三・二	五七・六	斜坑	北坑	上層 一・二
〇・七五	一〇八	七三・二	五七・六	斜坑	北坑	上層 一・二

(ハ) 寶成煤礦 ハ現時早呼嶺、及寶成窟ニ於テ採掘セラル、其狀況左ノ如シ

炭層ノ厚サ(米)	採掘區域		坑口ヨリノ着炭距離(米)	斜坑又ハ斜坑	早呼嶺	寶成窟
	片	深				
一・〇	四五	六〇	六〇	斜坑	早呼嶺	不詳
一・〇	四五	六〇	六〇	斜坑	早呼嶺	不詳

(ニ) 柳江煤礦 ハ現時三斜坑、一堅坑ニヨリ採掘セラル、モ之レヲ調査スルニ難ク之ヲ地人ノ言ニ據ルニ斜坑ノ深サハ坑口ヨリ六―七〇米ニシテ斜坑道ヨリ左右片盤延ヒハ南北ノ鑛區界ニ及ヒテ採掘ニ困難ヲ來シツ、アリト云ヒ炭層ノ厚サハ大正四年十二月調査ニ係ル「石門寨炭田調査報告」ニ據レハ「目下稼行中ノモノハ地表ヨリ垂直百尺ニ在ル大位ト稱スル無煙炭ニシテ厚サ七、八尺。(二米内外)ヲ有セリ尙同坑ニテハ下部層ニ屬スル主要層ニ接炭(厚サ二丈?)ヲ採取スヘク斜坑二坑ヲ開鑿中ナリ」トアリ又大正五年十二月調査ニ係ル「石門寨附近炭田地質調査報告」ニ據レハ「坑内ニ於テ踏査シタル所ニヨレハ炭層ノ厚サ二十尺(六米)ヲ有シ云々」トアリ之レニ依



リテ推スルニ炭層ハ上下ノ二層ニシテ上層ノ厚サ二米内外、下層ノ厚サ六米ナルモノ、如ク現時一日二〇〇—三〇〇呎ノ出炭アリ

三斜坑ノ一ハ芍药坑ニシテ該斜坑ハ下層ヲ探掘スルモノニシテ斜坑ノ傾斜三〇度、坑口ヨリ一二〇米ニシテ着炭シ深ケ部ニ三〇米掘下シ炭層ノ厚サ一米内外ナリ

(二)

上部夾炭層

上部夾炭層ハ中生層ニ屬シ二疊石炭紀層ノ上部砂岩層ヲ不整合ニ被覆シ安山岩及玢岩ノ熔岩流ニ依リテ被覆セラレテ山地ト丘陵地トノ間ニ南北ニ狹長ニ敷衍シ概ネ南北ニ走り西方ニ一〇度乃至二〇度ニ傾斜スルモ其安山岩及玢岩ニ近キ處ハ西方ニ五五度又ハ六五度ニ傾斜シ地層ノ亂レタル處アリ、本夾炭層ハ其山地ノ麓ニ無數ノ探掘跡アリテ往時探掘ノ盛況ヲ惟フヘク當時ノ狀況ヲ聞クニ由ナキモ泰記煤鑛々區内夏家峪ニ於テ柳江煤鑛之レヲ借區シテ探掘中ノ舊斜坑及新斜坑ナルモノアリ、其狀況左ノ如シ

探掘區域	坑口ヨリノ着炭距離(米)		傾斜ノ傾斜角度	舊斜坑	新斜坑
	片	深			
盤(米)	九〇	四五	三〇		
深(米)	七五	二三五	二二		
坑内ニ於テ舊斜坑道ニ通セントス					

炭層ノ厚サ(米)	〇・七五	〇・三〇
----------	------	------

其他該二斜坑ノ南方孫家溝ニ於テハ寶成鑛ノ總理自ラ泰記煤鑛々區ノ一部ヲ借區シテ探掘中ニシテ現時炭質頁岩ノ傾斜ニ沿ヒ二〇度ノ傾斜ヲ以テ深サ六〇米ヲ掘進シ未タ炭層ニ會セス

五、埋藏量及炭質

埋藏量 下部夾炭層ハ北ハ王家山附近ニ於テハ安山岩及玢岩ニヨリ被覆セラレ南ハ二龍山附近ニ於テ中生層ニ不整合ニ被覆セラレテ其以北及以西ニ於テハ何レモ露出セスシテ其間ニ延長約一萬米ニ亘リ敷衍シ炭層ヲ挾有ス、炭層ハ上層及下層ノ二層ニシテ其厚サハ各探掘場ニ於ケル厚サヲ平均スルニ上層ニ於テハ約二米、下層ニ於テハ二・三米合計四・三米ニシテ概ネ西方ニ二〇度ニ傾斜シ其方向ニ於テ安山岩及玢岩ノ噴出ニヨリ遮斷セラル、迄賦存スヘシ而シテ安山岩及玢岩ハ之レヲ野外ニ於テ檢スルニ主トシテ中生層ヲ略整合的ニ之ヲ被覆スルモ地下ニ於テハ何處ニ於テ中生層及ヒ下部夾炭層中ノ炭層ヲ噴出ニヨリテ遮斷スルヤ之ヲ推スルニ難キヲ以テ假ニ安山岩及玢岩ノ露出界ヲ以テ炭層ノ地下ニ於ケル界トシテ炭層賦存ノ區域ヲ計算シ(中略)テ本炭田ニ於ケル可採炭量ハ大約三〇、〇〇〇、〇〇〇呎ナリ

上部夾炭層ハ山地ト丘陵地トノ間ニ北ハ王家山部落ヨリ南ハ桃園ニ至ル南北約一〇軒ニ亘リ敷衍シ之レヲ被覆スル安山岩及玢岩トノ界ニ近ク無數ノ探掘跡及現ニ稼行中ノ新斜坑、舊斜坑ノ二アリ該二斜坑ニ於テハ炭層ハ一層ニシテ厚サ平均〇・五米ニシテ現時天津方面市場ニ對スル見本炭トシテ一日二—三呎探掘セラル該斜坑ハ其深ケ部ノ掘進漸ク一〇〇米内外ニシテ未タ安山岩及玢岩ニヨリテ遮斷セラレス故ニ本坑道ノ掘進ニヨリテ其深ケ部ニ於ケル安山岩及玢岩トノ關係ヲ明カニスルヲ得ヘク其結果ニ依リテハ本炭層ヲ南北ニ通シテ處々ニ試掘探掘ノ必要無キヲ保シ難キモ現



時本斜坑ノ狀況ヲ以テ本炭層全部ヲ推スルニ難ク茲ニ之レカ埋藏量ヲ算出セス  
 炭質 石炭ニ明炸、立炸、爆炸ノ別アリ明炸トハ無煙炭ノ義ニシテ一等炭、二等炭ニ屬シ漆黑色ヲ呈シ光澤ノ強キモ  
 ノ及鈍キモノアリ光澤ノ強キモノハ主トシテ下層炭ニ屬シ復和室ニ於ケルモノ最モ強ク大斜坑、曹家櫃、寶成室、柳  
 江ニ於ケルモノ稍鈍ク、上層炭ニ屬スルモノハ概シテ光澤鈍キモ強キ部分ヲ交ユルコトアリ、立炸トハ天然コークスノ  
 義ニシテ二等炭ニ屬シ黑色ヲ呈シ光澤ノ鈍キカ又ハ之レヲ缺キ本炭田ノ北部ニ概シテ多ク南部ニ尠シ、爆炸トハ燃燒  
 ニ際シ「ハネル」音スル石炭ノ義ニシテ二等炭ニ屬シ黑色ヲ呈シ光澤鈍ク質堅ク主トシテ上層炭ニ多シ  
 石炭一七種ヲ中央試驗所ニ於テ分析セル結果左ノ如シ(比重ハ本所分析係ニ於テ之レヲ測定ス)

水	揮	固	骸	灰	硫	發	比
分	分	定	炭	分	量	熱	重
分	分	炭	性	色	カ	量	
分	分	素	狀	相	ロ	リ	
分	分	素	狀	相	リ	重	
華興室	北井、爆炸	北井、立炸	北井、明炸	北井、明炸			
一・九一	四・六四	四・六二	二・九四	三・七九	〇・九五	四二七八	一・五五
九・三五	一三・一五	一二・一五	一〇・三〇	一一・七〇	〇・九五	四二七八	一・五五
六〇・三九	六一・五六	六五・六三	六三・三六	五七・六一	桃黄色	〇・九五	四二七八
不粘結性	不粘結性	不粘結性	不粘結性	不粘結性	桃黄色	〇・九五	四二七八
二八・三五	二六・六五	一七・六〇	二三・四〇	二六・九〇	〇・九五	四二七八	一・五五
二八・三五	二六・六五	一七・六〇	二三・四〇	二六・九〇	汚白色	〇・九五	四二七八
〇・九五	〇・四七	〇・四四	〇・八五	〇・五六	汚白色	〇・九五	四二七八
四二七八	五三〇一	五六七三	四九六三	四三七一	汚白色	四二七八	一・五五
一・五五	一・七八	一・六八	一・七四	一・七九	汚白色	四二七八	一・五五

水	揮	固	骸	灰	硫	發	比
分	分	定	炭	分	量	熱	重
分	分	炭	性	色	カ	量	
分	分	素	狀	相	ロ	リ	
分	分	素	狀	相	リ	重	
復和室	大斜井	同	明炸	曹家櫃			
一・五五	〇・九二	〇・八〇	〇・八〇	一・四〇	〇・九四	六五七二	一・四一
一・四〇	一三・三〇	九・三五	一八・五〇	一八・五〇	〇・九四	六五七二	一・四一
六六・〇〇	六一・一三	七五・四五	六一・九五	六一・九五	褐黄色	六五七二	一・四一
不粘結性	不粘結性	弱膨脹粘結性	不粘結性	不粘結性	褐黄色	六五七二	一・四一
一〇・〇五	二四・六五	一四・四〇	一八・五五	一八・五五	〇・九四	六五七二	一・四一
一〇・〇五	二四・六五	一四・四〇	一八・五五	一八・五五	白色	六五七二	一・四一
〇・九四	〇・四七	〇・四七	〇・六五	〇・六五	白色	六五七二	一・四一
六五七二	四五五七	六一六九	五五四〇	五五四〇	白色	六五七二	一・四一
一・四一	一・六六	一・四六	一・五二	一・五二	白色	六五七二	一・四一

水	揮	固	骸
分	分	定	炭
分	分	炭	性
分	分	素	狀
曹家櫃	寶成室	其謝溝	同
一・七六	〇・九七	〇・七五	〇・九二
九・六〇	二〇・六五	一〇・六〇	一五・八五
六六・六九	五五・五八	七三・四〇	五九・九八
弱膨脹粘結性	不粘結性	不粘結性	弱膨脹粘結性



比	發熱量 カロリー	硫 分	灰 分	灰 分	該 炭 性	固 定 炭 素	揮 發 分	水 分	柳江明炸		芍葯溝明炸		夏家峪明炸		同	
									類白色	桃黄色	類白色	類白色	汚白色	汚白色		
重	一・五四	〇・五二	五二七〇	二・九五	不粘結性	六三・八四	一七・八〇	〇・七六	二・二八〇	桃黄色	一・五二五	類白色	一・六二	二・三六〇	汚白色	〇・六〇
比	一・四一	〇・四一	四二七八	二・八〇	不粘結性	六〇・五四	一六・〇〇	一・二一	五〇・五一	桃黄色	一・六二	類白色	一・六二	四九六〇	汚白色	〇・六〇
種	一・七九	〇・六二	四二七八	二・八〇	不粘結性	六〇・五四	一六・〇〇	一・二一	六九一〇	高度無煙炭	一・七八	高度瀝青炭	一・七八	七二六六	汚白色	〇・七八
炭	一・四一	〇・六二	四二七八	二・八〇	不粘結性	六〇・五四	一六・〇〇	一・二一	六九一〇	高度無煙炭	一・七八	高度瀝青炭	一・七八	七二六六	汚白色	〇・七八

比	發熱量 カロリー	硫 分	灰 分	灰 分	該 炭 性	固 定 炭 素	揮 發 分	水 分	柳江明炸		芍葯溝明炸		夏家峪明炸		同	
									類白色	桃黄色	類白色	類白色	汚白色	汚白色		
重	一・四八	〇・八〇	五六三〇	二・九五	不粘結性	六三・八四	一七・八〇	〇・七六	二・二八〇	桃黄色	一・五二五	類白色	一・六二	二・三六〇	汚白色	〇・六〇
比	一・四一	〇・四一	四二七八	二・八〇	不粘結性	六〇・五四	一六・〇〇	一・二一	五〇・五一	桃黄色	一・六二	類白色	一・六二	四九六〇	汚白色	〇・六〇
種	一・七九	〇・六二	四二七八	二・八〇	不粘結性	六〇・五四	一六・〇〇	一・二一	六九一〇	高度無煙炭	一・七八	高度瀝青炭	一・七八	七二六六	汚白色	〇・七八
炭	一・四一	〇・六二	四二七八	二・八〇	不粘結性	六〇・五四	一六・〇〇	一・二一	六九一〇	高度無煙炭	一・七八	高度瀝青炭	一・七八	七二六六	汚白色	〇・七八

備考 夏家峪ヲ除ク他ノ分析試料石炭ハ下部夾炭層ニ屬スル石炭ニシテ夏家峪ノ石炭ハ上部夾炭層ニ屬ス

右分析成績ヨリ下部夾炭層ニ屬スル明炸ノ分析結果ヲ平均セルモノ、及當所編「滿洲、蒙古、西比利亞、支那鑛產物分析表」所載ノ石門寨炭四種、同開濼炭四種、同本溪湖炭七種ヲ其各ニ就キテ平均セル成分並ニ各其炭種ヲ當所編滿蒙及北支那ノ炭田」所載ノ炭種分類法ニ依リテ分類セル結果ハ左ノ如シ

水 分	揮 發 分	固 定 炭 素	該 炭 性	硫 分	灰 分	發熱量 カロリー	炭 種	下部夾炭層ノ明炸		大正三、五年 分析平均	開 濼 炭	本 溪 湖 炭
								成分ノ範圍	成分ノ平均			
〇・七六	一・三三	五五・五八	主トシテ不粘結性	〇・四四	一〇・〇五	四二七八	高度無煙炭	〇・七六	一・三三	一・六八	〇・四七	一・九八
九・三五	一・三三	五五・五八	主トシテ不粘結性	〇・四四	一〇・〇五	四二七八	高度無煙炭	九・三五	一・三三	三・八五	二・四四	二・二八
五五・五八	一・三三	五五・五八	主トシテ不粘結性	〇・四四	一〇・〇五	四二七八	高度無煙炭	五五・五八	一・三三	七四・二九	四九・九五	七六・八一
一〇・〇五	一・三三	五五・五八	主トシテ不粘結性	〇・四四	一〇・〇五	四二七八	高度無煙炭	一〇・〇五	一・三三	不粘結性	粘結性	粘結性
二・八〇	一・三三	五五・五八	主トシテ不粘結性	〇・四四	一〇・〇五	四二七八	高度無煙炭	二・八〇	一・三三	二・〇七	二・五二	一一・〇一
一〇・〇五	一・三三	五五・五八	主トシテ不粘結性	〇・四四	一〇・〇五	四二七八	高度無煙炭	一〇・〇五	一・三三	二・〇八	一・七八	〇・七八
四二七八	一・三三	五五・五八	主トシテ不粘結性	〇・四四	一〇・〇五	四二七八	高度無煙炭	四二七八	一・三三	六九一〇	一・七八	七二六六
四二七八	一・三三	五五・五八	主トシテ不粘結性	〇・四四	一〇・〇五	四二七八	高度無煙炭	四二七八	一・三三	一・五四	一・五四	一・三五
一・四一	一・三三	五五・五八	主トシテ不粘結性	〇・四四	一〇・〇五	四二七八	高度無煙炭	一・四一	一・三三	高度瀝青炭	高度瀝青炭	高度瀝青炭

右分析結果ノ比較ヨリ見ルニ本石炭ハ其分析試料ノ採取ノ時、處及方法等ニヨリ其成分ニ差異アルヘキモ概ネ大正三年同五年ニ於ケルモノヨリモ揮發分ニ於テ増加シ、固定炭素分ニ於テ減シテ炭質高度無煙炭ヨリ高度瀝青炭トナリ且ツ試料一三種（下部夾炭層ニ屬スル明炸）ノ内三種ノ弱膨脹粘結性ヲ有スルモノアリ之レヲ開濼炭及本溪湖炭ニ比ス



ルニ揮發分ニ於テ兩炭ニ劣リ、固定炭素分及灰分ニ於テ兩炭ノ間ニ位シ、硫黃分ニ於テハ兩炭ヨリ尠クシテ優リ、發熱量ニ於テハ兩炭ニ甚ク劣リテ炭質一般ニ優良ナラサルモ其之レヲ燃燒シテ煙及硫黃臭ヲ發スルコト甚ク尠キ點ニ於テ家事用トシテ良好ナリ

### 六、石炭採掘ノ狀況

#### 一、長城煤礦

開坑年	經營方法	實信審	同和審	楊樹審	華興審	華實審
民國一三	全請負稼行中止	不詳	不詳	民國一四	民國一四	民國一三
整坑、斜坑	全請負	斜坑	斜坑	斜坑	斜坑	全請負
採掘深ケ延ヒ(米)	一三〇	一	九〇	七五	九〇	九〇
採掘片盤延ヒ(米)	六〇	同和審ヨリ同益審ニ至ル各坑ハ其片盤坑道ニヨリ相通ス	二	三	三	二
炭層ノ厚サ(米)	二	不詳	一九〇	一九〇	一九〇	一九〇
採掘夫及ヒ雜夫	ナ	ナ	三三	一	一	一
ホイラ(臺)	ナ	ナ	三	一	一	一
ホイン(臺)	ナ	ナ	三	一	一	一
一日出炭量(噸)	一	七	六〇一七〇	六〇一七〇	ナ	六〇

合歩炭採	一等塊炭	二等塊炭	粉炭
北井	一〇〇	三〇五	五〇五
南大井	一〇〇	三〇五	五〇五
同益審	九〇	三〇五	五〇五
復和審	六〇	二〇〇	四〇〇
總計	一〇〇	三〇五	五〇五

開坑年	經營方法	北井	南大井	同益審	復和審
直坑	直坑	直坑	全請負	直坑	直坑
斜坑	斜坑	斜坑	斜坑	斜坑	斜坑
採掘深ケ延ヒ(米)	一五〇	一二〇	九〇	六〇	五二
採掘片盤延ヒ(米)	四	二	二	二	二
炭層ノ厚サ(米)	三二〇	二七〇	一六〇	二四	二七
採掘夫及ヒ雜夫	三	三	一	一	一
ホイラ(臺)	三	二	一	一	一
ホイン(臺)	三	二	一	一	一
一日出炭量(噸)	一〇〇	一二〇	五〇	三	三



開坑ノ年	經營方法	採掘深ク延ヒ(米)	採掘片盤延ヒ(米)	炭層ノ厚サ(米)	採掘夫及雜夫	ボイラー(臺)	ポンプ(臺)	一日出炭量(噸)	探炭	一等塊炭	二等塊炭	粉炭	合歩炭
民國五年	直營	六〇	三六〇	二・〇	六〇	一	ナシ	二五	四	四	四	二	二
民國四年	直營	不詳	不詳	不詳	不詳	一	ナシ	ナシ	四	四	四	二	二
民國一〇	全請	不詳	不詳	不詳	不詳	手捲	ナシ	二〇	四	四	四	二	二
民國二年	直營	三〇〇	三〇〇	二・五	二二〇	三	七	三〇—五〇	四	四	四	二	二
計									四	四	四	二	二
計									五五〇				

備考 全請負トハ開坑及採掘ニ要スル諸費用一切ヲ請負人ノ負擔トシ半請負トハ「ボイラー」「ポンプ」軌道及其他ノ器具ヲ山元ニ於テ負擔シ請負人ハ單ニ掘進及採炭ヲ請負フモノトシ何レモ其採掘セル石炭ハ一定ノ價格ヲ以テ買上ケルモノトス其價格一應當リ左ノ如シ

二、泰記煤鑛 休山  
三、寶成煤鑛

開坑ノ年	經營方法	採掘深ク延ヒ(米)	採掘片盤延ヒ(米)	炭層ノ厚サ(米)	採掘夫及雜夫	一日出炭量(噸)	其謝溝	早呼嶺	寶成鑛
民國一三	全請	一八〇	一八〇	一・二	三〇	一五	溝	嶺	鑛
民國一〇	全請	六〇	六〇	不詳	二〇	八	溝	嶺	鑛
民國五年	直營	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	溝	嶺	鑛
計							溝	嶺	鑛
計							一八三		

備考 請負掘ニヨル石炭一應買上ケ價格左ノ如シ(大洋)  
一等塊炭 二・九〇  
粉炭 一・〇〇

四、柳江煤鑛

支那鑛業時報 第六十九號



開坑ノ年	經營方法	柳江	芍葯坑	新斜坑	舊斜坑
民國三	直營	三〇〇	二五	一〇内外	二一三
民國一四	請資	六〇	一〇内外	〇・三五	〇・七五
民國一五	泰記煤礦ヨリ借區泰記煤礦ヨリ借區	一	一〇内外	九〇	七五
斜坑、堅坑	斜坑(一)	三〇	坑内ニ於テ舊斜坑ニ通セントス	七五	計
斜坑深ク延ヒ(米)	坑口ヨリ七〇〇	二五	〇・三五	九〇	三二八
探掘片盤延ヒ(米)	一二〇〇	六〇	一〇内外	〇・七五	
炭層ノ厚サ(米)	六	一	一〇内外	〇・三五	
探掘夫及雜夫	不詳	二五	一〇内外	〇・三五	
一日出炭量(噸)	三〇〇	二五	一〇内外	〇・三五	

### 七、耐火粘土層

本炭田ニ於ケル耐火粘土層ハ下層、中層及上層ノ三層アリ下層ハ下部砂岩層又ハ下部夾炭層ノ下部ニアリテ奥陶紀石灰岩層ト相接シ、中層ハ上部砂岩層ノ下部、上層ハ上部砂岩層ノ上部ニ胚胎ス、該三耐火粘土層ハ何レモ本溪湖、煙臺、五湖嘴ノ各炭田ニ於ケル耐火粘土層ト其地質及層位ヲ同フシ其層位ヲ對比スルニ下層ハG層ニ、中層ハA層ニ、上層ハa層(青色粘土層)ニ該當ス

G層(下層) ハ湖水峪ノ南西方約〇・九杆ノ山腹及石門寨城壁ノ西方約〇・三杆ノ坂路ニ露出シ何レモ厚サ二米乃至四米ニシテ灰白色、黄色、紫色又ハ黄綠色ヲ呈ス

米ニシテ灰白色、黄色、紫色又ハ黄綠色ヲ呈ス

A層(中層) ハ望寶窑區域王義山堅坑ノ西部ヨリ曹家櫃堅坑間ノ丘陵地、柳江ノ南方約〇・七杆ナル山道ノ東側及二龍山ノ北部山麓ニ露出シ厚サ何レモ四米内外ニシテ灰白色、黄色、黄綠色ヲ呈シ時ニ鱗狀構造ヲ呈スルコトアリ本耐火粘土層ハ煙臺炭田ニ於ケル礬土頁岩層ニ該當シ重要ナルヘク今後ノ注意ヲ必要トス

G層(上層) ハ半壁溝ノ南方〇・五杆ナル輕便鐵道線ノ西側ニ露出シ厚サ二米内外ニシテ灰色乃至灰青色ヲ呈シA層及G層ニ比シ軟ク多少粘着性アリ

該耐火粘土ヲ中央試驗所ニ於テ分析セル結果左ノ如シ(百分中)

	無水	硅酸	礬	土	酸化	鐵	耐火度セーゲル三角錐
G層(灰青色) 湖水峪	四四・四四	三九・〇八	二・四一	三四・七七	九・七八	三〇番	三四番
A層(黄色) 望寶窑	四〇・六三	三三・〇二	三・二一	四七・四二	一五・八二	三四番	三四番
A層(灰青色) 同	四三・九一	三七・〇二	三・二一	四〇・八八	三・三九	三四番	三四番
A層(綠灰色) 同	二四・二六	四七・四二	一五・八二	四〇・八八	三・三九	三四番	三四番
a層(灰色) 半壁溝	四三・二三	四〇・八八	三・三九	四〇・〇〇	七・〇〇	三四番	三四番
平均(約)	三九・〇〇	四〇・〇〇	七・〇〇	四〇・〇〇	七・〇〇	三四番	三四番
煙臺產礬土頁岩(平均約)	三〇・〇〇	四三・〇〇	一一・〇〇	四三・〇〇	一一・〇〇		

之レヲ煙臺產礬土頁岩及復州耐火粘土ノ分析結果ト比較スルニ左ノ如シ



復州耐火粘土(約)

四四・〇〇

三七・〇〇

一・六〇

三三—三五番

依リテ本耐火粘土ハ煙臺產礬土頁岩ニ比シ鐵分少ナキモ硅酸分多ク礬土分一般ニ稍少ナクシテ礬土頁岩トシテ其實稍劣レルカ如ク復州耐火粘土ニ比シ鐵分多キモ尙且ツ耐火度三三番内外ニシテ耐火粘土トシテ十分使用ニ適スヘシ

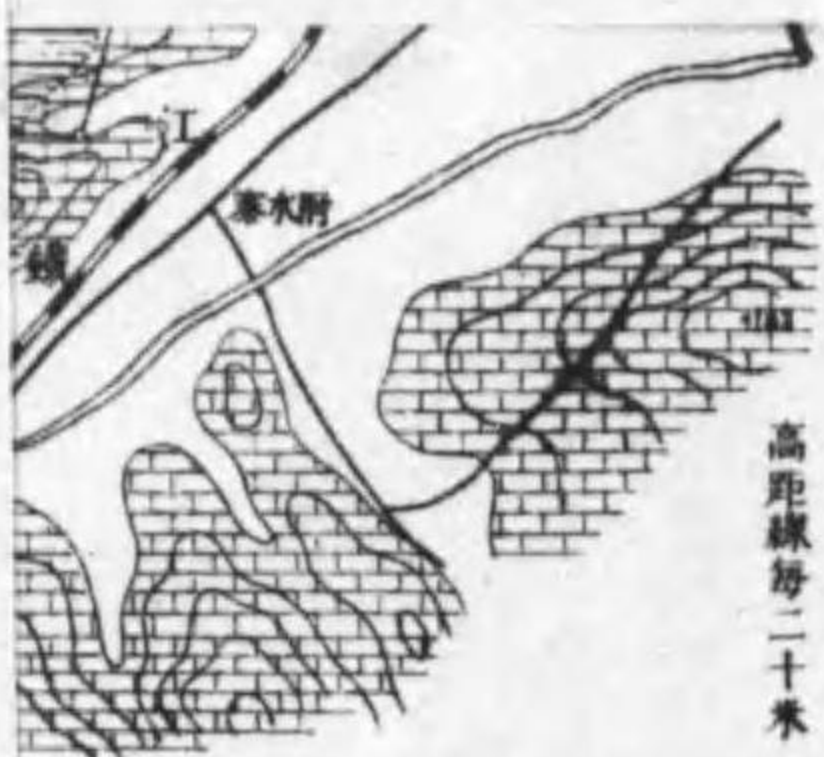
### 八、結 章

- 一 調査地域ハ石門寨炭田ノ東部及南東部ニ位シ本炭田ノ大部分ヲ占メ東西約五・五軒、南北約一三軒ノ區域ナリ
- 一 本地域ニ四煤鑛公司アリ北部ヨリ順次長城煤鑛公司、泰記煤鑛公司、寶成煤鑛公司、及柳江煤鑛公司ニシテ長城煤鑛及柳江煤鑛ヨリハ各秦皇島ニ至ル間專用輕便鐵道敷設セラレ秦皇島ニ於テ開灤炭鑛社鐵道ニ聯絡シ以テ埠頭ニ通ス

現時長城煤鑛ニ於テハ四堅坑、九斜坑ニヨリ一日五五〇噸内外ヲ、寶成煤鑛ニ於テハ一堅坑二斜坑ニヨリ一日二〇〇噸内外ヲ、柳江煤鑛ニ於テハ五斜坑ニヨリ一日三〇〇噸内外ヲ採炭シ合計約一、〇〇〇噸内外ナリ

一 炭層ハ下部夾炭層及上部夾炭層中ニ夾在シ、下部夾炭層ニ屬スル炭層ハ北ハ王家山ヨリ南ハ二龍山ニ至ル南北約一〇軒ニ亘リ賦存シ略西方ニ二〇度ニ傾斜シ二層アリ厚サ上層ハ〇・七五米乃至四米ニシテ平均二米、下層ハ〇・七五米乃至六米ニシテ平均二・三米合計四・三米ナリ(中略)

上部夾炭層ハ下部夾炭層ノ上位ニアリテ北ハ王家山ヨリ南ハ桃園ニ至ル南北約一〇軒ニ亘リ敷衍シ西方ニ一五度乃至六〇度内外ニ傾斜シ之レヲ被覆スル火山岩トノ界ニ近ク無數ノ採掘跡及現ニ稼行中ノ二斜坑アリ、該斜坑ニ於テハ

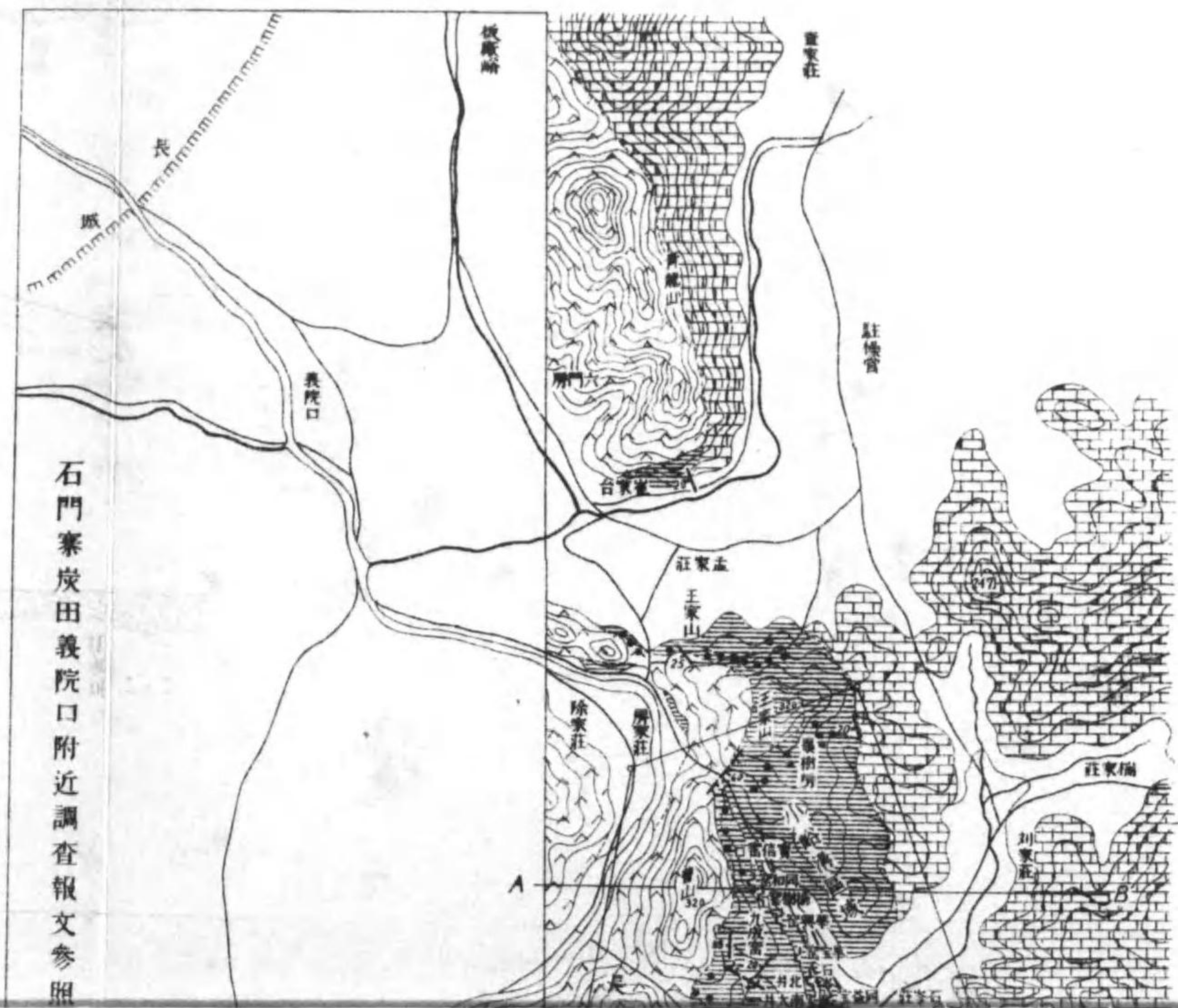


九 斜坑 採掘跡 區區界 試鑛跡



石門寨炭田地形地質圖

縮尺 四万八千

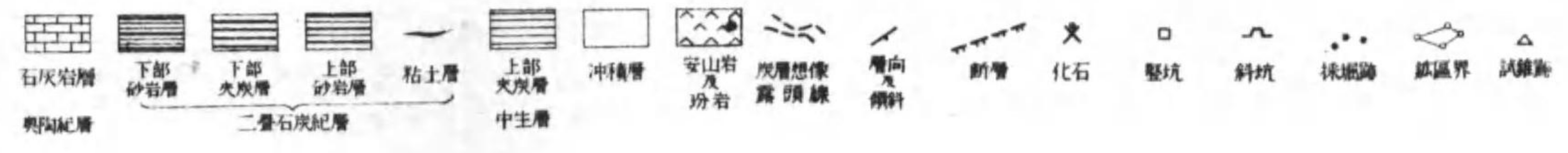
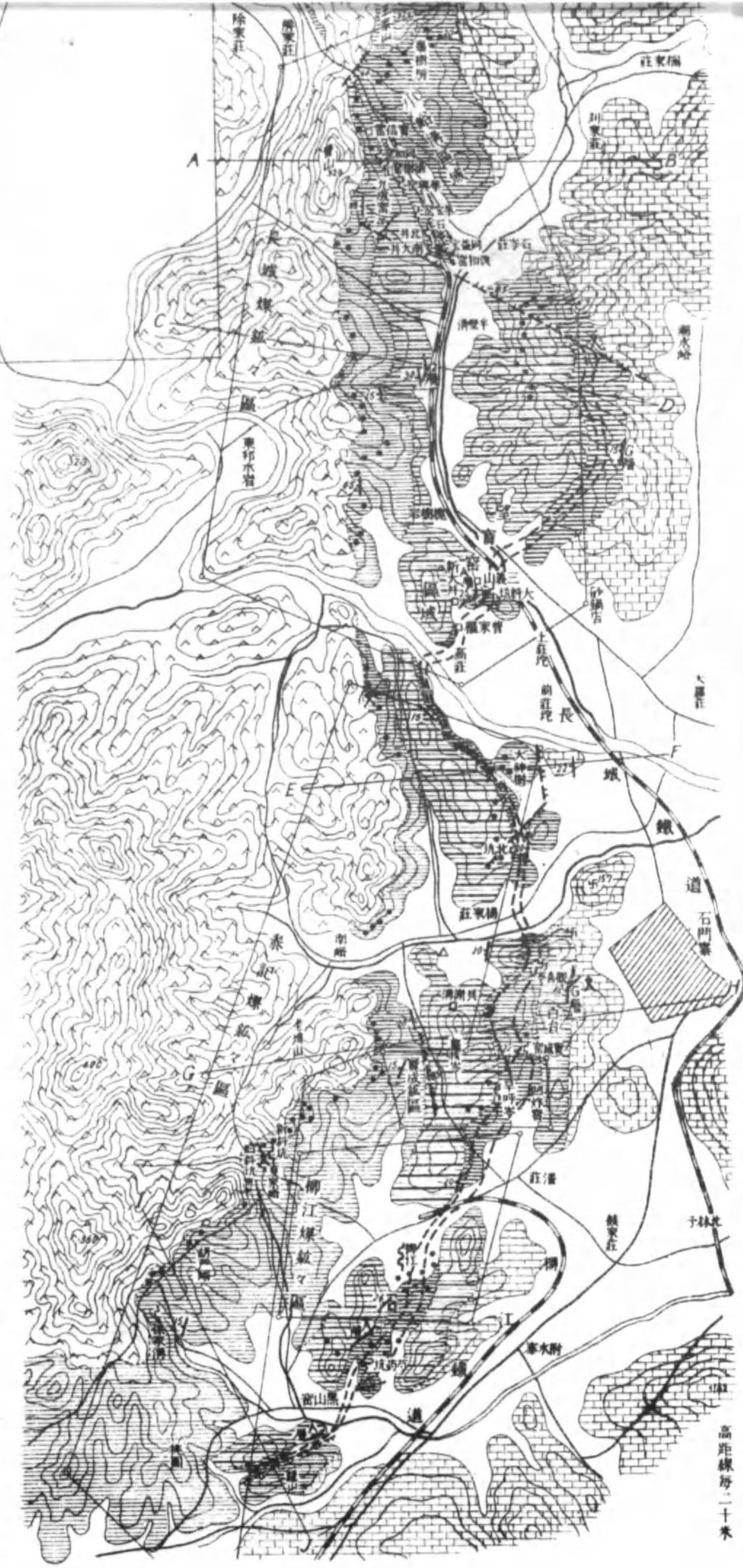
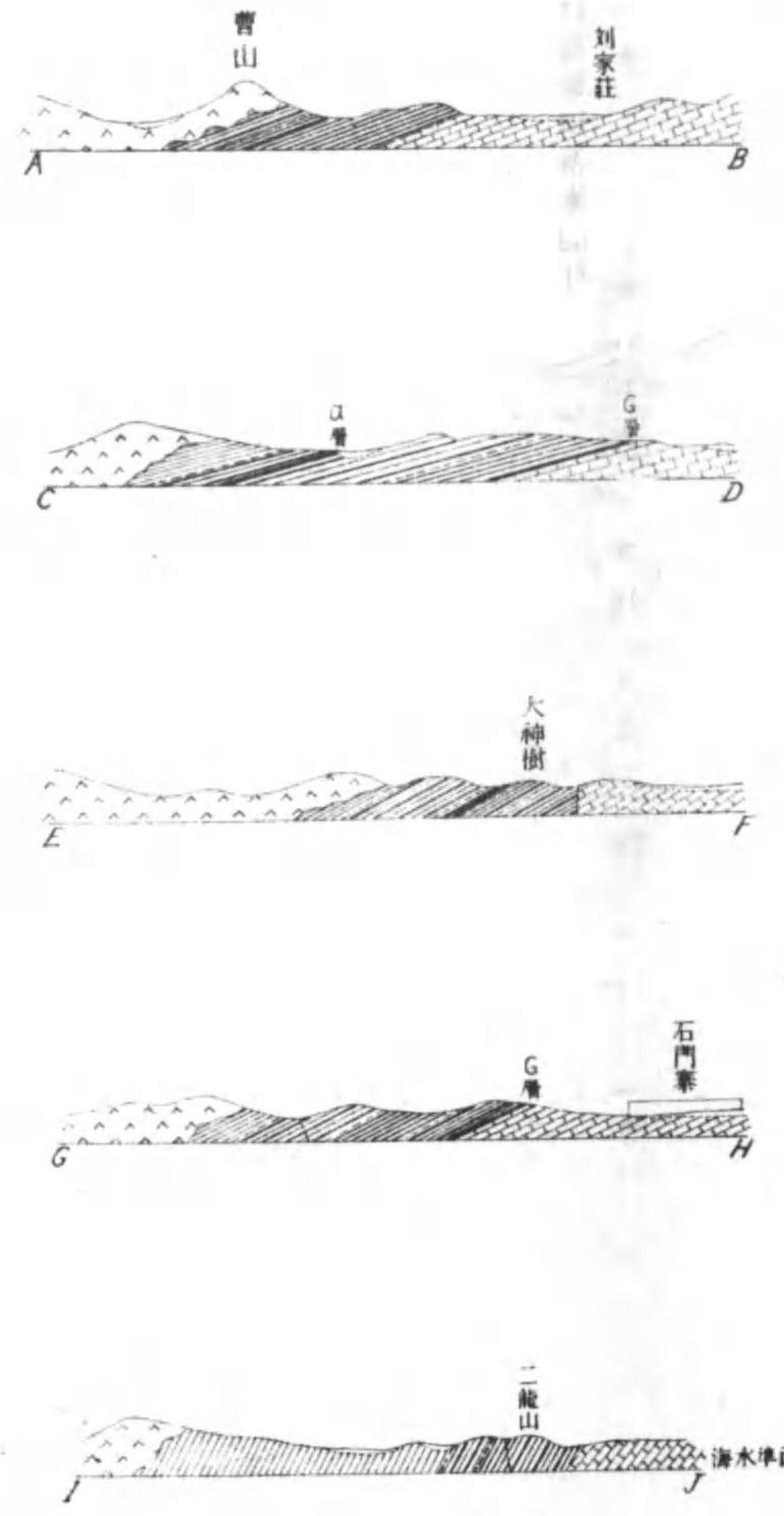




圖

縮尺 四万八千分之二

山口附近調査報文参照



○越内外ヲ、柳江煤鑛ニ於テハ五斜坑ニヨリ一日三〇〇越内外ヲ採炭シテ合計約一〇〇〇噸ニ至ル

一 炭層ハ下部夾炭層及上部夾炭層中ニ夾在シ、下部夾炭層ニ屬スル炭層ハ北ハ王家山ヨリ南ハ二龍山ニ至ル南北約一〇軒ニ亘リ賦存シ略西方ニ二〇度ニ傾斜シ二層アリ厚サ上層ハ〇・七五米乃至四米ニシテ平均二米、下層ハ〇・七五米乃至六米ニシテ平均二・三米合計四・三米ナリ(中略)

上部夾炭層ハ下部夾炭層ノ上位ニアリテ北ハ王家山ヨリ南ハ桃園ニ至ル南北約一〇軒ニ亘リ敷衍シ西方ニ一五度乃至六〇度内外ニ傾斜シ之レヲ被覆スル火山岩トノ界ニ近ク無數ノ採掘跡及現ニ稼行中ノ二斜坑アリ、該斜坑ニ於テハ



炭層ハ一層ニシテ厚サ平均〇・五米ナリ、其深ケ部ノ掘進一〇〇米ニシテ未タ火山岩ニヨリテ遮斷セラレサルモ早晚之レニ會スヘク故ニ本坑道ノ掘進ニヨリテ火山岩ト炭層ノ關係ヲ明カニスルヲ得ヘク其結果ニヨリテハ本炭層ヲ南北ニ通シテ處々ニ試掘探鑛ノ要ナキヲ保シ難キモ現時ノ狀況ヲ以テ本炭層全部ヲ推スルニ難ク茲ニ其埋藏量ヲ算出セス

一、炭質ハ一般ニ半無煙炭乃至高度瀝青炭ニ屬シ不粘結性ニシテ灰分平均二〇%内外、發熱量平均五三五五カロリーニシテ炭質概ネ優良ナラサルモ之レヲ燃燒シテ煙、及硫黃臭ヲ發スルコト甚タ尠ク家事用トシテ良好ナリ

一、耐火粘土層ハ三層アリ何レモ煙臺、本溪湖及五湖嘴ノ各炭田ニ於ケル粘土層ト其地質及層位ヲ同ウシ之レヲ對比スルニ其G層、A層及a層ニ該當シテ其性質亦類似シ其耐火度ニ於テG層粘土ハ三四番、A層粘土ハ三二番、a層粘土ハ三四番ニシテ何レモ耐火粘土トシテ使用ニ適スヘシ

由是觀之本炭田ハ秦皇島ニ近ク且ツ既ニ二輕便鐵道ノ敷設ニヨリテ交通運搬ノ便開ケ炭層ハ二夾炭層中ニ夾在シ何レモ南北ニ約一〇軒ニ亘リ略整然トシテ敷衍ス(中略)上部夾炭層ニ屬スル炭層ハ現時ノ狀況ニ於テハ未タ其埋藏量ヲ算出スルニ難キモ試掘ノ結果ニヨリテハ之レカ埋藏量ヲ概算スルコトヲ得ヘク從ツテ之レト共ニ下部夾炭層ニ屬スル炭層ノ埋藏量モ増加スルコトナキヲ保シ難シ、炭質ハ灰分多ク發熱量少ナキモ硫黃分尠ク無煙ナル點ニ於テ家事用燃料トシテ良好ニテ京奉線沿線附近ニ於テ重要ナル炭田ノ一タルヘシ



# 直隸省臨榆縣石門寨炭田義院口附近調查報文

地質調査所員 木村六郎  
大羽時男

## 一、緒言 (第一圖参照)

茲ニ石門寨炭田ト稱スルハ直隸省秦王島驛ノ北方約一七軒ナル石門寨附近ニ廣域ニ敷衍スル炭田ヲ總稱シ東ハ湖水略及石門寨ニヨリ、西ハ義院口及山陽寨ニヨリ、北ハ板廠峪及查家莊ニヨリ、南ハ黑山窟附近ニヨリ圍繞セラルル東西約五・五軒、南北約一三軒、面積七一・五平方軒ノ地域ヲ占メ往時隋唐ノ代朝鮮人ニヨリテ開採セラレタルヲ本炭田開發ノ濫觴トシ康熙年間支那人ニヨリ稼行セラレ光緒年間最モ盛シニシテ義院口、石嶺庄芍葯坑及黑山窟等其他隨所ニ採掘セラレシモ開採炭ノ採掘セラルルニ及ヒ之レカ影響ニ災セラレテ殆ント休山ノ止ムナキニ至レリ民國ニ至リテ本石炭ノ無煙炭ナルニヨリ特殊用途ニ漸次需用増加シ現時上壯坵ニ於ケル長城煤鐵公司最モ盛ニシテ一日ノ出炭量二五〇噸内外ニシテ柳江及板廠峪之レニ亞ク

大正十五年十月本炭田ノ西北部ナル義院口附近ノ炭田殊ニ之レニ合マルル趙家昇及其子息趙毓蔡ノ所有ニ係ル四礦區ニ就キ之レヲ調査セリ、竝ニ其結果ヲ報告ス

## 二、位置及交通 (第一及第二圖参照)

### 第一圖 石門寨炭田交通圖

縮尺二十万分之一



XXXXXXXXXX  
10987654321  
黑山窟 芍葯坑 趙家昇 義院口  
山陽寨 板廠峪 查家莊 石門寨  
海陽鎮 長城煤鐵公司



調査地域ハ石門寨炭田ノ北西部ニ位シ東ハ板廠峪、東山及老君頂ニヨリ、西ハ營房ニヨリ、南ハ龍莊ニヨリ、北ハ板廠峪ニヨリ圍繞セラルル東西ニ約二軒、南北ニ約五軒面積一〇平方軒ノ地域ヲ占メ其南部ナル唐家房ヨリ南東方約六軒ナル上莊坨ニ至ル間ハ略ホ石河ノ支流及本流ニ沿ヒ道路平坦ナルモ主トシテ石河ノ河床ニシテ砂礫多ク車馬ノ交通ニ便ナラスシテ驢背ニ依ル、上莊坨ヨリ秦王島海岸ニ至ル間ハ直距約二二軒ニシテ長サ約二五軒ノ長城輕便鐵道アリテ長城煤鑛公司ニ於テ主トシテ其産スル所ノ石炭及旅客ノ輸送ニ供セラレ一日四回ノ往復アリ其他石門寨炭田ノ南部ニ位スル柳江ヨリハ秦王島海岸ニ至ル柳江輕便鐵道敷設セラレ主トシテ柳江ニ於ケル石炭ノ輸送ニ供セラルルノ外本地域ニ於ケル榆寧煤鑛公司ニ於テハ義院口ヨリ南方ニ唐家房、山陽寨、杜莊及海陽鎮等ヲ經テ秦王島海岸ニ至ル約三〇軒ノ間ニ榆寧公司輕便鐵道敷設ノ計畫アリ

### 三、沿革及鑛區

本地域ノ石炭ハ光緒十九年ヨリ同二十一年ニ至ル二箇年間盛ニ採掘セラレシモ唐山炭ノタメニ驅逐セラレテ休山シ其後邵金棟朱海山、張德舉及劉某等ニヨリテ再興センモ或ハ侵掘事件惹起ノタメ或ハ資金缺乏ノタメ休山セリ現時趙家昇及其子息趙毓蔡之レヲ繼承シ板廠峪ニ於テ石炭ヲ採掘ス該鑛區次ノ如シ

#### 一、開採英毅有限公司

直隸省臨榆縣義院口南操場蔡莊附近一帶地方

民産計 面積 九方里二百六十九畝三分九厘六毫六糸

呈請人 趙毓蔡



二、開採 鑛 區

直隸省臨榆縣城西北猴兒產石虎嶺楊家山崔家窪等處附近地方  
民產計 面積 九方里一百九十八畝三分一厘二毫五糸

呈請人 趙 家 昇

三、開採 正昌煤鑛有限公司

直隸省臨榆縣老君頂附近連家山地方  
民地計 面積 二方里四百二十八畝二分六厘八毫六糸

呈請人 趙 家 昇

四、開採 英毅有限公司

直隸省臨榆縣城西北板廠峪莊曹家房附近大管地何家地方  
民山計 面積 二方里五百二畝二厘九毫一糸

呈請人 趙 毓 蔡

四、地勢及地質

本地域ハ地形上山地及平地ニ分テ得

山地ハ地域ノ東部及西部ニ南北ニ亘リ連亘シ高距海拔三〇〇米乃至四〇〇米(平地々並ヨリ高サ二〇〇米乃至三〇〇米)ニシテ山側ノ傾斜稍急峻ナリ、平地ハ主トシテ東西二山地ノ間ニ敷衍シ其義院口附近ニ於ケルモノハ石河ノ流

域ニ沿ヒ稍廣潤ニシテ板廠峪附近及連家山附近ニ於ケルモノハ南北ニ狹長ナリ

地質ハ奥陶紀層、石炭紀層、中生層(○)沖積層、安山岩及玢岩並ニ石英斑岩ヨリ成ル

奥陶紀層ハ本地域ノ南西部ニ小區域ヲ占メ石炭紀層ニヨリ不整合ニ被覆セラレ安山岩ニヨリ貫カル本層ハ石門寨附近ニ於ケル石灰岩層ト同一層位ニ屬シ主トシテ灰黑色緻密ノ石灰岩ヨリ成リ南北ニ走り東方ニ三〇度ニ傾斜ス本層ハ連家山ノ西方溪谷ニ於テ石灰ノ燒成ニ供セラレタルコトアリ

石炭紀層ハ山地ノ中腹及山麓ニ敷衍シ本地域ノ南半部即チ大柳樹以南ニ於テハ概ネ南北乃至北二〇度東ニ走り東方又ハ南東方ニ三〇度乃至六〇度ニ傾斜シテ單斜構造ヲ成シ北半部即チ大柳樹以北ニ於テハ大柳樹附近ヲ略北東—南西ニ走ル斷層ニ依リテ變位シ大柳樹附近ニ於テハ北三〇度又ハ六〇度東ニ走り北西方ニ四〇度又ハ五五度ニ傾斜シ義院口附近ニ於テハ南北又ハ北五〇度西ニ走り南西方ニ二〇度内外ニ傾斜シテ毛家溝、大柳樹、桃樹溝及義院口ニヨリ圍繞スル一ノ半穹隆狀向斜構造ヲ成ス

本層ハ其岩質及層序ニヨリテ下部ヨリ順次下部砂岩疊岩層、下部夾炭層及上部砂岩疊岩層ヨリ成ル、下部砂岩疊岩層ハ本地域ノ南西部ニ小區域ニ露出シ石灰岩層ヲ不整合ニ被覆シ砂岩及疊岩ノ累層ヨリ成リ砂岩ハ黃褐色ヲ呈シテ堅ク疊岩ハ圓礫ノ大サ一糶乃至二〇糶ノ花崗岩及珪岩ノ凝灰質砂ヲ以テ膠結セラレタルモノナリ、下部夾炭層ハ南部ニ於テハ李莊及連家山附近、中部ニ於テハ崔家窪附近、北部ニ於テハ義院口及板廠峪附近ニ分布シ主トシテ黑色頁岩及灰綠色砂質頁岩ノ互層ヨリ成リ二層又ハ三層ノ炭層及砂岩ノ薄層ヲ夾有ス頁岩ハ概ネ葉狀乃至板狀ニ剝離シ易ク時ニ角割レスルモノアリ、下部砂岩疊岩層ハ本地域ノ南部ニ於テハ關莊、楊山及毛家溝附近、北部ニ於テハ義院口附近ニ稍廣域ニ分布シ主トシテ砂岩及疊岩ノ累層ヨリ成リ砂岩ハ細粒ニシテ堅ク褐色ヲ呈シ疊岩ハ圓礫ノ大サ概ネ一糶乃至



三、柳ノ硅岩礫ノ石英砂ヲ以テ膠結セラレタルモノニシテ時ニ砂岩及頁岩ノ薄層ヲ夾有ス  
 該石炭紀層ハ石門寨附近及柳江附近ニ於ケル石炭紀層ト其岩質及層序ヲ同シウシ且ツ石門寨附近大柳樹ニ於テハ元  
 所員阪倉氏ニ據レハ鱗木、封印木及蘆木ノ植物化石ヲ産セリト云ヒ柳江附近ニ於テハ中華民國農商部地質調査所地質  
 彙報ニ據レハ「ペコプテリス」及「ニウロプテリス」ナル植物化石ヲ産スト云フ  
 中生層(〇)ハ上部夾炭層ヲ構成シ老君頂ノ西部山側及義院口ノ北部山側ニ分布シ主トシテ黑色頁岩、及灰綠色頁岩  
 ノ互層ヨリ成リ二層ノ炭層、砂岩及礫質砂岩ヲ夾有ス沖積層ハ石河ノ沿岸ニ廣域ニ板廠峪及連家山附近ニ於テハ狹長  
 ニ敷衍シ主トシテ砂及礫ヨリ成ル

安山岩及玢岩ハ山地ヲ構成シ安山岩ハ連家山ノ西方、毛家溝ノ北西方ニ於テハ石灰岩層、下部砂岩疊岩層及下部夾  
 炭層ヲ貫キテ岩脈ヲ成シ又ハ一部熔岩流ヲナシ玢岩ハ老君頂ニ於テハ上部夾炭層ヲ貫キ、東山ニ於テハ下部夾炭層及  
 上部砂岩疊岩層ヲ貫キ、義院口北部山地ニ於テハ上下ノ兩夾炭層上ニ主トシテ熔岩流又ハ岩脈ヲ成ス

### 五、炭層賦存ノ狀況

炭層ハ(一)下部夾炭層及(二)上部夾炭層中ニ夾在シ其主トシテ探掘セラレ又ハ嘗テ探掘セラレタルハ下部夾炭層ニアリ  
 テハ(イ)板廠峪、(ロ)義院口、(ハ)毛家溝及(ニ)連家山ニシテ上部夾炭層ニアリテハ(イ)義院口、(ロ)楊山及(ハ)老君頂南西部ナリ  
 トス

(一) 下部夾炭層ニ屬スル炭層

(イ) 板廠峪ニ於ケル炭層ハ上層及下層ノ二層アリ、下層ハ之レヲ趙氏ニ聞クニ民國十三年十月ノ開採ニ係リ坑口ヨ

リ斜坑ニヨリ掘進シ約一〇〇米ニシテ民國十四年一月着炭シ炭層ノ厚サ約三米ニシテ坑口ヨリ探炭切羽迄約二〇〇米  
 ノ間掘進シテ約五、〇〇〇噸ヲ探掘セリト云フ、民國十五年夏季ノ大雨ニ依リ湧水多量ニ増加シテ排水作業困難トナ  
 リ探掘ヲ休止セルモ來ル冬期ニ於テ再ヒ作業開始ノ筈ナリ、上層ヲ探掘スル坑口ハ平地並上約三〇米ノ山側ニ開坑ス  
 本坑ハ民國八年ノ開採ニ係リ坑口ヨリ北方ニ三〇度乃至六〇度ニ傾斜スル斜坑ニシテ約三〇〇米アリ炭層ハ北六〇度  
 東ニ走リ北方ニ二〇度ニ傾斜シ厚サ〇・八米乃至七米ニシテ扁桃狀ヲ呈シ厚薄定マラス

本炭層ハ其層向ノ方向ニ安山岩及玢岩ノ噴出ニ依リ遮斷セラレ其賦存ノ區域狹小ナリ

(ロ) 上層ハ現時本地域ニ於テ稼行セラレル炭層ニシテ探炭夫四人、運搬夫六―七人ニ依リ一日約六千斤ヲ探炭セラレ百  
 斤ノ賣價山元ニ於テ小洋五十仙ヲ以テ附近部落ノ需要ニ供セラレ

坑道ハ概ネ二尺×三尺ノ加脊ニシテ上層坑道ニ於テハ湧水皆無ニシテ乾固シ下層坑道ニ於テハ湧水量多ク稼行富時  
 「コルニシポイラー」ニ基ヲ以テ「ヲシントン、ポンプ」三基ヲ運轉シ以テ排水セラレタリ、通氣ハ何レモ自然通風ニ委  
 シ坑内ニ瓦斯ヲ發生セス

(ロ) 義院口ニ於ケル下部夾炭層ニ屬スル炭層ハ該部落ノ北方山麓ニ於テ探掘セラレタルモノノ如クニシテ數箇處ニ  
 坑口跡存スルモ二〇年來休山シ炭層ノ狀況ヲ詳カニセス、該夾炭層ハ義院口、大柳樹及毛家溝附近ニ於ケル其層  
 向及傾斜ヨリ推スルニ石河流域ノ平地ニ於テ半穹窿狀ノ向斜構造ヲ成セルモノノ如ク從ツテ該平地ニ於テハ  
 炭層ノ賦存スルコト無キヲ保シ難ク且ツ地人ノ言ニ據レハ義院口及河南西方ノ井戸(第二圖參照)ニ於テハ其掘鑿  
 ノ當時深サ七―八米ノ底部ニ炭層賦存セリト稱セラルルヲ以テ該井戸ヲ更ニ掘鑿スルカ又ハ其附近ニ試錐シテ以  
 テ炭層賦存ノ決定、炭層ノ厚サ及炭質並ニ湧水量等ニ關シ調査スルコト肝要ナリ



(ハ) 毛家溝ニ於ケル炭層ハ部落ノ東方山腹ニ於テ採掘セラレタルモノノ如ク數箇處ニ坑口跡アリ、該炭層ハ從來地  
 人カ隨時家事用トシテ採掘セラレタルモノナリシカ民國八年趙氏玆ニ開坑シ長サ一五米ノ斜坑ニヨリテ着炭シテ  
 五〇〇噸ヲ採掘セルモ坑内湧水量多クシテ排水困難トナリ稼行ヲ中止セリト云フ

(ニ) 連家山ニ於ケル炭層ハ從來地人ニ依リ隨時採掘セシメタルコトアリト稱セララルモ之レヲ詳カニセス民國七年  
 ニ至リテ連家山附近ニ趙氏斜坑ヲ六箇所ニ開坑シテ採炭セリト云フ現時坑口ハ何レモ溜水又ハ崩壞セルタメ入坑  
 シテ調査スルニ難シ之レヲ趙氏ニ聞クニ坑道ハ何レモ概ネ斜距離二五米内外ニシテ着炭シ炭層ニ沿ヒ長サ三〇米  
 乃至六〇米ノ間掘進シ炭層ハ三層ニシテ下部ニ厚サ三米ノ鐵炸層、之レヨリ二・三米上ニ厚サ二・五米ノ立炸層、  
 及之レヨリ九米上ニ厚サ二米ノ明炸層アリテ立炸層炭及明炸層炭ハ何レモ鉛黑色金屬光澤ヲ呈シ大塊ニ採掘スル  
 コトヲ得テ炭質良好ニ、鐵炸層炭ハ稍硫黃分ヲ多量ニ含有シ是等炭層ハ稼行當時ニ於テ使用人員二〇〇名ニシテ  
 出炭量總合計約三萬噸ニ達シタリト云フ

(二) 上部夾炭層ニ屬スル炭層

(イ) 義院口ニ於ケル炭層ハ二〇年以前ノ採掘ニ係リテ現時數箇所ニ其坑口跡ヲ止ムルニ過キスシテ坑内炭層賦存ノ  
 狀況ヲ詳カニセス惟フニ本炭層ハ其北東部ニ於テハ安山岩ニヨリテ被覆又ハ貫カレ南西部ハ既ニ石河ニヨリテ蝕  
 磨流出セラレタリ

(ロ) 楊山ニ於ケル炭層ハ民國十年趙氏ニヨリテ開坑セラレタル北側斜面ニ於ケル水平坑道ニヨリ約三箇月間ニ三〇  
 〇〇噸ヲ採掘セラレタルモ洪水氾濫ノタメ坑道崩壞シ採掘ヲ中止セリト云フ

(ハ) 老君頂南西部ニ於テハ民國八年趙氏數箇處ニ斜坑ヲ開坑シ何レモ斜距離約三〇米ニテ着炭シ約三〇〇〇噸ヲ採

掘セリト云フ惟フニ本炭層ハ其東方深ケ部ニ於テ玆岩ノ噴出ニ依リ遮斷セララルヘク多ク重要ナラサルカ如シ

要之 本地域ノ炭層ハ板廠峪ニ於テ採掘セララルモノ以外ハ皆採掘跡ニ屬シ其坑口ハ埋没又ハ溜水セルカ爲メ入坑シ  
 テ其賦存ノ状態ヲ明カニナシ難ク專ラ趙氏ノ言ニ據ラサルヘカラスシテ未タ充分ナラス、從ツテ其埋藏量ハ試掘ノ結  
 果ニ俟タサレハ之レヲ明カニナシ難キモ板廠峪ニ於ケル炭層ハ其層向ニ富リテ何レモ安山岩及玆岩ノ噴出ニヨリテ遮  
 斷セララルヘクシテ其埋藏量ノ多キヲ期待シ難ク、義院口ニ於ケル上部夾炭層ニ屬スル炭層ハ北東部ハ安山岩ニヨリ遮  
 斷セラレ南西部ハ既ニ石河ニヨリテ蝕磨流出セラレ、老君頂ノ西部山腹ニ於ケル上部夾炭層ニ屬スル炭層ハ其東部ニ  
 於ケル玆岩ノ噴出ニヨリテ其深ケ部遮斷セラレ何レモ重要ナラサルヘク、義院口ニ於ケル下部夾炭層ニ屬スル炭層ハ  
 義院口附近平地ニ於ケル三試錐ニヨリ(第二圖參照)毛家溝及崔家窪ニ於ケル炭層ハ二試錐ニヨリ、連家山附近ニ於ケ  
 ル炭層ハ李莊ノ東方及連家山ニ於ケル二試錐ニヨリ何レモ炭層賦存ノ決定、炭層ノ厚サ、炭質等ニ關シ調査スルコト  
 肝要ナリ

六、炭 質

調査當時上部夾炭層ハ之レヲ稼行セル箇所ナク又貯炭無カリシカ故ニ炭質不明ナルモ下部夾炭層ハ現在板廠峪ニ於  
 テ稼行シ唐家房區域ニテハ目下休山中ナルモ稼行當時ノ貯炭ニ就キテ見ルコトヲ得タリ

水	分	一 板廠峪宿火炭號	二 板廠峪燬石號	三 板廠峪上層號	四 連家山鐵炸層號	五 連家山明炸層號
		三〇・三%	六・一六%	六・六〇%	五・七八%	六・七六%



揮發分	固定炭素	灰分	灰分	硫	發熱量
六〇・五%	六五・九九%	不粘結性	二四・九三%	〇・一一%	四五四八
一三・六八%	六九・八八%	不粘結性	一〇・二八%	〇・一五%	五三二六
九・四五%	七五・九二%	不粘結性	八・〇三%	〇・四九%	五六三三
八・八五%	六三・九七%	不粘結性	二一・四〇%	〇・四八%	四六四一
九・一三%	六八・七六%	不粘結性	一五・三五%	〇・五四%	五二二四

三四

炭質ハ不粘結性無煙炭ニシテ多クハ黑色乃至漆黑色ノ光澤アリ炭質必スシモ一様ナラス板廠略ニテハ火山岩ノ影響ヲ受ケテ燻石、宿火炭(天然木炭)ヲ産スルコトアリ固定炭素量ノ大ナル割合ニ發熱量高カラス

硫黃分少ク純無煙ナルヲ以テ暖房、炊事用燃料等家庭用炭トシテ優良ナリ且ツ石灰燒及煉瓦畜用トシテ燻石、宿火炭等ハ特ニ適當ナリ

粘土層

連家山炭坑事務所ノ南三百米各澤ノ西側山麓ニ小廟アリ此ノ附近ニ淡褐色、灰青色或ハ黃色ヲ呈スル堅緻ナル粘土層ノ露頭アリ(分析試料六號及七號)本粘土層ハ上部砂岩層ノ下部ニ位シ層向北二〇度東、傾斜ハ東へ五〇度ニ傾キ南方へ相當連續スルモノノ如シ層ノ厚サ二米内外ニシテ探掘ハ露天掘可能ナリ就中黃色ノモノ多量ナルカ耐火度ゼーゲル錐三三番ヲ示シ灰青色ノモノハ酸化鐵ノ含有量多ク從テ耐火度低クゼーゲル錐二二番ヲ示セリ

尙ホ此ノ外連家山事務所前ノ下部夾炭層ヲ稼行セシ舊坑廢石中ニ外觀黑色緻密ニシテ光澤アル粘土ヲ見タリ(試料

第八號) 碎片カ六面體ニ近キ形ヲトルヲ特長トス露頭ナキヲ以テ層位竝ニ厚サ等不明ナルモ耐火度ゼーゲル錐「三四」番ヲ示シ良質ノモノナレハ將來注意ヲ要ス  
中央試驗所ニ於ケル試驗ノ結果左ノ如シ

無水硅酸	酸化鐵	酸化アルミニウム	耐火度
四五・二一%	四〇・八%	三三・六〇%	ゼーゲル錐三三番強
四〇・四八%	二一・三八%	三二・四八%	ゼーゲル錐二二番
四五・九二%	二・七八%	三七・二六%	ゼーゲル錐三角錐三四番

七、結 章

- 一、調査地域ハ所謂石門寨炭田ノ北西部ニ位シ東西ニ約二料、南北ニ約五料面積一〇平方料ヲ占メ北南東方約六料ナル上莊坵ヨリ長城煤礦公司輕便鐵道起リ約二五料ニシテ寨王島海岸ニ至ル
- 一、本地域ニ四鑛區アリ合計面積約二四方里三一八畝ニシテ天津ノ趙家昇及其子趙毓蔡ノ所有ニ係ル
- 一、本地域ハ主トシテ山地ニシテ地域ノ東部及西部ニ南北ニ亘リ連亘シ平地々並上高サ二〇〇米乃至三〇〇米ニシテ山側ノ傾斜稍急峻ナリ、平地ハ主トシテ東西二山地ノ間ニ敷衍シ義院口附近ニ於テハ廣潤ニシテ連家山附近ニ於テハ南北ニ狹長ナリ



一、炭層ハ下部夾炭層及上部夾炭層中ニ賦存シ下部夾炭層ニ屬スル炭層ハ現時板廠峪ニ於テ採掘セラレ義院口、毛家溝及連家山ニ於テハ嘗テ採掘セラレタルコトアリ

板廠峪ニ於ケル炭層ハ上層及下層ノ二層アリテ下層ハ民國十三年ヨリ同十五年ニ至ル三年間採掘セラレタルモ湧水量多クシテ排水ニ困難ヲ來シ之レヲ休止セリ上層ハ現時採掘セラレ厚サ○・八米乃至七米ニシテ扁桃狀ヲ呈シ厚薄定マラス且ツ其層向ノ方向ハ玢岩及安山岩ノ噴出ニヨリテ遮斷セラレ其賦存ノ區域狹小ナリ義院口ニ於ケル炭層ハ義院口大柳樹及毛家溝附近ニ於ケル層向及傾斜ヨリ推スルニ石河ノ平地ニ於テ半穹隆狀ノ向斜構造ヲ成セルモノノ如ク從ツテ該平地ニ於テハ炭層ノ賦存スルコト無キヲ保シ難ク玆ニ試錐スルノ要アリ連家山ニ於ケル炭層ハ三層アリテ厚サ三米、二・三米及二米ナリト云ヒ何レモ東方ニ傾斜シ南北ニ走リテ其賦存ノ區域ハ稍廣域ヲ占ムルモノノ如キモ坑口ハ崩壞又ハ溜水シ入坑シテ調査スルコト能ハサリシヲ以テ其賦存ノ狀況ヲ詳カニナシ難シ故ニ二―三箇處ニ試錐シ以テ之レヲ明カニスルコト必要ナリ

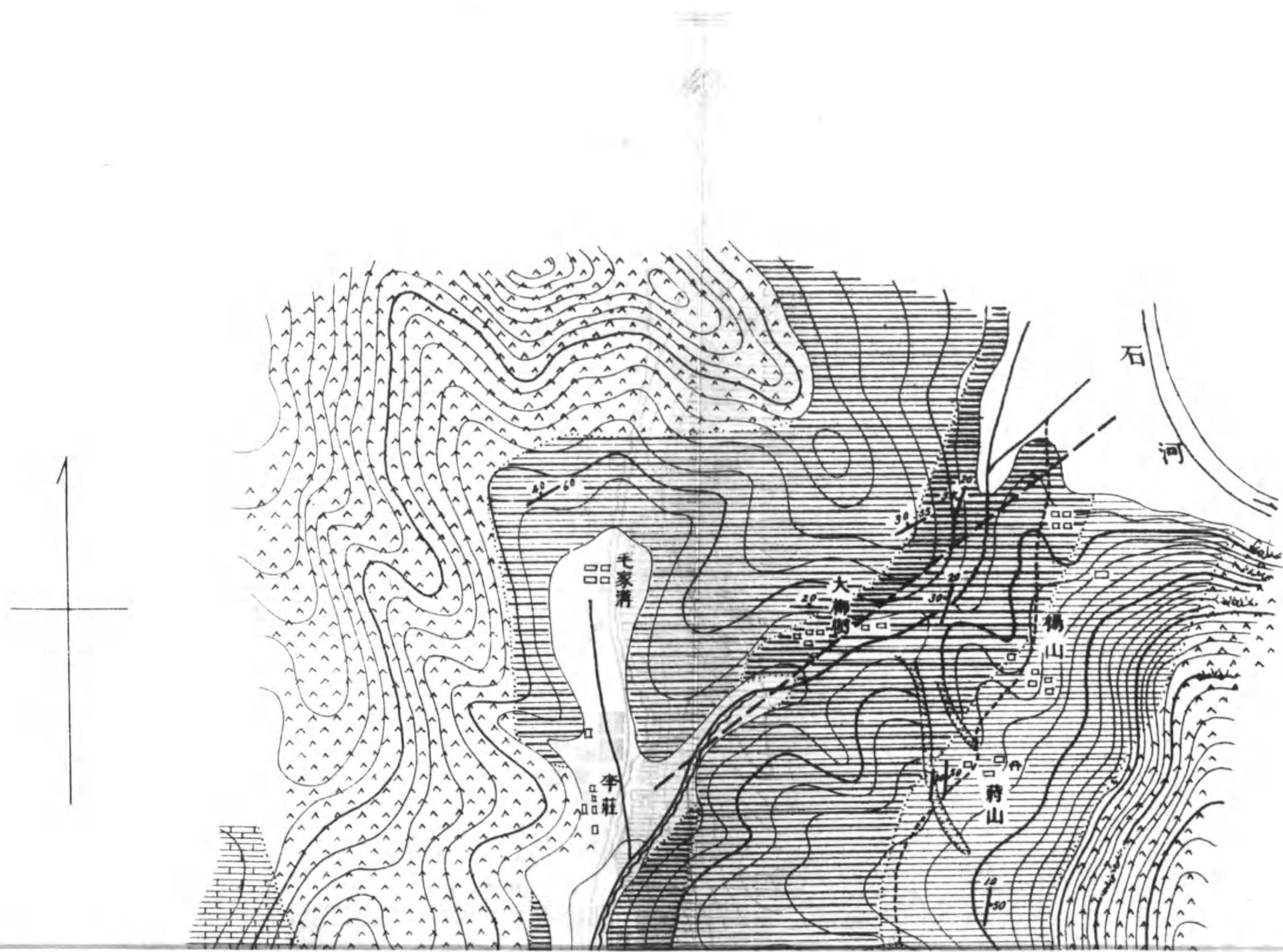
上部夾炭層ニ屬スル炭層ハ嘗テ義院口、老君頂南西部等ニ於テ採掘セラレタルコトアリ義院口ニ於ケル炭層ハ其北東部ニ於テハ安山岩ニヨリテ被覆又ハ貫カレ南西部ニ於テハ既ニ石河ニヨリテ蝕磨流出セラレタリ老君頂南西部ニ於ケル炭層ハ其東方ノ深ケ部ハ玢岩ノ噴出ニヨリ遮斷セラレ何レモ多ク重要ナラス

一、炭質ハ不粘結性無煙炭ニシテ發熱量餘リ高カラサルモ硫黃分少ク暖房、炊事用等家庭用燃料トシテ適當ナリ尙燭石宿火炭等ハ石灰燒、煉瓦窑用トシテ使用シ得

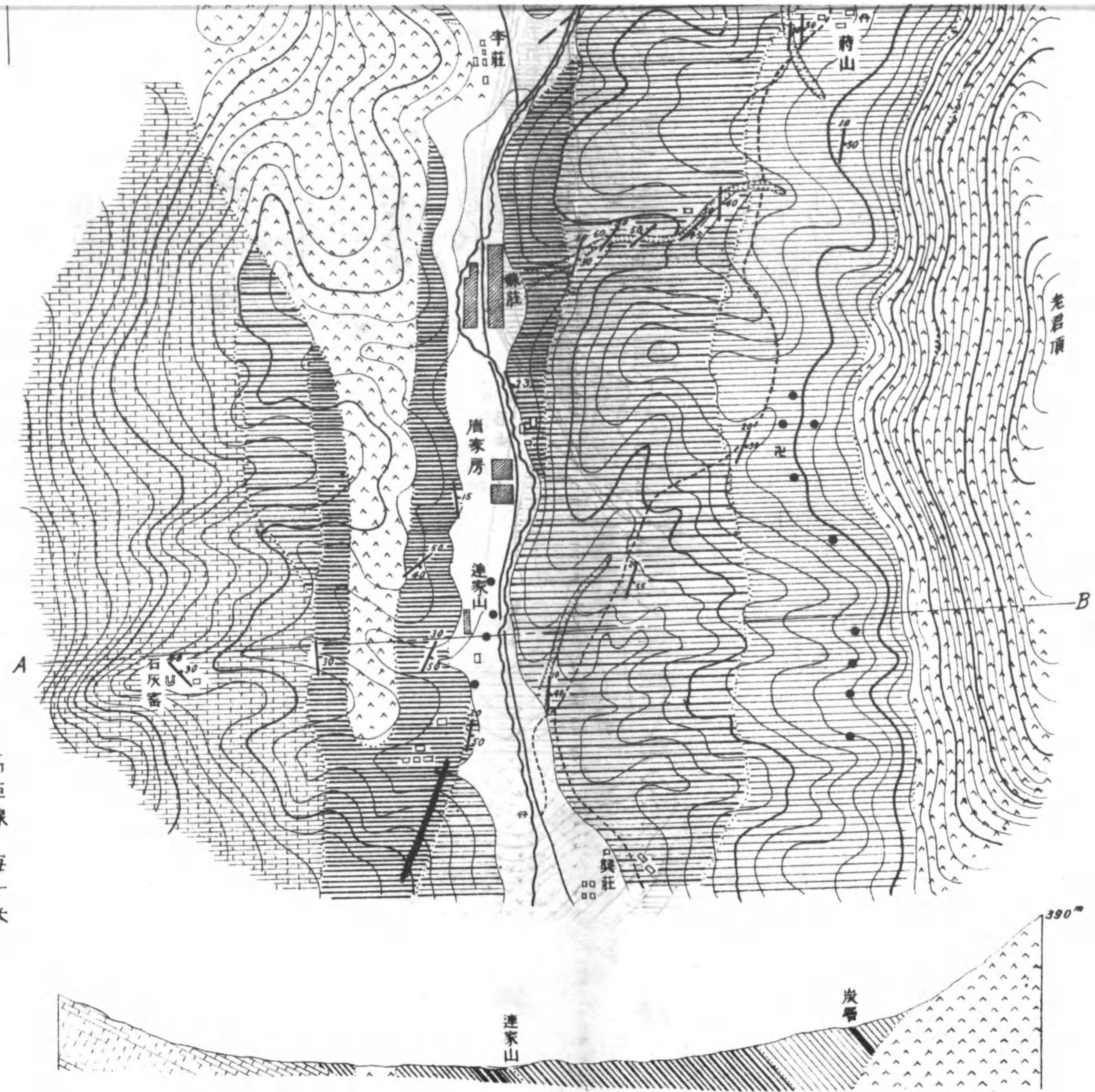
要之 本炭田中主要ノ地ハ義院口附近石河流域ノ平地及連家山ヨリ大柳樹ニ至ル東部附近ニシテ何レモ試錐ヲ施行シ又ハ舊坑ヲ取り明ケテ炭層賦存ノ狀況ヲ明カニシ以テ採掘及運搬ノ諸施設ノ適否ヲ講究スヘキモノナリトス



義院口南部地質圖

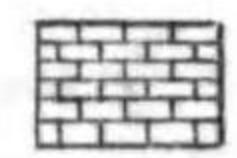





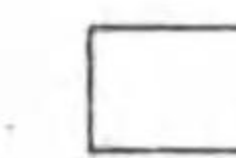



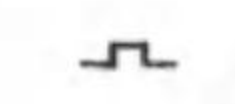




高距線 每十米



-   
 石灰岩層
-   
 下部  
砂岩層
-   
 下部  
火炭層
-   
 粘土層
-   
 上部  
砂岩層
-   
 上部  
火炭層
-   
 沖積層
-   
 安山岩  
及  
玢岩

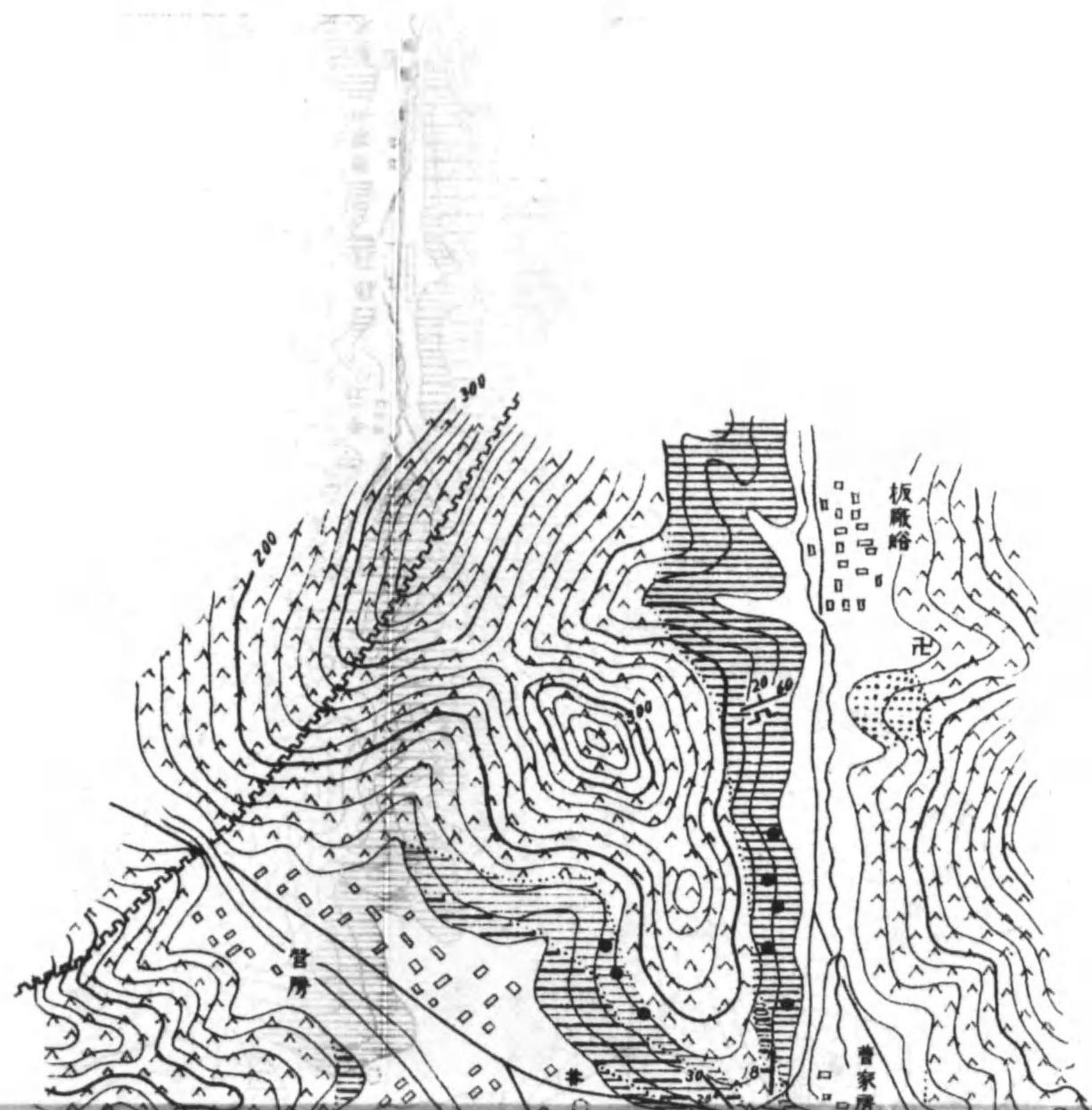
-   
 層向及傾斜
-   
 坑口
-   
 坑口跡
-   
 斷層
-   
 井戸

於ケル岩層ハ其東方ノ深ケ部ハ玢岩ノ噴出ニヨリ遮斷セラレ何レモ多ク重要ナラス  
 一、炭質ハ不粘結性無煙炭ニシテ發熱量餘リ高カラサルモ硫黃分少ク暖房、炊事用等家庭用燃料トシテ適富ナリ尙燭  
 石宿火炭等ハ石灰燒、煉瓦用トシテ使用シ得  
 要之 本炭田中主要ノ地ハ義院口附近石河流域ノ平地及連家山ヨリ大柳樹ニ至ル東部附近ニシテ何レモ試錐ヲ施行シ  
 又ハ舊坑ヲ取り明ケテ炭層賦存ノ狀況ヲ明カニシ以テ探掘及運搬ノ諸施設ノ適否ヲ講究スヘキモノナリトス



石門寨炭田義院口

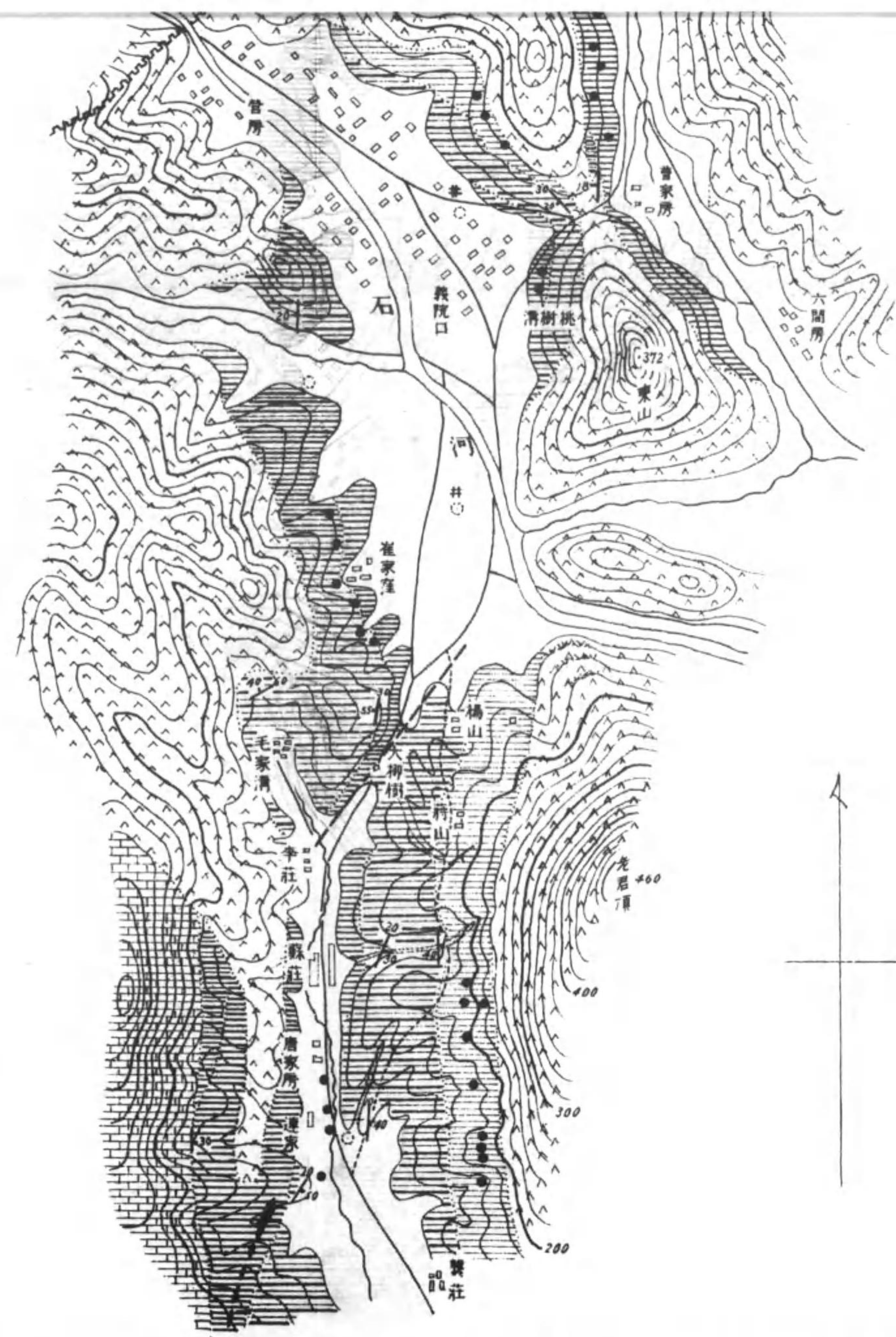
第二圖



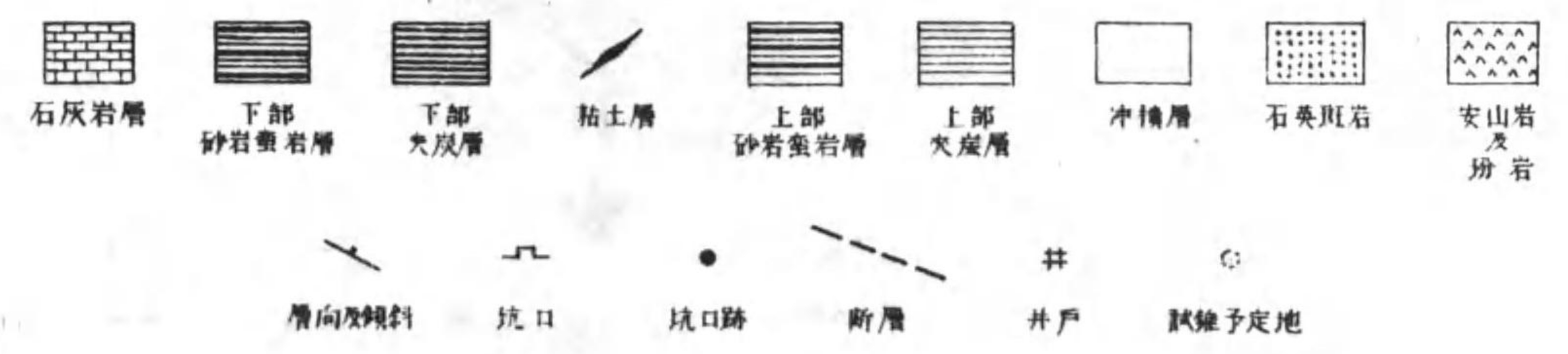


# 義院口附近地質圖

縮尺二萬四千分之一



高距線每二十米





# 鳳城縣榛子溝鑛產地調查報文

(大正十五年十二月調)

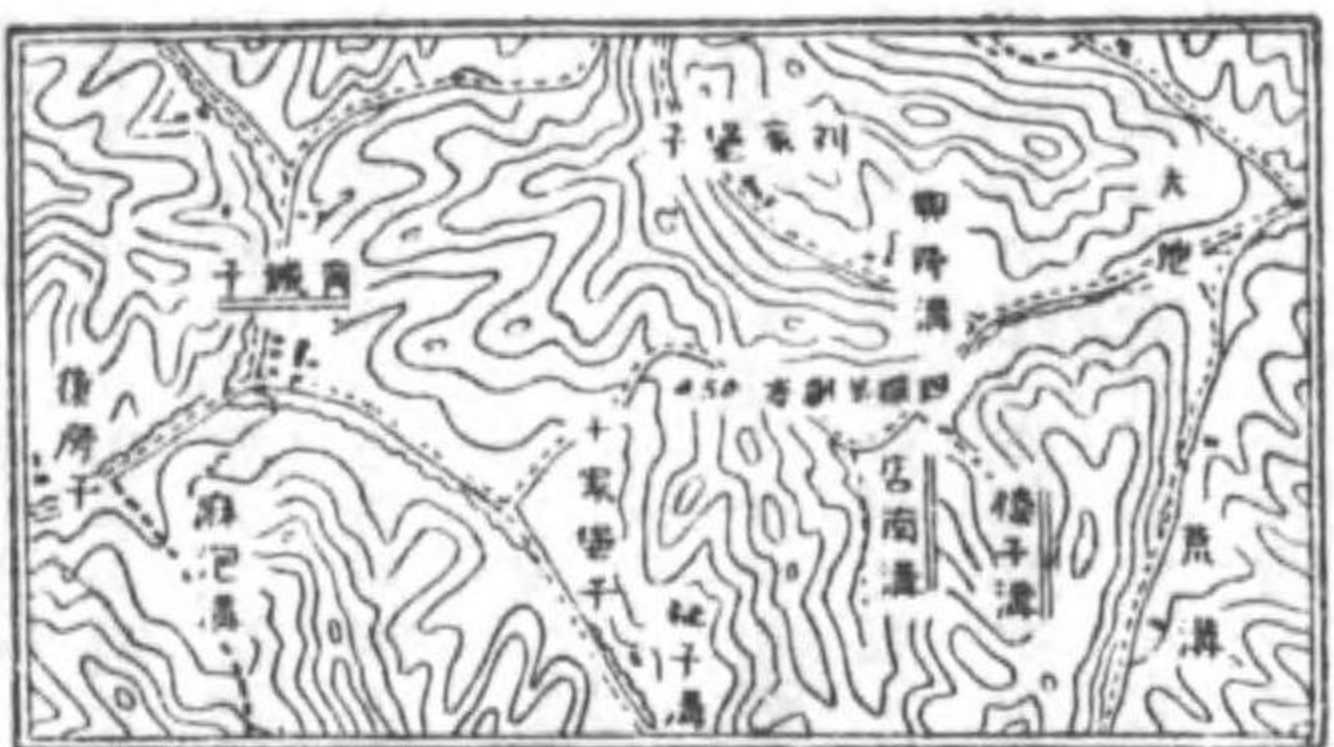
地質調査所員 青 地 乙 治

## 一、位置及地形

榛子溝鑛產地ハ青城子ノ東方約五・七軒通遠堡ニ至ル大道ニ近ク位シ人道ニヨレバ約三五軒ニシテ通遠堡ニ達スルモ途中三五〇米(海拔)内外ノ高峻ナル二嶺アリ馬車ヲ以テセバ約一二軒ヲ迂回セザルベカラズ産地附近ハ地形一般ニ急峻ニシテ地並ヨリ一五〇米乃至二〇〇米内外ノ山體重疊シ山側三〇度以上ノ傾斜ヲ以テV字形ニ近キ谷ヲ形成セル處多シ

## 二、沿革及現狀

本鑛床ノ沿革ハ詳ナラザルモ別紙地質圖ニ示スガ如ク各所ニ舊坑存在シ其ノ内榛子溝ノ東部ニ位セルモノハ土人ノ言ニヨレバ約十四年前邦人山田某人夫約五〇人ヲ使役シ六箇月間稼行セシコトアリ後三十四年ヲ經テ大連在住邦人森及前田某人夫約三〇名ヲ使役シテ試掘ヲ行ヒシコトアリシモ支那官憲ヨリ中止セラレ續イテ支那人



縮 尺 十 万 分 之 一



張某約一箇年採掘ニ從事セシモ出水多ク此又中止スルニ至リシト云フ現在ハ榛子溝一帯及西南方店南溝産地ト共ニ劉玉書ナルモノノ鑛區ニ屬シ同人ハ本年舊七月榛子溝西部舊坑跡及店南溝ヲ試掘シ榛子溝ヨリハ既ニ鑛石約一―二匙ヲ採掘シ山元ニ貯藏セリ採鑛夫ノ言ニヨレバ目下資金缺乏ニ苦ミ之レガ調達ニ奔走セル由本員視察當時ハ不在中ノ爲メ眞僞ヲ確ムルコト能ハザリシモ恐ラク事實ナルベク同試掘箇所モ最近之レヲ中止セリ

### 三、地質及鑛床

附近地質ハ主トシテ雲母片岩層ヨリナリ結晶質石灰岩層ヲ夾在ス其他ペグマタイト、花崗斑岩、輝綠岩等ノ岩脈之レヲ貫通セルモノ一帯ニ亘リ地表ハ概シテ雜草雜木生ヒ茂リ或ハ耕作地トナレル爲メ岩石ノ露出惡シク其相互關係ヲ明瞭ニ知得スルコト困難ナルモ凡ソ地質圖ニ示スガ如シ

雲母片岩層、雲母片岩ハ絹光澤ヲ有シ時ニ點紋ヲ有スルモノアリ片狀ニ剝理シ易ク常ニペグマタイト岩脈ニヨリテ貫通セラレ皺曲著シク時ニ片麻岩狀ノ組織ヲ呈セル處アリ本層ハ走向北二〇度西ヲ普通トシ時ニ南北又ハ北一〇度東シ東方又ハ南東ヘ三〇度―四〇度傾斜セリ

結晶質石灰岩層、本層ハ薄層ヲナシテ雲母片岩中ニ夾在シ坑口及舊坑附近ニ分布ス岩石ハ黝灰色乃至白色細粒質ヲ普通トスルモ鑛床附近ニ於テハ時ニ大サ〇・五厘米内外ノ結晶ノ集合ヨリナレル糖晶狀石灰岩トナレル處アリ

ペグマタイト、三〇米乃至五〇米内外ノ幅ヲ以テ岩脈ヲナシ露出セル處アルモ多クハ細脈ヲナシテ到處雲母片岩ニ伴ヒ之ヲ貫通シ粗粒質ニシ石英、長石、白雲母ノ外電氣石ヲ含ム

花崗斑岩、灰褐色ノ岩石ニシテ小區域ニ露出シ岩脈ヲナシテ雲母片岩、石灰岩ヲ貫通セリ輝綠岩、露出狀態特ニ

惡ク僅ニ落石ニヨリテ其位置ヲ察スルニ過ギザルモ恐ラク鑛床ト密接ナル關係アルモノナルベク綠黑色緻密ノ岩石ニシテ硫化鐵ノ小品ヲ含ムコトアリ

鑛床ハ地表ニ於テハ殆んど露頭ヲ缺グモ試掘中ノ坑内及舊坑位置ヨリ察スルニ二脈アリ共ニ結晶質石灰岩中ニ存在セル鑛脈ニシテ地質圖ニ示スガ如ク榛子溝ヲ夾ミテ東ト西トニ位ス東部ノモノハ舊坑全部崩壞シ知ルニ由ナキモ捨石ヨリ察スルニ小許ノ探鑛ヲナセシニ過ギザルモノノ如ク土人ノ言ニヨレバ縱幅平均一・五米ニシテ黃鐵鑛中ニ方鉛鑛ヲ混ジ主トシテ方鉛鑛ヨリナレル部分ハ〇・二―〇・四五米ナリト云フ、舊坑跡ハ約一〇〇米間連續セリ、西部ノモノハ現時一箇所試掘セシモノニシテ坑内ノ觀察ニヨレバ鑛脈ハ北二〇度西シ西南ヘ約六〇度内外傾斜ス恐ラク石灰岩ノ走向ニ沿ヘル小斷層ノ弱所ト鑛液浸入シ來リシモノナルベシ其延長ハ不明ナルモ坑口ヲ去ルコト南方約二〇〇米ナル一小地隙ニ於テ斷層礫及不完全ナル燒ケノ存在アリ又北々西方沖積地ヲ夾ミテ舊坑跡ノ存在セルアリ之等ヲ連續スルトキハ延長實ニ五五〇米内外ニ及ブ現時試掘セル山體ノ以北ハ大部分ハ川底ニ位シ北方舊坑跡モ覆上ノ爲メ全然不明ナルヲ以テ更ニ試掘ヲナスニ非ラザレバ其價值ヲ判定シ難ク比較的希望ト考ヘラルル處ハ試掘セル坑口ヨリ寧ロ南方ニ屬スル部分ニシテ其延長二〇〇米以上アルモノノ如シ

現坑口ハ地並ヨリ約四〇米上部ノ山腹ニ位シ南二〇度西ノ方向ニ掘進セルコト約八米ニシテ鑛脈ノ燒ケニ會シ深ケニ五米掘リ下ゲテ原鑛ニ會シ更ニ二米掘リ下ゲテ原鑛脈ヲ追ヒテ試掘シ及深ケニ向ツテ掘鑿セルコト坑内地質圖ニ示スガ如シ鑛脈ハ北二〇度西ノ走向ヲ以テ西南ヘ約五〇―六〇度傾斜シ結晶質石灰岩ヲ貫通ス鑛石ハ下磐ニ沿ヒテ多小石灰岩ヲ交代シ境界凸凹アリテ不規則ナルモ天磐下ハ概シテ然ラズ眞幅ハ坑内圖ニ記入セルガ如ク最大〇・四五米ナルモ其他〇・三九米又ハ〇・三〇米時ニハ〇・〇九米乃至〇・〇三米ニ縮小セル處アルヲ以テ平均セバ約〇・三〇米内



外トナルベシ然レドモ鑛石ハ上下兩磐ニ沿ヒテ硫化鐵ヲ含ムコト多量ニシテ眞ニ方鉛鑛ヲ主トセルモノハ中央部ニ扁豆狀ヲナシテ存シ時ニ殆ンド缺如セルガ如キ處アルモ平均〇・二二米内外ト見テ差支ヘナカルベシ而シテ尤モ交代シ易キ石灰岩ノ分布性情ヨリ考察スルモ又青城子一帶ニ於ケル從來ノ調査及實狀ヨリ見ルモ本鑛脈ハ恐ラク將來ニ於テモ現狀以上ニ甚敷大ナル鑛囊ノ發見ハ期待シ難キモノナリト信ズ

#### 四、鑛石ノ品位及埋藏量

鑛石ハ概ネ含銀方鉛鑛ニ黃鐵鑛ヲ交ヘタルモノニシテ其割合ハ全鑛石ヲ平均セバ略ボ三ト一トノ比ナリ稀レニ少量ノ石英ヲ認メ得ルコトアリ方鉛鑛ノ結晶ハ緻密ナルヲ普通トス

今回採集セシ試料ニツキテハ未ダ分析セザルヲ以テ茲ニハ大正九年七月里定雄氏ノ調査報文中記載セル分析ヲ摘記セリ左ノ如シ

第	金十萬(分)	銀(千分)	銅	鉛	亞鉛	硫黃	砒
第一	微量	〇・五〇三	微量	二九・四八	ナシ	二二・八七	五・六四
第二	〇・五五	〇・二〇八	同	八・四八	同	一八・八二	九・八五
第三	〇・五五	〇・〇三七	同	一六・二五	同	二八・二五	三・四一
第四	〇・〇五	一・二〇〇	一・〇〇一	七〇・二七	同	—	—
第五	〇・二五	〇・六一八	微量	一四・六二	同	二・八二	七・三五

第	六	〇・三五	〇・二八	同	二〇・三五	同	七・九四
---	---	------	------	---	-------	---	------

埋藏量ハ現在ノ資料ニテハ寧ロ算出スルヲ危險トスルモ現時試掘セル鑛脈ニツキ將來大ナル變化ナキモノトノ假定ノ下ニ次ノ標準ニヨリ計算セバ其範圍ニ於ケル推定埋藏量ハ一六・五六〇噸トナル

鑛脈ノ延長 二〇〇米

脈 幅 〇・三〇米

深 サ(地並迄) 四〇米

鑛石ノ比重 六・五

鑛 量 一六・五六〇噸

(硫化鐵ト方鉛鑛ハ一ト三トノ比石英ハ算入セズ)

其他榛子溝東部ノ舊坑及北部ノ舊坑内ニ於ケル鑛量ハ亦相當ニ殘存セルモノアルベキモ露頭ヲ缺キ坑内崩壞シ或ハ舊坑ノ跡スラ見定メルコト能ハザル處アリ計算スベキ資料ヲ缺ク

#### 五、結 章

本鑛床ハ雲母片岩中ニ夾在セル結晶石灰岩中ノ鑛脈ニシテ榛子溝ヲ夾ミテ東西二脈ヨリナル西部ノモノハ本年舊七月ヨリ試掘シ最近一時中止セルモノニシテ現時坑内ニ於テハ幅 〇・四五米—〇・〇三米ノ間ニ膨縮セルモ平均〇・三〇米内外アリ其延長ハ二〇〇米ハ恐ラク確實ナルベク將來脈幅ニ於テ大ナル變化ナキモノト假定シ其範圍ヲ計算セバ



河床地並以上ノ推定埋藏量ハ一六、五六〇吨トナル鑛石ハ硫化鐵ト含銀方鉛鑛ヨリナリ平均セバ其割合ハ一ト三トノ比ナリ

東部ニ於ケルモノハ舊坑數多約一〇〇米ノ間ニ存在シ土人ノ言ニヨレバ此幅一・五米内外アリト云フモ確實ナル資料ニ乏シク恐ラク西部ニ於ケル試掘箇所ノモノト大ナル相違ナルベシ捨石ヨリ察スルニ概シテ小許ノ試掘ヲナセシニ留リシモノノ如ク猶相當ノ殘存鑛量ヲ有スベキモ此部ノ舊坑ハ河床ニ近ク位シ土地低濕ニシテ探掘面ハ勢ヒ附近河床ヨリ數米ノ下位ニアルガ故ニ排水ニ困難アルベク又支柱ニモ留意ヲ要スベシ

要之 本鑛床ハ最モ交代シ易キ石灰岩ノ分布性情ヨリ考察スルモ又青城子一帶ニ於ケル從來ノ調査及實狀ヨリ見ルモ現狀以上ニ甚敷大ナル鑛囊ノ發見ハ期待シ難ク且ツ膨大縮小常ナルベシ土地又僻遠ノ嫌アリ從來稼行精練セル青城子鑛山ノ附屬トシテ稼行スベキモノニシテ新タニ多大ノ經費ヲ用ヒ青城子ト相對シテ獨立經營ヲナスベキモノニ非ラズト思惟ス

### 附 店南溝銀鉛鑛產地

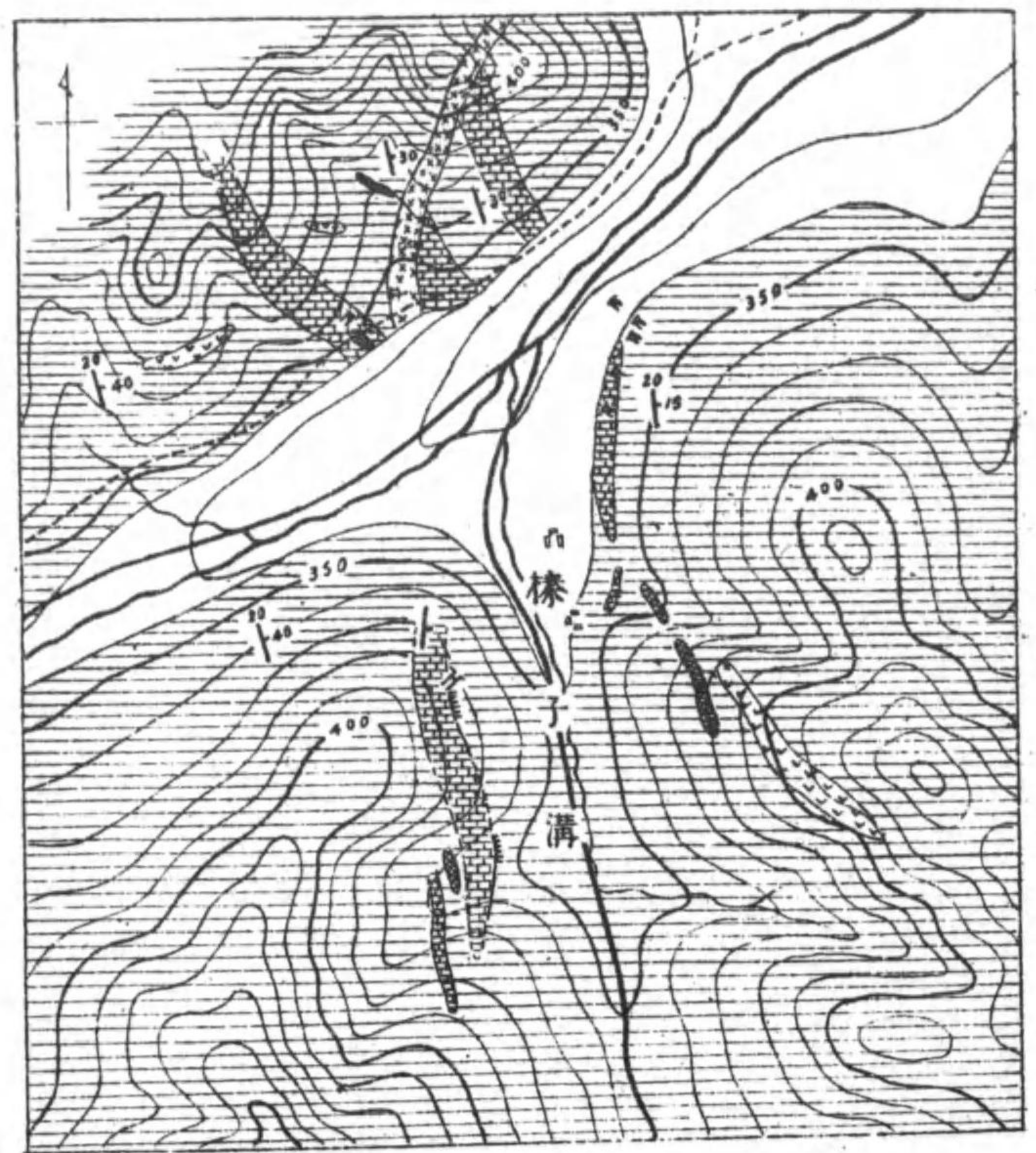
位置及沿革 店南溝ハ榛子溝ノ西ニ位シ其間一山體ヲ隔ツルノミニシテ鑛產地ハ青城子―通遼堡間ノ大道ヲ南ニ入ルコト約一籽ニアリ

本鑛產地ハ今ヨリ十二三年前遼陽ノ人谷六金ナルモノ約五―六年間稼行シ土法ヲ以テ此處ニ一時精練セシコトアリシモ官憲ノ中止ニ會ヒ爾後休止セルモノナルガ土人ノ言ニヨレバ二―三年前張某榛子溝鑛產地ト共ニ鑛區及探掘權ヲ得昨年劉玉書之レヲ繼承セシモノナリト言フ本年舊七月ヨリ榛子溝ト共ニ試掘ヲナシ目下坑夫四名運搬夫三名作業ニ

## 榛子溝附近地質圖

縮尺 一万分之二

高度 每十米



- |  |        |  |     |  |       |
|--|--------|--|-----|--|-------|
|  | 沖積層    |  | 花崗岩 |  | 露頭    |
|  | 結晶質石灰岩 |  | 輝綠岩 |  | 走向及傾斜 |
|  | 雲母片岩   |  |     |  | 坑口    |
|  | ペグマタイト |  |     |  | 旧坑    |



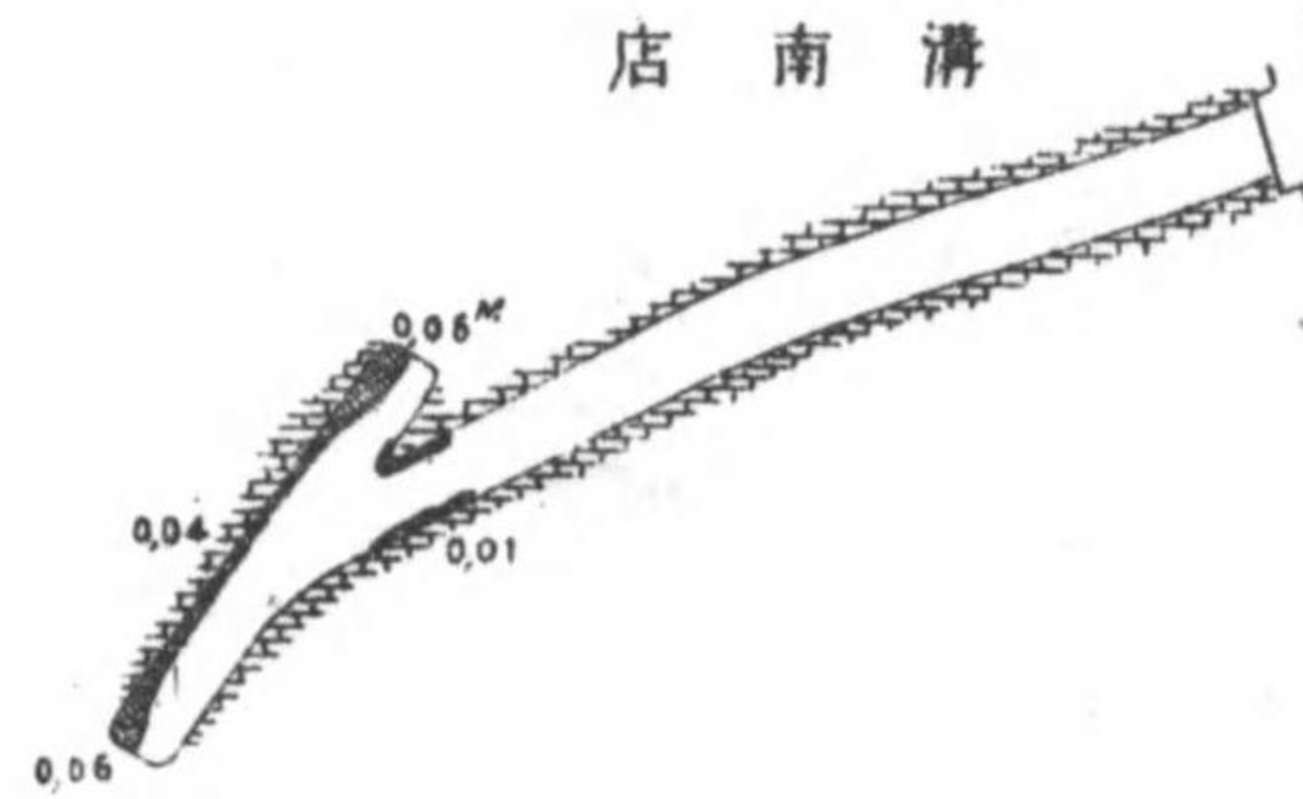
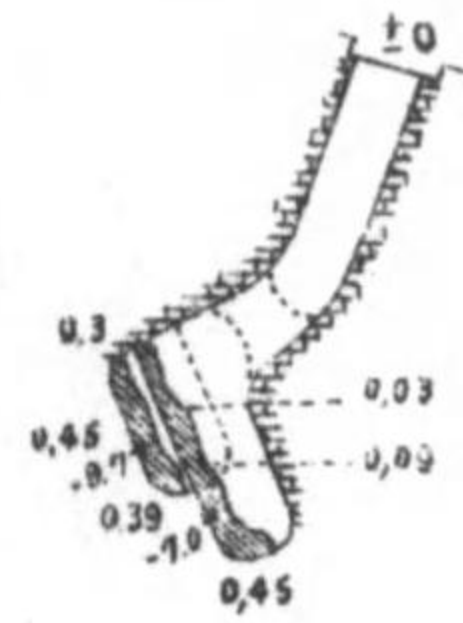
# 坑內圖

縮尺 六百分之一

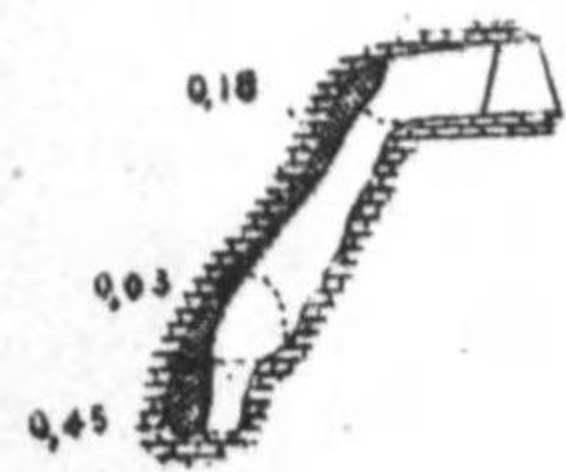
## 平面圖



榛子溝

店南溝



## 剖面圖



 石灰岩  
 鑛脈  
 数字<sup>(M)</sup> 鑛脈傾斜角示入



從事セリ

地質及鑛床 附近ノ地質ハ主トシテ雲母片岩層ヨリナリ石灰岩ノ薄層ヲ夾ム西方山頂ニハ花崗岩露出ス雲母片岩及石灰岩層ハ概シテ層向北六〇度東シ南東へ四〇度内外傾斜セリ舊坑ハ店南溝ヲ流ルル小溪ノ傍ヨリ南西方山頂ニ向ツテ水平約八一米(二七〇尺)ノ間ニ數箇所存在セルモ其他鑛脈ノ露頭ト見ルベキモノナク延長ヲ追求スルコト能ハズ現時試掘セル坑口ハ最下部ニ存スル舊坑即チ溝ノ地並ニ位シ舊坑ノ位置ヲタドリテ南三〇度西ニ掘進スルコト二五米ニシテ一鑛脈ニ會セリ鑛脈ハ走向北二〇度東シ北西へ六〇度内外傾斜ス試幅〇、〇四米乃至〇、〇六米ヲ普通トセルモ時ニ殆ンド尖減ニ近ク縮小セル處アリ

鑛石ハ概シテ粗大ナル結晶ヲナシ方鉛鑛ノ外硫化鐵及閃亜鉛鑛ヲ伴フ大正九年川越澤、及七里定雄兩氏ノ調査報文ヨリ分析表ヲ摘記セバ次ノ如シ

	金 (十萬分)	銀 (千分)	銅	鉛	亞鉛	硫	黃	鐵
上 鑛	〇、〇五	一、四二五	微量	五三、三一	四、三八	二三、八二		
普通 鑛	微量	一、四〇七	微量	三五、一一	二二、二四	二四、七六		
黃 鐵 鑛					五、七八	四七、八〇		四〇、八五

要之 本鑛床ハ試幅現在ニ於テハ狹ク且ツ膨縮シ已ニ相當亂掘セラレタルモノノ如ク加之西部山頂ニ近ク火成岩(花崗岩)ノ侵入アリテ延長大ナラザルベク位置榛子溝ニ近キモ恐ラク望ミヲ囑スベキモノニアラザルベシ



雜 錄

奉天省黑山縣八道濠炭田調查報文 (抄譯)

中國地質調查所員

譚

錫

疇

位 置

八道濠炭田ハ奉天省黑山縣ノ西北熱河阜新縣界ニ位ス黑山縣城ノ西北約三支里、京奉鐵道打虎山驛ヨリ約五十支里(打虎山驛、八道濠驛間三十杆)奉天省城ヲ距ル約三百二十支里、略北緯四十一度五十五分、東經百二十一度五十五分ナリ

交 通

本炭田ハ山地ニ近キモ交通至便ナリ即チ京奉鐵道打虎山驛ヨリ黑山縣北境ノ新立屯迄(現在ハ彰武縣迄開通)支線ノ敷設アリテ本炭田ヲ通過ス、此ノ支線ハ夾炭層ノ賦存區域ヲ通過シ八道濠驛ハ炭礦ノ堅坑ヲ距ルニ二支里以內ニアリ、八道濠驛ヨリ打虎山驛迄、秤量、積載等ノ時間ヲ含メテ一往復約五時間ヲ要シ打虎山驛ヨリ奉天省城迄貨車(普通列車)ニテ七時間ヲ要ス陸路モ亦平坦ニシテ大車ノ通行可能ナレハ地方ヘノ運搬ハ陸路ニ依ルヲ便トス附近ニハ水運ノ便アリ

地 形

ル大河ハ無シ

驛巫閣山脈ノ一支脈ハ奉天省黑山及熱河阜新兩縣ノ交界ヲ劃シ八道濠炭田一帶ノ山嶺ハ又其ノ東南ニ延々セル餘脈ナリ、此ノ餘脈ハ本炭田附近ニ至リテ緩慢ナル地勢ヲ呈ス即チ炭田附近ハ緩慢ナル連丘ニシテ其間僅カニ孤立セル小山アルノミ、炭田ハ此ノ緩慢ナル低平地ノ中間ニ位シ南ヨリ北シ更ニ東北ニ延長セル淺平ノ溪谷狀ヲ形成シ南部ハ狹ク北部ハ廣シ、山嶺ハ本炭田ニ依リテ左右ニ區別サル、炭田ノ西北ハ羅家臺、頭臺子一帶ノ小山嶺ニシテ共ニ山嶺大ナラス羅臺北山ハ炭田ヨリ約六十米、頭臺北山ハ約七十米ノ高距ヲ有ス、炭田ノ西北ニ於テハ頭臺山嶺ト谷ヲ隔テ、遙カニ對峙スル小山嶺アリ蜿蜒起伏シテ二臺ニ至レハ西南ノ山勢隆起シテ一聳立ノ山ヲ成シ高距百二十米此レヨリ南ニ更ニ東南スレハ山勢漸次低平トナリ炭田ノ西南ニ至レハ原野トナル、炭田ノ東ハ地勢モ亦高ク臺子坂ヨリ郝屯ヲ過キテ圍城子(維城子)ニ至ル一帶ハ小嶺ニシテ最高處ト雖モ五十米ヲ越エス、又東南ハ地勢隆起シテ綱臺北山トナリ高さ約七十米、東南ハ谷ヲ隔テ、遙カニ綱臺東南山嶺ト相對ス  
要之 大體ニ於テ炭田以西ノ山嶺ハ北ヨリ南シテ地勢漸次低下シ炭田以東ノ山嶺ハ北ヨリ南シテ地勢漸次隆起ス炭田一帶ハ大河ナク唯夏秋ノ雨期ニ於テ山水ニ依リ河身カ膨大スルニ過キス、ヤカテ又元ノ細流ニ復ス特ニ河名無ク唯流域ノ地名ヲ附スルモノアルニ過キス、炭田ノ北部ニ河アリ西北ヨリ流レ來リ頭臺子、羅家臺ノ南ヲ過キテ南流シ綱臺ヲ經テ更ニ南流シテ本炭田區域ヲ出ツ



### 地層

八道濠炭田ノ地質ハ大體ニ於テ簡單ナルモ仔細ニ觀察スル時ハ他處ト大ニ異ル點アリ而シテ本炭田ニ於テハ至ル所沖積層分布スルヲ以テ地層ノ露出充分ナラサルハ調査研究上ノ障害タリ、最モ古キ地層ハ太古代ノ片麻岩ニシテ常ニ夾炭層ト近接スルモ其ノ接觸部ハ未タ嘗テ目撃セズ、夾炭層ノ下部ニハ常ニ一種ノ礫岩ヲ夾有シ又火山熔岩及凝灰岩ノ上ニモ亦之ヲ有ス熔岩、凝灰岩ト夾炭層トノ關係又沖積層ニ被覆セラル、ヲ以テ窺知スル能ハス、夾炭層ノ上ハ一種ノ極メテ厚キ礫岩層ニシテ其礫大ナルモノ及成分ノ雜多ナルモノハ殆ント見ルコトナシ、礫岩層ノ上ハ凝灰岩及火山岩流ニシテ前記礫岩下ノ岩流及凝灰岩トモ亦常ニ相混淆ス

左ニ各地層ニ就テ説明スレハ

#### 一、泰山系(片麻岩系)

泰山系ハ中國最古ノ地層ナルヲ以テ各地ニ見ル最古ノ地層ヲ大略泰山系ト稱ス、本區域ニ於ケル泰山系ノ露出ハ廣大ナラサルモ炭田ノ邊端ニ於テ露出ス、本系ノ岩石ハ主トシテ片麻岩ヨリ成ル、本片麻岩ハ片理極メテ粗、礦物ノ結晶甚タ大ニシテ時ニ石英ノ細脈ヲ夾有ス、炭田ノ東邊ニ分布スルモノハ臺子後附近ニ露頭極メテ多ク其西ハ夾炭層ノ底部ト不整合ニ接觸スルモノ、如シ、炭田ノ北桃花營子一帶ニ於テハ極メテ廣ク露出シ時ニ凝灰岩及熔岩ト斷層ニ依リ接觸スル處アリ、炭田ノ西、二臺子ノ西南礫臺山一帶ハ片麻岩モ亦多ク斷層ニ依リテ凝灰岩ト接觸ス、片麻岩ノ分布地域ハ大體地勢平漫ニシテ低嶺或ハ山坡(坂)ヲ形成シ地層ハ多ク溝渠中ニ露出ス

#### 二、震旦紀硅岩層

本層ハ泰山系ノ上部ヲ不整合ニ被覆シ僅カニ頭臺北山及二臺礫臺ノ二箇處ニ見ラル、頭臺子ニ於テハ綠色片岩ト共ニ白色及灰色硅岩ヲ夾有シ礫臺山ニ於テハ白色及灰色硅岩並ニ灰色砂岩ヲ夾有ス本層ノ分布區域ハ狹少ナルモ多ク絶壁峻峰ヲ形成ス、中國北部ニ於テ白色硅岩ト泰山系ト時ニ相接觸スルモノニアリ即チ一ハ五臺系中ノ硅岩ニシテ他ハ溱沔系(或ハ震旦系)中ノ硅岩ナリ前者ハ常ニ片麻岩中ニ夾在シ大理石ト共生ス、後者ハ一層ニシテ常ニ砂岩及頁岩ヲ夾有ス、本區域ノ硅岩ハ溱沔系ノ硅岩ニ類似シ、元古代後期ニ屬ス

#### 三、綱臺層(即チ火山岩層)

本層ノ本部分ハ火山岩ヨリ成ルモ岩石噴出後既ニ岩流トナリシヲ以テ層理判然トシ且凝灰岩ヲ夾有シ毫モ水成岩ノ踪跡ナキモ層向傾斜ハ常ニ水成岩層ト一致ス、他層トノ關係ハ接觸部ヲ發見セサルヲ以テ不明ナルモ唯其右方沖積層ヲ隔テ、夾炭層ノ下部地層ニシテ走向略々同シキヲ以テ夾炭層中ノ岩流ヨリ古カルヘシト假定シ夾炭層ノ前ニ置ク但シ他處ニ於ケル夾炭層ノ下部ハ太古代片麻岩ニ近接シ毫モ火山岩ノ踪跡ナシ且夾炭層以上礫岩層ノ上ニモ亦火山岩流及凝灰岩アルモノ之等岩流ハ同一ノモノナルヤ或ハ然ラサルモノナルヤ疑問ナリ

本岩ハ其ノ性質及位置ヨリ見テ夾炭層ノ成生ヨリ先ニ噴出セルモノト假定ス、本層ハ綱臺北山ニ於テ最モ發達シ顯著ナル山嶺ヲ構成ス、本區域外ニ於テハ綱臺ノ東南ニ廣ク分布ス

本層ハ褐色紫色及草色ノ火山熔岩ヲ主トシ多少ノ暗綠色及紫色凝灰岩ヲ夾有ス、本岩ヲ鏡下ニ檢スルニ頗ル斑狀ヲ呈ス

斑晶ハ斜長石及角閃石ナルモ其ノ量多カラズ、石基ハ針狀長石及少量ノ玻璃質ヨリ成リ岩石ノ分類中安山岩ニ屬スルモノナリ露出セル地層上ノ位置ヨリ觀察スレハ本層(熔岩及凝灰岩)ハ侏羅紀ニ屬スルモノノ如シ



四、黑山系(夾炭層)

八道濠炭田ハ黑山縣内ニアルヲ以テ本夾炭層ヲ黑山系ト命名セリ、本層ハ泰山系ノ上部ヲ不整合ニ被覆スルモノノ如キモ接觸部ハ未タ目撃スル能ハス、本層ヲ地層ノ被覆狀態及含炭ノ有無ニヨリテ上中下ノ三部ニ分テ得ヘシ

(1) 下部ハ主トシテ粘土質頁岩砂岩及礫岩ヨリナリ炭層ヲ夾有セス、地層ヲ下ヨリ上ニ示セハ淺綠淺黃色粘土質頁岩及粗粒砂岩次ニ綠色及黃灰色粘土質頁岩ト細粒砂岩其ノ上カ雜色礫岩ナリ該礫岩ノ礫ハ大小極メテ不定ニシテ普通直徑數厘乃至數粉時ニ一米ニ達スルモノアリ郝屯東溝ニ於ケル礫岩中ニ巨塊ノ硅岩礫ヲ含ムモノアリ此ノ礫岩ハ層狀ヲ呈シ硅岩層ニ極メテ類似ス礫岩ノ礫ハ硅岩ノ外片麻岩砂岩時ニ火山岩ヨリ成ル本層ハ炭田ノ東邊ニ分布シ其ノ露頭ハ臺子後郝屯後張繼屯ノ西方鐵道ニ沿フテ露出ス本層ノ厚サハ露頭ノ寬狹及斜角ニ依リテ計算スルニ約百米以上アリ

(2) 中部ハ下部ヲ不整合ニ被覆ス主トシテ砂岩頁岩粘土及礫岩ヨリ成リ重要炭層ヲ夾有ス然レ共本層ハ黃土及沖積層ニ被覆サレ露頭極メテ少ナク僅カニ探炭箇所及局部的ニ地表ニ一部分露出スルノミ郝屯本溝ニ於テ下部礫岩トノ接觸部ハ淺綠色淺黃色ノ粘土ヨリナリ圍城子ノ西ニ於テハ下部礫岩ノ上ハ淺綠色粘土質頁岩ヨリナル八道濠炭礦ニ於ケル堅坑及探炭所ヨリ採出サル、岩石ハ多ク灰色砂岩黑炭色及黑色頁岩ナリ堅坑斷面柱狀圖ニ示スモノハ砂岩頁岩粘土質礫岩ノ互層ニシテ炭層ヲ夾有ス、本層ノ分布ハ露頭無キヲ以テ僅カニ上下兩部ノ露頭ニ於テ假定スルモ大體八道濠炭礦ヨリ起リテ北ハ大曹屯ノ西ヲ經テ鐵道ニ沿ヒ小新立屯ノ西ニ至リテ東北ス南ハ鐵道ノ西戴屯圍城子ノ間ヲ經田三家ヲ過キテ南ス全部ノ厚サヲ概算スレハ約二百二十米ナルヘシ

(3) 上部ハ中部ヲ整合ニ被覆シ主トシテ粘土質頁岩砂岩ヨリ成リ薄キ炭層ヲ夾有ス、本層トノ接觸部ハ全部黃土及沖積層ニ掩ハル、ヲ以テ地層ヲ見ル能ハス試錐ノ結果ニ就テハ未ダ觀察セサルモ大體砂岩及頁岩ノ類ヲ主トシ(十三號試錐三號試錐ハ共ニ上部層ノ一部ヲ貫通セシカ如シ)西嶺ノ東麓ニ露出ス陳八道濠ノ北ニ於ケル本層ヲ下ヨリ上ニ擧クレハ灰色淺綠色及黃色粘土質頁岩ノ順ニシテ粗粒砂岩及黑色粘土質頁岩一層(厚サ約十米)ヲ夾有ス礫岩ハ片麻岩砂岩及火山岩等ノ礫ヲ含有シ(厚サ約六米)灰色黃色粘土質頁岩ハ砂岩ヲ夾有シ(厚サ約五米)礫岩(厚サ約三米)黃色灰色粘土質頁岩及砂岩(厚サ約十米)礫岩ハ砂岩ヲ夾有シ(厚サ約六米)黃色灰色粗粒砂岩ハ礫岩及粘土質頁岩ヲ夾有ス(厚サ約六十米)戴地附近ニ於テ本層中夾有セラル、薄炭層ヲ曾テ採掘セラレタルモ何シロ露頭ナク僅カニ炭層上ノ一部分溝峽山谷山峽内ニ目撃シ得ルモノハ淺黃色淺綠色及灰色ノ粘土及砂岩(厚サ約五米)ナリ礫岩ハ片麻岩及砂岩ノ礫ヨリ成リ(厚サ約三米)灰色淺黃色粘土質頁岩ハ砂岩ヲ夾有シ(厚サ約六米)礫岩ハ砂岩ヲ夾有シ(厚サ約四米)灰色淺綠色淺黃色ノ粘土質頁岩及灰白色灰色砂岩(厚サ約六米)礫岩(厚サ約十米)灰色淺黃色砂岩(厚サ約十米)其ノ他雙井子前紅石槽等ニ於テ本上部層ノ露頭アリ本層ハ大體灰色淺綠色淺黃色粘土砂岩及細質礫ヨリ成ル本層ノ分布ハ大體雙井子ヨリ南シ陳及高八道濠、水泉戴屯、馬三家ヲ經テ更ニ南ス北ハ紅石槽ヲ經テ東北シ羅家臺ノ東ヲ經テ更ニ東北ス全部ノ厚サヲ概算スルニ約二百米位ナルヘシ、夾炭層ノ化石ニ關シ「アーネルト」氏ノ採取セル植物化石ニ就テ「クリストホーウイチ」氏ノ鑑定セシモノ四種アリ一ハ *Dicranites kotoi* Yokoyama ニシテ「ク」氏ハ之ヲ沿海州ニ於ケル「ニカン」系ノ標準化石ニシテ烏蘇里州ニ於ケル侏羅紀ノ上部ニ屬スルモノトセリ二ハ *Cinkgo digitata* Brongn. ニシテ英國ノ「ヨークシャイヤー」及烏蘇里ノ侏羅紀層産ニ酷似シ且曾テ英國ノ外西比利亞、日本及北滿ニ於ケル上下侏羅紀及白堊紀ノ地層内ニ之ヲ見出セリ三ハ *Phoenicopsis Spectosa* Heer ニシテ烏蘇里州、黑龍州及東三省ニ産ス、四ハ *Pityophyllum nordenskiöldi* (Heer) Nath. ニシテ烏蘇里及黑龍州ニ於テモ曾テ採取セラレタリ「ク」



氏ハ總括シテ植物化石ノ證スヘキモノアリテ本夾炭層ハ上侏羅紀ニ屬スヘシト思惟セリ然レ共編者「チャンネー」氏ト同行セシ時 *Sergoia* ニ似タル植物化石ヲ採取セシヲ以テ同氏ハ第三紀ナリトセリ、序テ編者又八道濠炭礦ノ坑内ヨリ葉鰓類ノ化石ヲ採集シ歸京後「グラボウ」博士ノ鑑定ヲ請ヒタルニ同博士ハ該化石中 *Cardia* ノ一種アリテ之ハ奉天省義縣ニ於テ採取セルモノト同一ナリト而シテ義縣ノ葉鰓類ハ「グラボウ」博士ノ鑑定ニ依リテ白堊紀ノモノトセラル、ヲ以テ本夾炭層モ亦白堊紀ニ屬スヘシ、今回炭礦附近ノ堆石中及戴屯附近ニ於テモ亦多種ノ植物化石ヲ採取シ周氏ノ鑑定ニ依リテ大體 *Podzamites Czekanowskia*, *Nageiopsis*, *Taxodium* ノ數種ナルコトヲ知レリ、之等ハ何レモ侏羅紀、白堊紀共有ノ化石ナリ、上記研究ノ結果ニ依リ一ハ侏羅紀産、二ハ第三紀産、三ハ白堊紀産化石ナルヲ知レリ、同種ノ植物化石カ時ニ近接セル兩地質時代ノ地層中ニ多數含有サル、コトアリ例ヘハ *Bracon* 及 *Narites* ハ元來侏羅紀ノ化石ナルモ白堊紀層中ニモ發見サル、又 *Sergoia* ハ第三紀層中ニ最モ多キモ白堊紀ニ於テ既ニ其端ヲ發セシナリ、「アーネルト」及「チャンネー」兩氏ノ採取セル植物化石ハ何レモ白堊紀ノモノナルモ又侏羅及第三兩紀層中ニモ存在ス、要之夾炭層ニ就テ兩氏ノ假定トシテハ一ハ侏羅紀、一ハ第三紀トシ相距ル甚タ遠キヲ以テ今之ヲ白堊紀トセンカ兩者ノ折衷タリ得ヘシ、況ンヤ「ク」氏ノ上部侏羅紀說ハ白堊紀ニ極メテ近ク且化石モ亦極メテ類似スルヲ以テ白堊紀說ト大差ナカルヘシ

次ニ地層ノ層序、岩石ノ性質ヨリ觀察スルニ本夾炭層ハ白堊紀ニ屬セシムルヲ可トス、中國北部ニ於テ侏羅及白堊兩紀地層カ共生シテ共ニ夾炭層ヲ成生スルモノニ熱河北票炭田アリ下ハ侏羅紀夾炭層ニシテ重要炭層ヲ夾有シ植物化石 *Dalmanella* 及 *Zanclus* カ大多數ヲ占ム、岩石ハ主トシテ硬質ノ白灰色砂岩、黒灰色頁岩ヨリ成リ石炭ハ有煙炭(瀝青炭)ニシテ核炭製造ニ適ス、上ハ白堊紀夾炭層ニシテ薄キ炭層ヲ夾有シ下部ニ六足虫化石 *Spirifer* ヲ含ミ又植物化

石ト葉鰓類トヲ共生ス、岩石ハ主トシテ軟質粗鬆ナル粘土質頁岩及薄層砂岩ヨリ成リ石炭ハ褐炭ヲ主トシ有煙炭(半瀝青炭)之ニ次クモ核炭ノ製造ニハ適セス

今本黑山系(夾炭層)三部ヲ總括スルニ粘土質頁岩及薄層砂岩カ最モ多ク石炭ハ有煙炭(瀝青炭)及褐炭ニシテ北票炭田ニ於ケル白堊紀夾炭層ト頗ル類似セル點アリ且植物化石モ亦北票白堊紀ノ化石ト同シク常ニ葉鰓類ト共生ス、中國北部ニ於ケル侏羅紀夾炭層ノ上ハ多ク砂岩、頁岩ニシテ更ニ其ノ上ハ凝灰岩、礫岩ナルヲ常トス、北票炭田ニ於ケル侏羅紀夾炭層ノ上ハ白堊紀夾炭層ニシテ更ニ其ノ上ハ凝灰礫岩層ナリ、八道濠夾炭層ノ上ハ直接礫岩層ニシテ一部凝灰礫岩及凝灰岩ヲ夾有シ北票炭田ニ於ケル凝灰礫岩層ト頗ル類似ス、故ニ本夾炭層ハ之ヲ白堊紀ニ屬セシムル方侏羅紀ニ屬セシムルヨリ可ナリ

### 五、礫岩層

本層ハ夾炭層ノ上ニ位シ兩層ノ接觸ハ恐ラク不整合ナルヘシ本層ハ主トシテ礫岩ヨリ成リ凝灰岩、火山岩流及砂岩ヲ夾在ス、本層ハ之ヲ上下兩部ニ大別シ得ヘシ、而シテ下部ハ多ク礫岩ニシテ上部ハ凝灰岩ヲ主トス、下部ノ底部ト夾炭層上部トノ接觸部ニハ礫岩及粗鬆砂岩ノ外常ニ凝灰岩及凝灰礫岩ヲ見ル、雙井子ノ西北ニ於テ凝灰岩ハ質細ク灰綠黄色ヲ呈ス、凝灰岩中ニハ紅綠色粘土及粗鬆砂岩ヲ夾有ス、前紅石槽ノ西ニ於テハ凝灰岩モ亦粗鬆砂岩ヲ夾有ス、此ノ層ノ下部ハ礫岩ナリ、此ノ礫岩ハ粗細不等ニシテ大體下ヨリ上ニ漸次細ニ變ス

### 炭層

八道濠炭田ニ於ケル夾炭層ヲ上中下ノ三部ニ分チ得ルコトハ前述セシ所ナリ、炭層ハ中部及上部ニ夾有サレ就中重



要ナル炭層ハ何レモ中部ニ夾有サレ上部ニハ僅カニ薄キ炭層ヲ夾有スルニ過キス、而シテ上部下部ニハ薄炭層サヘ夾有セス、八道壕炭礦構内ノ東、臺子後村以西ニ於テ曾テ約三百米ヲ試錐セシモ炭層ニ出會セス僅カニ暗色頁岩及砂岩ノミニ過キサリキ、而シテ木試錐地域ハ確カニ夾炭層ノ下部ニ位セシヲ以テ下部ニハ炭層ヲ夾有セサル可シ、上部ノ炭層ハ戴屯一帶ニ於テ分布シ曾テ採掘セラレシコトアリテ當時ノ坑井今尙存在ス、當時ハ炭層二、三枚ニシテ各層ノ厚サ約二、三尺ナリト云フ、中部ノ夾有スル炭層ハ最も重要ニシテ長イ間採掘サレツ、アルモノナリ、堅坑及試錐ニ依ル柱狀断面圖ニ依レハ稼行ニ堪ユ可キ炭層六枚アリ、之等ノ炭層ハ各所ニ依リ厚サヲ異ニス(堅坑柱狀断面圖参照)第一炭層ハ中部ノ最下底ニ夾有サレ而シテ屢々下部層礫岩ノ隆起ニ依リテ遮斷サル、本炭層ハ「夾ミ」ヲ有シ厚サ一定セサルモ西堅坑ニ於テ約六尺、第一「クロスカット」ニ於テ約九・五尺東堅坑ニ於テ約六尺アリ(何レモ「夾ミ」ヲ除ケル厚サナリ)、北堅坑及第四堅坑ニ於テハ第一炭層ト第二炭層トカ一炭層トナリ其厚サ北堅坑ニ於テ約二十尺、第四堅坑ニ於テ約十七尺ヲ算ス(共ニ「夾ミ」ヲ合シ)第二炭層ハ第一炭層ヨリ極メテ近ク兩層ハ合シテ一層トナル、而シテ礫岩ニ依リ遮斷サレ西及東堅坑ニ於テハ約五尺ノ厚サヲ有ス(「夾ミ」ヲ除キ)第三炭層ハ細質礫岩中ニ夾在シ屢々下部ノ粗質礫岩ニ遮斷サル厚サハ「夾ミ」ヲ除キ西堅坑ニ於テ約四尺、第一「クロス、カット」ニ於テ約八尺アリ、又該炭層ノ僅カ一部分ハ東及北堅坑ニ於テ見ルヲ得、第四炭層ハ礫岩ニ遮斷サレ其厚サ四堅坑ニ於テ約七尺、第一「クロス、カット」ニ於テ六・五尺アリ(「夾ミ」ヲ除ク)第五炭層ハ西堅坑ニ於テノミ發見サレ其厚サ約五尺アリ、第六炭層ハ最上部ニ位スル稼行炭層ニシテ第十三試錐ニ於テ發見サレ其厚サ約五尺ヲ算ス、炭層ノ數及厚サニ就テハ大體前述セシ通りナルカ各炭層ノ間隔ニ就テハ炭層ノ厚薄及斷續一定セサルト、現在ニ於ケル採炭區域ノ狭ナルトニ依リ適確ナラサルモ現在考究セル結果ヲ略述セハ次表ノ如シ

岩層ノ厚サ及間隔表 (上部ヨリ)

炭層	第六層	第五層	第四層	第三層	第二層	第一層
厚	約五尺	五・八尺	六・五―七尺	四〇―八尺	約五尺時ニ第一層ト合シテ一七・二〇尺トナル	六―九五尺時ニ第二層ト合シテ一七―二〇尺トナル
間隔	第五層迄約三〇〇尺以上	約五〇餘尺	第三層迄一〇〇―一四〇	第二層迄一四三〇餘尺	第一層迄二、三尺ト合ス	第一層ト合ス

炭質

八道壕炭ハ炭質優良ナラス、炭種ハ半瀝青炭乃至褐炭ナリ、本炭ハ概シテ灰分極メテ多ク水分モ亦相當アリ、本炭礦ノ坑内ヨリ曾テ採集セル第四炭層ニ就テ農商部工業試驗所カ分析セル結果ニ依レハ水分ハ撫順炭ヨリ多ク又灰分ハ開瀝炭ヨリモ多クシテ優良炭トハ稱シ得サルモ唯燃燒頗ル容易ナル特質ヲ有シ且多少骸炭製造ニ適ス

本炭ニ就テハ又阜新新大新公司ニ於テモ曾テ良質ノ分ヲ分析セシコトアリ、以下本炭ノ分析表ヲ示セハ次表ノ如シ

農商部工業試驗所分析表 (民國十四年)

炭層	水分	揮發分	固定炭素	灰分	灰分色相	骸炭性状	硫黃分	發熱量 (カロリー)
第一炭層	一三・〇六	二七・一六	四〇・九八	一八・八〇	淡黃色	不粘結性	—	六、〇五六
第二炭層	一一・三八	二五・八〇	三五・八四	二六・九八	—	同	—	五、五〇一
第三炭層	一三・七四	二三・九〇	三九・〇二	二三・三四	—	同	—	五、五七〇
第四炭層	九・八三	三四・三三	四八・二二	七・六二	淡黃色	粘結性	〇・二二	七、一五一



炭種	水分	揮發分	固定炭素	灰分	灰分色相	骸炭性狀	硫黃分	發熱量 (卡路里)
最良炭	一三・五二	二二・九九	四五・二七	七・一三	—	不粘結性	〇・七二	六、〇四八
良炭	一三・六五	三〇・五五	四一・六八	一四・一二	—	同	五・六九	五、七九七

### 炭量

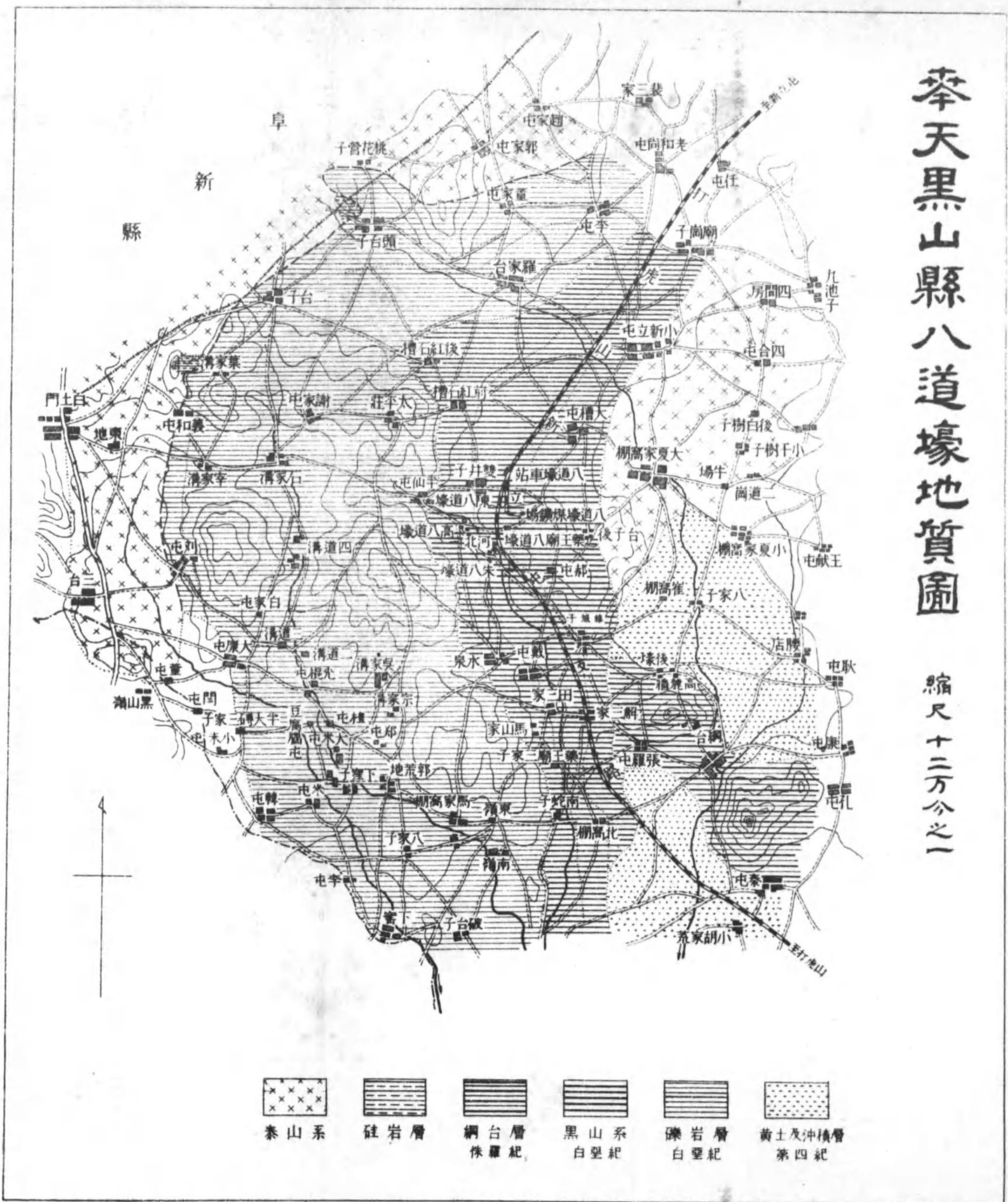
炭田ニ於ケル埋藏炭量ノ計算ハ主トシテ該炭田ノ地體構造並ニ採行ニ堪ユル炭層ノ確實ナル厚サニ基クモノナリ、八道壕炭田ハ屢々局部的ノ斷層ニ依リテ炭層ニ多少ノ影響ヲ及ホスモ極メテ微小ニシテ、地體構造ハ概シテ簡單ナリ然レ共黑山系下部ノ礫岩層ノ隆起(凸起)ニ依リテ屢々下部三炭層カ遮斷(斷絶)サル、ヲ以テ炭量ハ多少減セラル炭層ノ賦存區域ト思惟セラル、地域ハ延長約八軒ヲ算スルモ礫岩層ノ隆起ニ依ル遮斷ニ依リテ下部三炭層賦存區域ノ延長ハ僅カニ全延長ノ半分ニ過キスト思惟サル

地層ノ傾斜ハ緩ニシテ炭層ハ地表下三百米迄採行シ得ヘシ、斯クシテ計算サレタル採行ニ堪ユル炭層ノ幅ハ一千米以下ニハアラサルヘシ、既知炭層ノ平均總厚サハ約九米、比重ヲ約一・一トスレハ本炭田ニ於ケル埋藏炭量ハ約五千九百四十萬噸トナル

### 鑛業概要

## 奉天黑山縣八道壕地質圖

縮尺十二萬分之二





本炭田ハ民國八年ニ發見サレ間モナク阜新縣人劉某ヨリ試掘及採掘ヲ出願セリ、然ルニ其後内部ニ意見ノ相異ヲ來シ幾何モ無ク訴訟問題ヲ惹起センカハ奉天巡閱署ヨリ人ヲ派シテ調査セシメタル結果遂ニ巡閱使ヨリ出資採掘スルコト、ナリ八道壕礦務局ト命名シ閻瑞廷氏ヲ督辦ニ委任シ探礦及採礦ニ着手セリ、其後奉天礦務總局ヨリ管理スルコト、ナリ王正鵬氏ヲ總辦トシ機器其他ノ設備ヲ備付ケ資本二百萬元トセリ、礦區面積約三方支里、總局ヲ奉天ニ置キ總辦ヲ駐在セシム、炭礦ニハ炭礦長ヲ其下ニ坑務、庶務、會計ノ三科ヲ置ケリ、現在堅坑四、斜坑ニアリ、而シテ西堅坑ハ深サ約三百八十尺ニシテ稼行炭層五枚ヲ、東堅坑ハ深サ約百二十尺ニシテ炭層三枚ヲ又北堅坑ハ約八十尺ニシテ炭層三枚ヲ有ス、四號堅坑ハ極メテ淺ク炭層二枚ヲ有ス、次ニ斜坑ノ一ハ東堅坑、西堅坑ノ間ニアリ斜距離長ク下部西堅坑ト通ス一ハ四號堅坑ノ北ニアリ深サ極メテ淺ク未タ採炭セス、石炭ノ搬出用トシテ捲揚機ヲ設置シ排水ニハ唧筒ヲ使用シ動力用トシテ奉天及天津ヨリ蒸汽機關ヲ購入セルモノヲ使用ス

採炭ハ請負制度ニシテ該請負價格一噸小洋二元五角ナリ、通氣ハ自然通氣、照明トシテ坑夫ハ油燈ヲ職(役)員ハ携帶用電燈ヲ使用ス、支柱トシテハ當地產ノ楊及柳等ヲ使用ス

坑夫ノ數ハ現在約三百餘人、產炭額一日約二百五十噸、炭價ハ炭坑ニ於テ塊炭及粉炭ヲ平均シテ一噸奉小洋十六元販路ハ京奉沿線及奉天省城トス、尙聞ク所ニ依レハ本炭礦ハ近年來毎年數十萬元ノ利益アルカ如シ



# 山西省平定縣陽泉保晉公司炭礦調查報告 (抄譯)

中國農商部鑛政司 虞 和 寅

## 第一章 地理概要

### 位置及地勢

陽泉村ハ山西省平定縣城ノ西北十五支里、太原ノ東二百五十支里、石家莊ノ西二百四十支里ニ位シ、四面太行山脈ノ支脈ノ圍繞サル、大行山脈ハ平定ノ東ニ於テ直隸、山西ノ境界ヲ爲シ其ノ間奇峯絕壁、隆起シ平均高度約二千尺餘ニ達ス、本支脈ハ平定ノ西ニ於テハ高サ千尺ニ過キス其ノ以西ハ蜿蜒トシテ高原地帯ヲ形成ス、太行山脈ト本高原地帯トノ間ハ丘陵起伏シ上部ハ黄土ニ被覆サレ中間深谷多シ、是レ即チ陽泉一帶ノ炭田區域ナリ、陽泉ノ西ニ大山アリ名ヲ蒲臺ト稱シ平定八量ノ一ナリ、桃河ハ東西ニ横貫シ平定縣ノ一大河ナリ、平定ハ山西省中部ニ於ケル石炭及鐵ノ最モ重要産地ナリ而シテ鑛質ノ佳良、交通ノ利便ニ於テ陽泉附近ハ絶好ノ區域タリ

### 交通及附近著名都市

陽泉ハ崇山ノ中ニ位スルヲ以テ道路崎嶇、交通又不便ナリ桃河附近ヲ横貫スルモ水量常ナク何等舟運ノ便無キヲ以テ由來石炭、鐵ノ運搬ニハ何レモ馬背ニ依リシモノニシテ正太鐵道ノ開通後ハ本鐵道ニ依リテ各地ニ輸送セラルルニ至レリ

陽泉ト附近著名都市ノ距離ヲ見ルニ、陽泉驛ノ西南二支里ニ小陽泉村アリ更ニ三支里ニシテ太陽泉アリ、又同驛ヨリ北三十支里ニシテ河底鎮アリ孟縣ニ通スル大道ニ當ル又驛ノ西五支里ニシテ平漂鎮アリ更ニ四十支里ニシテ養魚村アリ此處ヨリハ壽陽縣ニ達スルヲ得

### 氣候ト地上作業トノ關係

氣候ハ概シテ溫和ニシテ冬季最低溫度ハ華氏三十度夏季最高溫度ハ百五度ヲ示ス、結氷期トシテ地上作業ノ不能期間ハ陽曆十二月下旬ヨリ翌年三月上旬ニ至ル約七、八十日間ナリ

### 重要物品ノ供給及價格

住民ハ米及麪ヲ主食ス、而シテ附近一帶ニ於テ産スル所ハ需要ヲ充タスニ足ラス、價格ハ民國八年ハ七年ニ比シテ多少低廉ナリシモ九年ニハ兎作ナリシカ爲物價ノ昂騰ヲ來タセシモ十年及十一年ニハ稍々低落セリ、然レ共是ヲ三年以前ニ比較スル時ハ尙低廉トハ云ヒ難シ

保晉公司ハ各鑛廠内ニ供給所ヲ設ケ主要食用品ヲ準備シテ工夫ノ自由購買ニ便ス

### 用水ノ供給

當地附近使用ノ水ハ多ク井戸水ナルモ、陽泉驛附近ハ數箇ノ井戸ヲ有スルニ過キササルヲ以テ夏季雨少キ時ハ井戸水漸次涸渴スルヲ以テ河水ヲ使用シテ不足ヲ補フ、民國九年此ノ地ニ大旱アリテ河水モ涸渴シ爲ニ住民ハ數支里ノ遠キニ至リテ汲水セシ者サヘアリタリ、保晉公司ノ各炭鑛及製鐵所ニハ何レモ井戸ヲ有スルヲ以テ井戸水ヲ使用シ得

### 陽泉ノ近狀及金融機關

陽泉ハ平定縣ニ於ケル石炭及鐵ノ輸出中心地ナレ共人口ハ多カラス大小兩陽泉ヲ合シテ數百戸ニ過キス、金融機關



ハ多ク平定縣城内ニ設ケラレ陽泉地方ハ僅カニ錢鋪數戸アリテ金融ニ資スルニ過キス、流迪貨幣ハ銀圓及銅圓ノ二種ニシテ前清時代ノ制錢モ亦相當使用サル

### 第二章 鑛 區

#### 鑛區名稱及位置

保晉公司カ陽泉附近ニ於テ所有スル石炭鑛區ハ大小合計七箇處ニシテ之等各鑛區ノ名稱位置、鑛區面積、登錄種別及登錄年月等ヲ示セハ次ノ如シ

鑛區名稱	公司ノ各鑛區	位置
(一) 簡子溝鑛區(原名鐵爐溝鑛區)	第一鑛廠	正太鐵道ノ南側ニ位シ陽泉驛ノ西方六支里
(二) 燕子溝鑛區	第二鑛廠	正太鐵道ノ南側ニ位シ簡子溝鑛區ノ西約二支里陽泉驛ヨリ七支里
小南溝鑛區	同上	同上
(三) 賈地溝鑛區	第三鑛廠	桃河ノ北方ニ位シ東南桃河ヲ隔ツ陽泉驛ヨリ約二十支里
(四) 先生溝鑛區	第四鑛廠	桃河ノ北方ニ位シ陽泉驛ノ西北
(五) 平潭瑣鑛區	第五鑛廠	桃河ノ北岸位シ東南ニ桃河ヲ隔ツ陽泉驛ヨリ一支里餘
(六) 漢河溝鑛區	第六鑛廠	陽泉驛ノ正北十五支里ニ位シ中間桃河ヲ隔ツ

#### 鑛區面積及其登錄年月日

今各鑛區ノ面積及其登錄年月日ヲ示セハ左ノ如シ

鑛區名	鑛區面積	登錄種別	登錄年月
簡子溝	六方支里五百〇六畝五分六厘	探掘	民國八年八月
燕子溝	八方支里九十六畝四分二方丈八十四方尺五十方寸	同	同 七年八月一日
小南溝	八方支里五百十八畝九分五方丈六十八方尺	同	同 七年八月一日
賈地溝	九方支里五百三十五畝一方丈	同	同 九年五月十九日
先生溝	二方支里五百二十六畝四十六方丈三十六方尺	同	同 七年五月二日
平潭瑣	一方支里四百〇五畝四十七方丈六方尺	同	同 七年五月二日
漢河溝	二百五十一畝三十六方丈六十八方尺	同	同 七年七月三十日
合計	三十九方支里百三十九畝三十七方丈二十二方尺五十方寸		

#### 附近土法炭坑及隣接鑛區狀況

保晉公司所有ノ簡子溝鑛區ト燕子溝鑛區トノ中間ニ昌煤礦公司所有ノ蔡窪溝鑛區アリ、各々ノ距離約一支里ナル關係上屢々紛糾ヲ生シ作業ノ運行上大ニ阻害セリ、賈地溝ノ東南ニ於テハ土法炭坑區カ凸入セリ、漢河溝鑛區ハ東ハ寶興坑ト東南ハ都瑞鄉坑ト相連ル其他附近各處ニ無數ノ小炭坑散在シ大層(一丈八尺)又ハ小層(七尺)ヲ探掘ス本公司ノ鑛區内ニ於テ七尺層ヲ探掘スル者アル時ハ本公司ハ之ト契約ヲ締結シテ探掘ヲ許スモ一丈八尺層ノ探掘ニ對シテハ絶對ニ許サス、且ツ昨年(民國九年)以來山西省ニ於テ小鑛業者保護ノ目的ヲ以テ鑛業單行條例カ公布サレ各大鑛業者ハ許可證ニ於テ認可サレタル區域以外ニ小鑛業者ハ鑛區限界ヲ犯スコトヲ禁セラレタルヲ以テ、各小炭坑々區ノ探掘ニ



就テモ斟酌セサルヘカラス、之即チ一方本公司トシテモ作業上頗ル阻害スルヲ免レサル所ナリ

### 第二章 地質及炭層

#### 地 質

本地域ニ於ケル地質竝ニ地層ノ層序ハ極メテ整然タリ、本地域ニ於ケル地質及地體構造ハ之ヲ大體東中西ノ三段ニ分ツ得ヘシ、即チ東段ハ太行山區域ニシテ全部冀州系(Ordovician)ヨリ構成セラレ石灰及鐵鑛ヲ夾有セス、本地域ヨリ以西ハ中段ニシテ鐵鑛ノ露頭各地ニ存在シ五渡、桃坡、楊家莊、煙裏、林裏、南瑤莊、千畝坪、三郊、楊樹溝等ノ諸村ハ何レモ鐵鑛ノ賦存區域ニシテ北ヨリ南方ニ細長ク延長ス、本區域ニ於ケル鐵鑛ハ冀州系石灰岩ト夾炭層トノ間ニ賦存シ二酸化鐵( $Fe_2O_3$ )ニシテ紅棕色或ハ黃色ヲ呈シ時ニ核狀ヲ呈ス、又氣孔多ク一定ノ形式無ク且分布甚タ廣シ而シテ鐵鑛ノ石灰岩ノ裂隙中ニ含有サルル量最多シ、本石灰岩ハ品質佳良ニシテ良好ナル石灰ノ製造ニ適ス、又鐵鑛ノ上部(即チ夾炭層ノ最下部)ニハ常ニ灰白色ノ耐火粘土ヲ存シ土人ハ常ニ之ヲ以テ製鐵用坩堝或ハ模型等ヲ製造ス、此處ヨリ以西ハ西段即チ夾炭層區域ニシテ平潭壩、李家莊、馮家莊、漢河溝、上下蔭營、三都、葦瀑、河底、蒙村、賽魚村等ノ各地ハ何レモ即チ產炭區域ナリ

夾炭層ハ砂岩、石灰岩、頁岩、泥板岩、礫岩及石炭等ヨリ成リ燧石質(土人固石ト稱ス)及化石ヲ含有ス、此ノ固石ハ採炭上重要ナル標識トナルモノニシテ即チ採掘中一度固石ニ會セハ其ノ下ニ必ス炭層ノ存在ヲ認識シ得、之ヲ要スルニ平潭壩ト平潭壩ノ北方五十支里ナル孟縣ノ清河鎮トヲ結ヘル南北線ヨリ以西ハ何レモ夾炭層ノ分布區域タリ、唯、西南シテ坡頭村ノ西ニ至レハ地勢隆起シテ高原ヲ形成シ砂岩ノ分布多クシテ炭層ヲ夾有セス

以上三區域ヲ總括スルニ、坡頭村東方一帶ノ炭田ハ最上層、五渡村等ノ鐵鑛諸產地區域ハ中部層、太行山ノ冀州系ハ最下層區域タリ即チ地層ハ東ヨリ西ニ傾斜スルヲ以テ鐵鑛及石炭層ハ尙高原地帯ニ斜入スルモノト思考スルモ現在高原地帯ニ於テ鐵鑛及石炭ヲ採掘スルモノナシ

#### 炭 層

夾炭層ハ古生代石炭紀ニ屬ス炭層ハ簡子溝鑛區附近ニ於テハ上部ヨリ二尺層、七尺層、一尺層、三尺層、四尺層、二寸層、一丈層、八尺層、四寸層等(地層柱狀圖參照)ノ順ニシテ何レモ地表下三百尺内外乃至千尺ニ存在スルヲ以テ採掘極メテ容易ナリ

炭層中最モ厚キハ一丈八尺層ニシテ土人ノ「丈八煤」ト稱シ本炭田中最モ重要ナル炭層ニシテ保晉公司各炭鑛ニ於ケル稼行層ハ即チ之ナリ、本炭層中ニハ薄キ夾ミヲ夾有スルヲ以テ土人ハ更ニ之ヲ上脈及下脈ト稱ス

炭層ハ大體走向東南—西北ニシテ西南ニ約七—八度傾斜スルモ時ニ地層ノ影響及小斷層等ニヨリテ局部的ニ種々變化ス

### 第四章 炭量及炭質

#### 炭 量

平定炭田ハ區域甚タ廣ク其ノ埋藏炭量モ極メテ豐富ナルヘキモ全區域ニ亘ル詳細ノ測定ハ不可能ナリシヲ以テ唯保晉公司所有ノ七鑛區中主要層タル丈八煤層ノミニ就テ計算セルニ次ノ如シ



鑛區名	鑛區面積	層厚	炭層體積	炭量
簡子溝	六方支里五百〇六畝五分六厘	一八尺	四〇四、六二八、四八〇	一四四、六八八、七四・二〇
燕南溝	十七方支里七十五畝四分二方丈五十二方尺五十寸	一八	九九九、五八七、七三六	三五、六九九、五七二・九五
小地溝	九方支里五百三十五畝一方丈	一八	四七四、六六一、八〇〇	一六、九五二、二〇七・一〇
買地溝	二方支里五百二十六畝四十六方丈三十六方尺	一八	一七三、四五六、九二八	六、一九四、八九〇・〇〇
先生溝	一方支里四百〇五畝七方丈六方尺	一八	一〇二、〇六八、五六八	三六四、五三〇・〇〇
平潭溝	二百五十一畝三十四方丈六十八方尺	一八	二七、一一五、三四四	九六七、九八〇・〇〇
淡河溝	三十九方支里百三十九畝三十七方丈二十二方尺五十寸	一八	二、二八九、五五九、〇〇五	八一、七六九、九六四・四六
總計				

備考 本地ノ石炭ハ其比重平均一・三ニシテ一立方尺ノ重量六十斤即チ一噸ハ千六百八十斤ニシテ其斤數ニヨリテ得タル數ナリ  
右ノ表ヲ觀ルニ保管公司所有七鑛區ニ於ケル丈八煤層ノ炭量ノミニテ既ニ八一、七六九、九六四噸ヲ見タリ、若シ上部層タル四尺層及七尺層ノ炭量四九、九七〇、五三四噸ヲ加算スルトキハ一三一、七四〇、四九八噸トナリ更ニ其他ノ炭層ヲ合算スルトキハ其ノ炭量ハ實ニ莫大ナル數量ニ達スヘシ

炭質

炭質ハ無煙炭ニ屬シ質堅硬緻密ニシテ純黑色ヲ呈シ光澤ヲ有ス、常ニ大塊トシテ採掘シ得、桃河ノ北岸ニ賦存スルモノハ南岸ニ賦存スルモノニ比シテ質極メテ堅硬ニシテ比重一・三五、固定炭素八〇%以上ヲ含有シ發熱量モ高シ、燃焼シ難ク初メ燃焼スル時火焰極メテ微小ナリ

本炭ハ粘結性無ク且灰分稍々多ク多少燐及硫黃ヲ含有スルヲ以テ骸炭原料トシテハ使用シ難ク僅カニ家事用炭トシテ使用シ得  
今各鑛區ノ產出石炭ノ分析表ヲ示セハ左ノ如シ

成分	簡子溝	燕南溝	買地溝	先生溝	平潭溝	淡河溝
水分	〇・四六%	一・一四	〇・三四	二・七八	二・二〇	二・八七
揮發分	七・二三	八・四六	八・三五	一〇・九五	九・四〇	一〇・八六
固定炭素	八五・八〇	八六・八四	八五・八〇	八一・六八	八〇・〇〇	八一・七二
灰分	五・六二	三・五六	四・六二	四・五九	八・四〇	四・五五
硫黃	〇・八九	〇・九八	〇・八九	〇・八四	一・九六	〇・八八
發熱量	七二五四・一	七八二五・五	七九五六・〇	八〇五五・〇	七八〇一・一	八〇四五・〇

備考 發熱量ハカロリーヲ以テ單位トス

第五章 保晉公司沿革

前清光緒二十四年、山西商務局ト英商福公司ト山西省鑛產採掘製鐵運搬ニ關スル章程二十條ヲ締結シ孟縣平定州、潞安、澤州、平陽府各地ニ於ケル石炭鐵及其他ノ石炭、石油ノ各鑛產ハ凡テ福公司ノ獨專ニ歸セリ光緒二十六年（明治三十三年）以後正太鐵道カ平潭ニ達セントスルヤ福公司ハ人ヲ派シテ山西省ノ鑛產ヲ調査セシメ一方英國公使ニ申請シ



テ外務部ニ照會シ前記章程ニ準據シテ潞、澤、平定、孟、平陽府等ニ於ケル各鑛ニ於テハ他人ノ開採ヲ許ササルコト並ニ土人ノ開採セル各鑛ヲ一律ニ閉鎖セントセリ、是ニ於テ省民大ニ憤激シ廢約ヲ主張スルト共ニ回收自辦ニ勉メタリ、即チ劉懋賞氏、馮濟川氏等聯名ノ上恩靈堂中丞(巡撫)ニ申請シテ全省ノ各種鑛產ヲ開採スル爲ニ保晉鑛務公司ヲ創設シ渠本勳氏ヲ舉ケテ總理トシ光緒三十二年(明治三十九年)ノ冬ニ開辦セリ、序テ翌三十三年ノ春、北京在職ノ官吏趙國良等章程ヲ具シテ農工商部ニ申請シテ其ノ許可ヲ請ハントセリ、福公司方面ニアリテハ屢々山西省ノ官吏紳商等カ外務部ト福公司ト力爭シ遂ニ三十三年十二月山西商務局ヨリ福公司ニ協議シテ回收(買戻)契約十三條ヲ締結シ潞澤、平定、孟、平陽等諸縣ノ各鑛產ノ採掘權ヲ完全ニ回收(買戻)シテ自辦トスルト共ニ、政府ノ認可ヲモ得タリ、本契約ハ大體山西省ノ準備金ヨリ元實銀トシテ二百七十五萬兩ヲ支出スルコトトシ光緒三十四年正月ニ先ツ其ノ半額ヲ交付シ殘額ハ三箇年ニ交付スルコトトシ同時ニ福公司ノ契約セル鑛產採掘製鐵、運搬章程ノ全部ヲ回收スルコトトシ、福公司ハ平定州ニアル所有設備、機械類及先ニ契約セル五箇所内ニ於テ既ニ購入セシ鑛產物ヲ全部商務局ニ返還スルコトトシ、又福公司使用人ノ賠償ヲ要求スル者ニ對シテ該公司カ自ラ負擔スルコトトセリ、本回收資金トシテ山西省ノ地租稅ヲ毎年全額ヲ支出シ若シ不足ヲ生セハ他ヨリ借入レ此ノ借入金ノ元利モ亦地租稅ヨリ漸次返還スルコトトセリ、本回收資金ヲ完済セサルトキハ地租稅ノ改正或ハ減免ヲ許サス、若シ地租稅ヲ本資金ニ使用セサルトキハ山西省ノ大官ハ隨時他ノ資金ヲ提出シテ以テ不足ヲ補フヘシ、而シテ今回福公司ハ自己ノ所有利益ヲ返還セシヲ以テ將來山西省ノ鑛務、製鐵、運搬等ニ於テ萬一外債ヲ必要トスル場合ハ先ツ山西省ヨリ福公司ニ協議シ協議不調ノ上ハ他ニ協議スルコトヲ約ス、等ヲ定メ是ニ於テ保晉鑛務公司ハ遂ニ完全ニ成立セリ、同三十四年株金ヲ募集シテ各鑛ヲ開採シ以テ福公司ニ對抗シ利源ヲ開發センコトヲ期セリ序テ民國七年株主例會ニ於テ原章程ノ修正案ヲ農工商部ニ呈請シ

### 第六章 公司ノ組織

テ翌八年三月十八日農工商部ノ認可ヲ經テ登錄サレ許可證ヲ發給セラレタリ  
渠前總理ハ宣統二年就官ノ爲メ入京スルノ故ヲ以テ辭職ヲ請ヒタルモ公衆ノ切望ニヨリテ總理ヲ主持スルコトナリ、劉篤敬氏ヲ副總理ニ任命セリ、民國五年劉前總理ハ老年ニシテ繁務ニ堪ヘサルノ故ヲ以テ辭職セシヲ以テ同年八月崔廷獻ヲ總理ニ推シ以テ今日ニ及ヘリ

董事會 該公司ハ株主會ヨリ董事七人ヲ選任シテ董事會ヲ組織シ毎月十五日一回太原ニ於テ開會シ公司ノ重要事項ヲ議決ス、又株主會ヨリ監察人(監査役)四人ヲ選任ス、公司ノ帳簿、財産及業務ハ何レモ隨時檢査ヲ受クルモノニシテ又年末ニ於テ帳簿ノ決算ヲナシ署名報告スルモノナリ

總務處 董事會ヨリ總理、協理各一人ヲ推舉シテ、總務處ヲ組織シ公司全體ノ事務ヲ執行ス

總公司及分公司所在地

總公司及分公司ノ所在地、開設年月等ヲ示セハ次ノ如シ

公司名稱	開業休業年月		備考
	創業年月	休業年月	
保晉公司	光緒三十二年十月		曾テ太原ニアリシカ民國五年八月二十九日陽泉ニ遷ス
正定支店	光緒三十二年六月		



石莊支店	光緒三十三年七月	民國六月二月		
天津支店	光緒三十四年九月			
保定支店	光緒三十四年九月			
澤州支店	光緒三十三年二月	光緒三十四年八月	宣統三年二月	
北京支店	宣統二年七月			
壽陽支店	宣統元年七月			
大同支店	宣統元年十月			
上海支店	民國四年十月	民國七年四月		壽榮公司ヲ引繼ク

### 第七章 職員

職員數 本公司ノ職員ハ董事七人、監察人四人ヲ除キ總公司三十六人、第一鑛廠九人、第二鑛廠五人、第三鑛廠十四人、第四鑛廠十二人、第五鑛廠九人、第六鑛廠七人、陽泉鐵廠(製鐵所)三十九人、此ノ内兼務者五人ヲ除キテ合計百二十六人ナリ

### 第八章 各鑛廠概要

陽泉附近ニ於テ公司ノ所有鑛區七箇處アリ  
今各鑛廠ノ開掘經過及開坑狀況ヲ次ニ略述ス(採炭、運搬、通風、排水等ノ各項ニ就テハ後章ニ詳述ス)

#### 一、簡子溝炭礦第一鑛廠、原名鐵爐溝

光緒三十二年既ニ石炭ヲ發見シ堅坑二箇所ヲ開鑿セリ直徑十三尺及十尺ニシテ捲揚機械ヲ裝置シ民國五年ニ於ケル産額ハ一日既ニ二百餘噸ニ達シ更ニ擴張セントセシ際適々隣接鑛區タル建昌公司所有ノ蔡窪溝鑛區トノ間ニ紛糾ヲ生シ爲ニ作業ノ進行上大ニ阻害セリ而シテ民國六年九月ニハ遂ニ建昌公司ノ堅坑ト共ニ水没セリ其後別ニ鑛區圖ヲ作成シ簡子溝炭礦ト改稱シ、舊堅坑ノ東ニ二斜坑ヲ開鑿シ六年十月出炭ヲ見又大簡子溝内ニ別ニ第一堅坑ヲ開鑿シ之モ亦既ニ出炭ヲ見タリ、本鑛區採掘ノ出願ハ相當早カリシモ紛糾多ク時ヲ經ルコト數年八年八月ニ至リテ漸ク許可證ノ交附ヲ見タリ、此レヨリ初メテ積極的ニ進行シ第一斜坑ヨリ坑内ニ輕便鐵道ニ支里餘ヲ敷設シテ東南ノ二大幹線路トナセシヲ以テ坑内ノ石炭運搬ハ愈々便利トナレリ、坑口ニハ捲揚機ヲ設置ス、一回ノ捲揚能力ハ半噸炭車四箇ニシテ從前ニ比シテ容易トナレリ、第二斜坑内ニハ一座ノ火爐ヲ設置シ石炭ヲ煨燒シテ以テ通風ヲ便ス又唧筒ニヨリテ坑内ノ排水ヲナス

本鑛ハ坑内ノ設備稍々備ハリシモ坑外ノ地積カ正太鐵道ニ接近セル爲發展期シ難キヲ以テ該鐵道局ト協議ノ結果鐵道ヲ北ニ移動スルコトトナリ八年九月末ヨリ起工シ九年十月迄ニ其ノ移動ヲ見ルニ至リシヲ以テ坑外ノ地積モ以前千噸ヲ貯炭シ得ルニ過キサリシモノカ今日ハ一萬餘噸ヲ貯炭シ得ルノ廣サヲ有スルニ至レリ

第一斜坑ノ西ニ元土人牛八斤氏ノ聚源峯一座アリ、八年十一月二十一日日本公司ニ買收サル、該峯ニハ元堅坑一、斜坑一ヲ有ス、此ノ斜坑ハ現在第四斜坑ト命名ス

本鑛區内ニハ主要斷層無キモ地層多ク波紋狀ヲ呈シ此ノ波紋狀曲折ノ最モ著シキモノニアリ而シテ此ノ曲折ハ採掘運搬上ニ相當惡影響ヲ及ボス



今第一鑛廠ニ於ケル各坑道ニ就テ見ルニ次表ノ如シ

類別	坑名	構造	用途	延長	開鑿	費用	備考
第一	第一斜坑	高七尺幅九尺ノ斜坑ニシテ傾斜平均十一度	風ヲ排出及捲揚機ヲ用ヒテ主要坑道	四十丈	民國六年十月	二、〇〇八	
第二	第二斜坑	高六尺幅七尺ノ斜坑傾斜平均十二度	送風シテ工人ヲ出入セシム主要坑道	四十丈	民國六年三月	一、〇六〇	延長ハ殆ト水平ニシテ僅カニ傾斜セルモ平坦路ニ非ラス
第四	第四斜坑	約六尺ノ斜坑ニシテ傾斜約十二度	送風、人力ニテ搬出、坑内道	四十五丈			牛氏ヨリ買取セル坑
第一	第一豎坑	直徑十尺ノ圓形豎坑坑ノ内側ハ石材ヲ圍ラス	風及水ヲ排出シ人力ニ搬出、坑道	二十丈	民國七年三月	一、五八二	

二、燕子溝小南溝鑛廠(第二鑛廠)

本鑛ハ光緒三十四年ノ創業ニシテ英人技師德鑑明<sup>トドカシ</sup>ニヨリテ開鑛ヲ計畫セラレ宣統元年夏季機械ヲ設置シ鐵道ヲ距ル四百尺ノ地ヲ撰ミテ一豎坑ヲ開キタルガ掘下六十尺ニ達セズシテ流砂ニ遭遇セルタメ木板五十餘噸ヲ使用シテ下坑ヲ支持シタルモ何等ノ効果ヲ見ズ遂ニ土石ヲ以テ填充シ此坑ノ西方二百八十尺ノ處ニ別ニ新坑ヲ開ケリ是レ宣統元年十月ノ事ナリ、此坑ハ山麓ニ近キヲ以テ地層緩漫深サ九十尺餘ニシテ始メテ出水ヲ見タリ、又掘進中屢々「メタン」瓦斯ニ遭遇シ爲メニ所用ノ油燈ヨリ引火シテ發火セシコトアリ宣統二年五月二十一日未明八名ノ石工豎坑内ニ於テ從業中突然唧筒工ノ使用スル油燈ヨリ引火シテ坑内ニ延燒シタルタメ工人ノ過半ハ死傷(死亡一名)セリ之レ第一次ノ災害ナリ

其後停工數日ニシテ六月二日請負小頭馬某ハ黑煙火藥ヲ用ヒテ開鑿ニ從事シタルガ作業二日間ハ安全ナリシモ同四日朝七時頃該工人等下坑シテ火藥ヲ裝置シ正ニ點火セントスルヤ突然全坑爆發シテ坑内ニアル八名ノ工人ハ慘死セリ之レ第二次ノ災害ナリ、宣統三年四月請負小頭左某請負ヲ契約シテ專ラ人力ニヨリテ掘鑿シ火藥ヲ使用セズシテ深サ三十餘尺ヲ掘リ下ケタルガ五月七日該工人等ハ坑底ニ於テ喫煙セルタメ引火爆發シテ鑛夫九名ノ死傷者ヲ出セリ之レ第三次ノ災害ナリ六月獨逸技師貝哈格氏<sup>ベハグ</sup>ヲ聘シテ該鑛ノ調査ヲ請ヒタルガ氏ハ瓦斯一方吋ニツキ四十五磅乃至五十九磅ノ大壓力ヲ加ヘ空隙ヨリ發生シテ坑底沈積スル瓦斯ヲ發散セシメタル後ニ非ラサレバ作業スル能ハズト稱セリ故ニ當時ハ更ニ他ニ地ヲ撰擇シテ新坑開鑿ノ議アリシモ此後處理ノ方法ナキタメ停工數年ニ及ビ民國四年九月再ビ電氣火藥ヲ用ヒテ開鑿セント欲シ淤渣ヲ吸ミ出シ黃色火藥ヲ裝入シテ電線ヲ引キ六十尺餘ノ距離ヨリ雷機ニテ引火シタルニ爆發雷ノ如ク全坑ヲ震動シ死傷者ハ出デザルモ坑内ノ木板及ビ坑口ノ機具等ハ總テ破壊セリ之レ最後ノ災害ナリ民國六年四月臨城炭礦次長鄭榮光<sup>テイテイ</sup>ヲ聘シテ來鑛視察ヲ請ヒタルガ氏ハ此ノ鑛ヲ暫ク休止シテ他ノ鑛ニ着手スルコトヲ勸告シタルモ其後該公司同人等ノ畫策ニヨリテ先ツ土法ニヨリ專ラ人力ヲ以テ開鑿シ或ハ電燈ヲ設置シテ採光ヲ計リ慎重ニ從事シ漸次成功ヲ期セントシ同七年一月起工シテ坑内ヲ排水シ四月二十一日土石ノ掘鑿ニ着手シ坑底ニ若干ノ水ヲ留ムルハ掘鑿ノ際ニ於ケル發火ヲ防グニアリ、且ツ晝間ノミノ作業ニ止マリ夜間ハ暗黒トセリ之レ八月一日ノ屆出デニハ晝間作業トセシガ進行緩慢ニシテ探險電燈ヲ用ヒテ夜間作業ヲ增加スルニ如カズトシ二馬力ノ小電機一機ヲ購入設置シ十一月二十日夜班ヲ設ケ晝間作業シタルガ合計十有七ヶ月即チ八年九月十五日ニ至リ掘下百五十五尺五寸ニ至リ始メテ炭層ニ達シタリ然シテ曾テ掘下セル百六十八尺ト合シテ三百二十三尺五寸ト尙炭層下二十八尺掘リ下ゲ合計三百五十一尺五寸ニ及ベリ其ノ口徑ハ十四尺ニシテ是レヲ東井ト稱ス、此ノ坑ハ災害ヲ蒙ルコト前後四回死傷者十



四名ヲ出シ其他多數ノ損害ヲ受ケテ内外鑛師モ均シク拱手望看ノ止ムナキ状態ニアリテ休止ヲ勸告シタルガ目下人力ヲ以テ掘鑿セルタメ進行緩慢ニシテ着手ヨリ着炭マデ一年有餘ヲ費シタリト雖モ毫モ災害ヲ受ケズ工人ノ負傷等モ見受ケザルハ前後ト比較シテ誠ニ幸トスル所ナリ

八年九月着炭ヨリ尙掘鑿ヲ續行シ並ニ東西ニ坑道ヲ開キ圍砌坑ニハ先ツ坑底ヨリ始メ此圍ヲ百七十尺以上トシ會テ圍石ニ用ヒタルセメントノ盤ト接シ然ル後坑内ノ上段ニ更ニ圍砌ヲ施スコト深サ百尺トセリ九年五月ニ至リ漸ク上下二段ノ完成ヲ告ケタルガ其中間ニ約六十尺餘瓦斯發生ノ箇所アリテ之ハ以前工事ヲ施シタル沙石、嚴密ナラザル爲ニシテ頗ル危險ナルヲ以テ九年六月舊石ヲ撤去シ全部セメントヲ用ヒテ築壁ニ接續シ壁内ニハ排氣孔ヲ設ケ鐵管ヲ接續シテ該瓦斯ヲ小井内ニ引入シ更ニ小井ヨリ空中ニ放出セリ八月下旬ニ至リ全坑ノ圍砌工シ瓦斯モ小井ヨリ空中ニ放出スルニヨリテ坑内瓦斯ノ發生ハ其跡ヲ絶テリ九年九月以後坑内ノ裝置ニ著手シ十五尺ヲ隔ツル毎ニ工字形ノ鐵梁ヲ置キ梁ノ兩邊ニハ四十五磅ノ鐵軌ヲ用ヒテ其ノ外部ニ堅ク嵌メ込ミ鐵梁破損箇處ノ修理換ヲ區別セリ十二月五日雙煤車ノ吊臺ヲ製造シテ坑井ニ却シ上昇ニ際シテ石炭ヲ裝入搬出スル裝置トナスナリ此東井ガ全ク竣工ヲ告ゲタル状態ナリ 鑛井ノ通氣ニハ兩口相通シテ呼吸ニ差支ナカラシム此ノ坑ノ附近ニ元來深サ百三十尺ノ小堅坑一箇距離甚ダ近クシテ十五尺ニ過ギズ又其東ニハ深サ九十尺及百二十尺ノ兩堅坑アリシガ共ニ出水及瓦斯發生ノタメ古ク廢止セラレタリ是レニ因テ一地ヲ撰定シ東井ヲ距ル較遠キ六百尺ノ處ニ更ニ通風堅坑ヲ開キテ瓦斯ヲ放出スル裝置ヲナセリ此レヲ西井ト名ヅク口徑十六尺内徑十三尺ニシテ七年一月二十四日工事ニ着手八月十二日掘下百一尺八寸ニ及ビ内百〇四尺ノ間周圍ニ石材ヲ疊ム、坑内出水ヲ調査セルニ三晝夜ニ積水四十尺餘ニ及ヒタルヲ以テ仰筒ヲ設置シ東井ノ鍋炉房ヨリ蒸汽管ヲ連結セリ八年一月一日ヨリ工事ヲ繼續シ四月七日ニ至リ更ニ四十一尺五寸ニ掘下ゲタルガ水勢大ニ加リテ

前記仰筒ニテハ不足ヲ告ゲ且ツ掘下漸ク深クナルニ從テ轆轤ノ使用ニ最モ不便ナルタメ更又稍大ナル仰筒、起重二噸ノ捲揚機及高サ三丈ノ捲揚架一箇ヲ設置シ仰筒設置完了後ヨリ掘下ヲ繼續シ九年十月下旬ニ至リ更ニ深サ三十八尺五寸ヲ掘下シ漸ク瓦斯發生セサル處ニ達シタリ之ニ於テ東井圍砌ノ法ヲ用ヒテ瓦斯ヲ井壁ノ内ニ圍入ス圍石ハ七十三尺八寸ニシテ前ニ砌セシ石層ハ相接セリ、民國十年九月ニ至リ更ニ深サ九十八尺二寸ニ掘下シ合計深サ二百九十尺ニ達ス着手ヨリ十二年五月末ニ至リ之レニ要シタル全額一萬三千三百九十九元餘ニ及ベリ現在(民國十二年五月)連波井ノ深サ三百二十二尺ノ深サニ達ス之レ西井施工ノ狀況ナリ

本鑛ノ着手ニハ十年前ニ於テ三十萬元以上ヲ費シ目下東西兩井ハ共ニ前後シテ完成シ民國九年九月十五日以來出炭シテ効果稍々見ルベキナリ 東井ハ掘下二百尺ノ箇處ニ於テ偶然斷層ニ遇ヒ頗ル堅硬ナル石灰岩ナルヲ以テ施工困難ナリ其下ニ炭層アルモ壓力ノタメ粉碎セリ西幹道ノ炭層ハ又裁斷セラレタルタメ石道ヲ開鑿シテ西段ノ炭層ニ通セリ 掘鑿スル所ノ東西兩坑ハ共ニ鑛區ノ東ニ偏セルタメ將來坑内ノ採炭ハ漸次西方ニ向フベキモ通風運搬ニハ困難多カルベシ

今東西兩堅坑ノ構造用途延長内之ニ費セル年月費用等ハ左ノ如シ

類 別	坑 名	
	東	西
構造	直徑十四尺ノ圓形堅坑ニシテ石材ノ圍砌ヲ用フ	直徑十三尺ノ圓形堅坑石材ノ圍砌ヲ用フ
用途	送風及石炭ノ吊揚ケ	瓦斯及水ノ排出



延 長 自 地 表 至 坑 底	三百五十一尺五寸	三百二十二尺
開 鑿 年 月 日	宣統元年十月	民國七年一月
費 用	一〇、一九三圓	一三、三一九圓
備 考	石炭下ノ水池八尺炭層二十八尺ヲ除キ石層ノ掘下三百二十三尺五寸	石炭下ノ水池八尺炭層二十尺ヲ除キ石層ノ掘下二百九十四尺

三、賈地溝鑛廠(一名第二鑛廠)

賈地溝煤鑛ハ前清光緒三十三年土法ニテ開拓シ東西兩豎坑ヲ掘鑿シ宣統元年二月着炭シ民國七年三月登錄ヲ申請シテ採掘許可證下附セララル、藏地卷ノ一箇處ハ光緒三十三年兩豎坑ノ開鑿シタルガ出水ノタメ停止ス此ノ坑口ハ賈地溝坑口ヲ距ル僅ニ二百五十餘尺ニシテ相距ルコト遠カラザレバ賈地溝區内ニ劃入セラルベキモ中間ニ砂岩アリテ斷層東西ニ及ビ賈地溝及藏地卷鑛床ハ南北ニ兩斷セラレタルガ故ニ之ヲ兩區ニ分テ、七年六月十五日藏地卷ノ試掘許可證ヲ下附セラレ八年一月賈地溝坑道ヨリ此ノ斷層ヲ掘鑿シテ西坑ヲ聯絡シタルタメ工事、經濟、管理等種々便利ヲ計ル目的ヲ以テ八年三月兩區ノ併合竝ニ鑛區面積ヲ擴張シ前ニ下附セラレタル採掘許可證ノ交換申請ヲナシ以テ採掘ニ便セリ此レ本鑛開始ニ立案セル狀況ナリ

其施工ノ狀況ニ於テハ前ニハ土法ヲ以テ採掘ヲ行ヘルガ、民國六年鐵爐煤鑛ノ浸水以來始メテ計畫ヲ擴張スルコトニ定メ最初ノ西坑口ノ廓大ニ從事シ次ニ鍋爐捲揚機ヲ坑口ノ上ニ安置シ又出炭漸次多キニ至レバ專ラ驢騾ニ依ルモ困難ナラサルベシ七年ノ冬季本廠ヨリ賽魚車站ニ至リ輕便鐵軌四里半ヲ敷設シテ輸送ノ便ヲ計リ又賈地溝東西兩坑口ノ中間ニ東西ニ向ツテ一ノ斜道ヲ有シ上下ノ差約四十尺トス而シテ斜道上盤ノ石炭ハ頗ル微細軟弱ニシテ自動輪ヲ作ル

ニ不便ナレバ斜道上盤ノ石炭ハ引力ニ依リテ下方ニ運搬スルコト、セリ故ニ九年 鍋爐及捲揚機ヲ設置シテ搬出ニ資セリ該鑛區ノ面積ハ比較的大ナレバ若シ採炭箇處ヲ增加セラルニ於テハ產殖ノ增加ヲ圖ルハ容易ナラザレバ八年東莊溝ニ新ニ直徑十尺ノ一豎坑ヲ掘鑿シ九年ニ完了シ並ニ東部狐家溝ノ馬頭ノ舊鑛ヲ買收シテ修理ヲ加ヘ坑道擴張ノ計畫ヲ爲セリ此レ工事擴張ノ狀況ナリ

本鑛ノ炭層ハ砂岩ノ斷層ニ依リテ南北兩側ニ截斷セラレ上下ノ距離十八尺トナスモ將來各坑採掘ノ石炭搬出ノ場合ハ其影響ハ免レサルベシ

今第三鑛廠所轄ノ各坑ノ構造、用途、延長及其開鑿年月費用等ハ左表ノ如シ

類 別	坑 名	第一豎坑	第二豎坑	第三豎坑	第四豎坑
構造	直徑十尺圓坑ニシテ石炭ヲ用ヒ段々分ケテ圓圈ヲ築ク送風及石炭吊揚ク	直徑八尺其他ハ第一豎坑ニ同シ瓦斯ノ排出及石炭吊揚ク	同上	同上	同上
用途	同上	同上	同上	同上	同上
延長	自地表面至坑底	二百二十尺	二百七十尺	三百七十尺	四百八十尺
開鑿	自地表面至坑底	千四百尺	千四百五十尺	七十七尺	四十八尺
開鑿	自地表面至坑底	宣統元年	宣統二年	民國八年三月	?
費用	考用	五、〇〇〇圓	四、〇〇〇圓	三、〇〇〇圓	買價一、六〇〇圓此坑ヲ買收セルハ其ノ東部狐尾溝ノ馬頭老鑛ナリ

四、先生溝鑛廠(一名第四鑛廠)



此鑛ハ光緒三十二年九月同濟鑛務公司ヨリ繼承シタルモノニシテ現今既ニ着炭セルハ舊先生溝ノ堅坑二箇即チ中井ト莊莊溪ノ堅坑二箇即チ東井ト段家碑ノ堅坑三箇即チ西井是ナリ、東井ハ機器ヲ用ヒ捲揚ケ西井ハ轆轤ヲ用フ而シテ中井ハ捲揚機架、捲揚室、鍋爐房等ノ設備ハ終リタルモ尙捲揚機及鍋爐房ノ設置未タ終ラサルタメ轆轤ヲ使用セリ、七年五月鑛廠受領後圓形ノ中大井ヲ別ニ開鑿シ口徑ヲ十尺ニ改メ八年秋廠ノ面積ヲ擴張シテ將來鍋爐及捲揚機設置後ハ東西ノ二井ノ附屬ト爲シ此中井ヲ以テ總產炭地トナスニアリ、其備ヘタル鍋爐ハ米國ノ水管式ノモノニシテ五十馬力ヲ有シ捲揚機ハ舊式ノ雙機缸ヲ用ヒ間接ノ働キニハ七十馬力ヲ有ス、東井ハ鑛區ノ端ニ位シテ舊蓄ニ隣接シテ蓄水ノ恐レアルタメ久シカラス休止スヘシ西井ノ狀況亦東井ト酷似セルモ位置鑛區ノ中央ニアリ是ハ該地ノ未成ノ圓形堅坑ヲ繼續開鑿シテ進行ニ資セントスルニアリ

本鑛區ノ南部ニハ東西ニ面スル斷層アリテ厚サ三百尺ニシテ二十尺ノ落差ヲ示シ斷層ノ以南ノ石炭ハ西井ヨリ殆ント採掘シ盡シ又斷層以北ハ中井ヨリ採掘セリ故ニ斷層アリト雖モ工程上ニハ毫モ妨ケサルナリ  
今第四鑛廠所轄ノ各坑ノ構造、用途延長及其開鑿年月費用等ヲ示セハ左表ノ如シ

類別	坑名	中 堅 坑	中 堅 坑	東 堅 坑	東 堅 坑
構造	八六ノ長方形堅坑石ヲ用ヒ段ヲ分ケ圍砌ヲ施ス	八六ノ長方形堅坑石ヲ用ヒ段ヲ分ケ圍砌ヲ施ス	八六ノ長方形堅坑石ヲ用ヒ段ヲ分ケ圍砌ヲ施ス	八六ノ長方形堅坑石ヲ用ヒ段ヲ分ケ圍砌ヲ施ス	八六ノ長方形堅坑石ヲ用ヒ段ヲ分ケ圍砌ヲ施ス
用途	排氣及石炭吊揚ケ	排風及石炭ノ吊揚ケ	排氣及石炭ノ吊揚ケ	送風及石炭ノ吊揚ケ	
堅坑	百七十一尺	百七十三尺	百七十尺	百八十尺	
深坑					
延坑					
長道	千八百六十尺	一	千四百九十尺	一	
至坑					
至石炭採掘地點					

開鑿購買年月	開鑿費用
光緒三十二年十二月	三、七九二圓
光緒三十二年十二月	四、四五六圓

備考 此四坑ハ何レモ同濟公司ノ測量セシ舊坑ヲ繼築ス

五、平潭鑛廠(第五鑛廠)

本鑛ハ新鑛ニ屬シ陽泉車站ヲ距ル僅カ一里餘ニアリ民國六年三月着手シ六月炭層ニ達シタリ、堅坑、斜坑各一箇アリテ斜坑ノ坑道ハ傾斜緩ナルカ故ニ鑛工ノ出入及運搬驢騾ノ通路トナスモ堅坑ハ僅カニ排水通風ノ用ニ供スル外石炭ノ鈎上ヲナサス斜坑ノ南ニハ元來二箇ノ土窟アリテ何レモ斜坑ニシテソノ名ヲ保華利窟ト名ツク此ノ窟ハ休止數年ニ及ヒタルタメ蓄水甚タ多ク七年八月該公司ヨリ買收後啣筒ニテ排水シテ本鑛ト通シ三箇ノ斜坑及一箇堅坑ヨリ採掘スル石炭ハ何レモ驢騾ノ入坑ニヨリテ直接陽泉ノ本廠ニ運搬貯炭スルニハ頗ル便利ナリシカ、九年八月四日北岔路内ヨリ出水シ其水漸次上昇シテ炭柱ニ龜列ヲ生シ三大股ニ分レ湧出シ水勢極メテ旺盛ナリシタメ、工人百餘名ヲ督勵シテ晝夜兼行シ遠近堵ノ二法ヲ用ヒ極力閉塞ニ努メシモ水勢益加リテ既設ノ汽關啣筒ノ排吸ノ力及ハス百八十九尺ニ溢漲シテ著手ノ法無ク遂ニ翌日ハ全部淹沒セリ、其後鑛區ノ西北部ニ於テ土人郝某カ廢水窟一箇所ヨリ斜坑一堅坑二ヲ發見セルヲ探知シタルニヨリ冬季之ヲ買收シ十二月十二日工事ニ着手ノ辦法ヲ講究シ先ツ中堅坑ニ三箇ノ三節鍋爐ヲ一組ト三寸啣筒一組ヲ据付ケ蓄水ノ排水ニ努メ一方ニハ北堅坑ノ人力ニヨリテ岔道坑内ノ淤泥、渣滓炭末等ヲ排出シテ道路ヲ清メ又斜坑三十餘歩以内ニ既存ノ岔道陷落ノ箇處ニハ石材ヲ疊ミテ通シタリ將來ハ總テ各岔坑ヨリ採掘スル石炭ニ驢騾ヲ使用シテ此ノ斜坑ヨリ出入運搬セシムルニアリ



斜坑内ニハ横截ノ斷層アリテ東方ニ二十七度西方ニ二十度七ノ左右ニ向ヒ傾斜三十度ヲ示ス、本坑内ノ坑道ハ東行約百二十尺ニシテ此ノ斷層ニ遇ヒテ工事困難ナレハ進行ヲ休止セリ今第五鑛廠所轄ノ各坑ノ構造、用途延長及其開鑿年月費用等ヲ示セハ次ノ如シ

類名	坑別	南	中	北	豎
構造	用途	六尺方形上方ハ弧形石材圍砌ヲ施ス 排氣及運炭	六尺方形上方ハ弧形石材圍砌ヲ施ス 送風及運炭	六尺方形上方ハ弧形石材圍砌ヲ施ス 送風及工人出入	四六ノ長方形石材ノ圍砌ヲ施ス 排水
		一千二百尺	一千百尺	一千尺	八百尺
開鑿	開鑿	民國七年購買	民國七年購買	民國六年五月開鑿	民國六年購買
費用	費用	買價 三、五〇〇圓	買價 二、〇〇〇圓	買價 四、五〇〇圓	買價 一、〇〇〇圓

備考 南斜坑及中斜坑ハ民國七年ニ購買セル保華利ノ土密ナリ

六、漢河溝鑛廠(一名第六鑛廠)

本鑛モ亦光緒三十二年同濟公司ヨリ繼承シタルモノニシテ繼承當時ハ未夕石炭ヲ見サリシカ該公司ハ開鑿ヲ終リ現在ハ堅坑二箇アリテ其炭質ハ他處ニ比シテ良好ナルモ陽泉驛ヲ距ルコト十五支里ノ遠キニアリテ道路險惡交通困難ニシテ且鑛區又小ナレハ未夕鑛區擴張ノ計畫ナシ

今本鑛廠所轄ノ南北兩豎坑ノ構造、用途、延長及其開鑿年月費用等ヲ示セハ左ノ如シ

類別	坑名	北	南
構造	用途	直徑八尺ノ圓形堅坑石材ノ圍砌ヲ施ス 排氣、排水及石炭吊場	五六ノ長方形石材ノ圍砌ヲ施ス 送風
		百八十尺	
延長	延坑深	五百二十尺	
開鑿	開鑿	光緒三十二年	光緒三十二年
費用	費用	二、八八二圓	二、一四〇圓

第九章 採炭

採炭法式 平定各鑛ノ炭層傾斜ハ大ナラスシテ平均六七度ニ過キスシテ殆ント平坦ニ等シク保晉公司現今ノ採掘ハ一丈八尺炭層ニシテ供ニ炭柱法ヲ用ヒ先ツ主要運搬坑道ヲ開キ一千尺ヲ進ム毎ニ左右二條ノ運搬坑道ヲ開キテ通風運炭ノ路トナシ又運搬坑道モ一千尺進ム毎ニ左右ニ向ツテ一條ノ主要運搬坑道ヲ開キテ一千尺ノ長サ及幅ヲ有スル大炭柱ヲ形成ス、此大炭柱ヲ又漸次分チテ小炭柱トナス其長サ及幅ハ七八十尺乃至百十尺位トス運搬坑道ノ高サハ約九尺幅ハ八尺ノ徑二十尺位ニシテ炭層ノ硬軟ニ依ツテ異ル



採炭ノ順序ハ一丈八尺ノ炭層ヲ平ニ上下二層ニ分チ先ツ其下層九尺ヲ取り次ニ上層ノ下部三尺ヲ取り其餘ノ六尺ハ頂蓋トシテ留メ支柱ヲ省キ且ツ防水ノ用トナス、採炭スルコト鑛區ノ邊界ニ達シタルトキハ又内部ニ向ヒ遠キヨリ近ツキ其下方採掘跡ニハ土石ヲ填充シテ其ノ上層ニ留メタル六尺ノ石炭ヲ採掘ス然シテ第四鑛廠ハ先ツ下層炭九尺ノ中ノ上部六尺ヲ採掘シ次ニ上層九尺中ノ下部三尺ヲ採掘スルハ他鑛ト稍々異ル所ナリ

採炭方法 採炭場ニ於テ採掘セント欲スル石炭ハ其左右底ノ三邊ニ先ツ人力ニテ長柄ノ鐵鑿ヲ以テ幅一尺餘深サ約八九尺ノ石炭ヲ削取シ然シ底部ノ前方中間ニハ尺餘ノ炭柱ヲ殘シテ支柱ニ代ユ是ニ於テ石炭ノ左右前方底部ノ四邊既ニ空虚トナリ僅ニ上部ハ後方ト上部後方石炭ヲ依然トシテ連結ス、削掘ヲ終レハ先ツ底部ノ中間ニ殘シタル炭柱ヲ撤去シ更ニ上邊ハ鐵鑿(テコ)ニテ若干鑿スレハ石炭ハ自ラ墜落ス若シ炭質堅硬ニシテ墜落セサレハ更ニ上邊ニ炸藥ヲ用ヒテ墜下セシメ然ル後鐵鎚ニテ重サ約百五十斤以下ノ塊炭トシテ坑外ニ搬出ス

採炭用器具 本鑛採炭器具ニシテ常ニ用フルモノハ鐵鑿(鶴嘴)鐵錘(鎚)鐵鑿條筐、木擔(負棒)等ノ類ニシテ何レモ人力ヲ用ヒテ使用ス割炭機ハ既ニ米國ニ數種ヲ註文シタルカ到著シタルハ僅カ一種ノ空氣壓力發動機ニシテ目下之カ設備中ナリ

廢石 坑内ノ廢石ハ其量幾何モナク坑内ノ廢巷(廢坑)或ハ主要坑道及坑道ノ填充ニ供ス、而シテ第二鑛廠ノ西豎坑ハ未タ開鑿ヲ終ラス東豎坑ハ既ニ開鑿ヲ終リタルモ日尙淺ク坑内ニハ未タ廢坑ナキタメ其廢石ハ捲揚機ヲ用ヒテ捲キ上ケ坑外ニ拋棄ス

粉炭 各鑛廠ノ坑内ニ産スル粉炭ハ販賣ニ適セス坑内ニ放置セルカ故ニ坑内ニハ粉炭ノ堆積甚タ多シ

### 選炭法

各鑛産出ノ石炭ハ特別ノ選炭法ニ據ラスシテ工人ニヨリテ石炭ヲ採掘セラレタルトキ其坑道擔當者ニ於テ炭塊ノ大小ニ應シテ大、中、小、碎、粉ノ五種ニ分類シテ坑外ニ搬出シ各一定ノ箇所ニ置キ以テ運搬ニ便ナラシム然シテ粉炭ハ販路大ナラサレハ多クハ坑内ニ放棄ス今各種炭塊ノ重量ヲ示セハ次ノ如シ

等級	各塊重量
一大塊	百斤以上
二中塊	六十斤以上
三小塊	二十斤以上
四碎塊	二十斤以下(二十斤ニ達セサル小塊)
五粉炭	細末

最近三箇年ニ於ケル各鑛廠各種塊炭産出噸數及其成分ヲ甲乙丙ノ三表ニ分チテ之ヲ左ノ如ク列舉シテ參考トナス

### 産炭額

保晋公司所有ノ平定各鑛廠ハ前清光緒三十四年ヨリ民國十一年ニ至ル十五年間ニ至ル總産炭額ハ一百三十五萬七千五百〇三噸ニシテ光緒三十四年該鑛創立當時ハ五千四百〇一噸ニ過キサリシカ民國十一年ニ至リ二十四萬八千三百二十噸ニ達シ前後十五年間ノ産額ハ四十六倍ニ増加セリ而シテ壽陽晋城大同各鑛廠ハ此ノ内ニ含まス



今各鑛廠ノ歷年產炭額ヲ表示スレハ左ノ如シ

年次	第一鑛廠	第二鑛廠	第三鑛廠	第四鑛廠	第五鑛廠	第六鑛廠	合計
光緒三十四年	一、三三五			三、六六八		二九八	五、四〇一
宣統元年	一、五六三		一、二七四	一、三九六		三、八六八	一八、一〇一
宣統二年	一、六一四		四、九八一	一六、七九八		七、〇九七	四〇、四八一
宣統三年	六、八七八		五、七五〇	一五、三二二		九、〇九一	三七、〇四一
民國元年	九二		四、五四三	一、六九一		五、五一九	二一、八四五
民國二年	二一、六六六		六、九九一	八、四五二		九、五四六	四六、六五五
民國三年	三七、八八一		七、三六六	一五、九七一		七、八〇六	六九、〇二四
民國四年	三二、〇六〇		二、七五七	一六、四六六		八、五七五	五九、八五八
民國五年	三四、一三八		七、四七二	一七、七九二		一二、〇四九	七一、四五二
民國六年	三三、八六七		九、四二三	二四、二六〇	一、八五八	一五、八一〇	八五、二一八
民國七年	二〇、一三四		一八、四五五	二七、一一二	九、七六九	一四、八七〇	九〇、三四〇
民國八年	四〇、〇三九		二九、〇七二	三二、二六〇	三〇、一一四	一九、八六六	一五一、三五二
民國九年	七四、九九八	五七五	二九、二九九	三三、五九二	一八、四一七	二九、二五四	一八六、一三五
民國十年	九八、三九〇	一二、八〇〇	三六、八二五	三三、三二二	二〇、七二四	二三、六四六	二二五、七〇七
民國十一年	九五、八五二	三七、九四七	三七、〇四九	三五、二五一	二五、〇五六	一七、一六三	二四八、三二〇

累年總計	五一〇、八五八	五一、三二四	二〇一、二五七	三〇三、三五三	一〇五、九三八	一八四、五五八	二、三五七、五〇三
------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	-----------

備考 本表以一月至十二月爲年度 (產炭額以噸爲單位)

又最近三年間各鑛廠一箇月ノ產炭額ヲ甲乙丙三表ニ分類スレハ左ノ如シ

甲、民國九年度各鑛廠產炭額表 (以噸爲單位)

月次	第一鑛廠	第二鑛廠	第三鑛廠	第四鑛廠	第五鑛廠	第六鑛廠	合計
一月	六、六五三		四、一五二	四、五〇三	四、六二八	六、〇九九	二六、〇七九
二月	三、八三二		一、九三六	一、二六三	一、七四六	七、〇四六	七、九〇七
三月	二、八六八		三、一四二	六、六七一	一、五九六	一、三三二	九、五八六
四月	四、三二〇		二、三八七	一、五〇七	二、〇八〇	二、三九一	一二、六〇五
五月	五、七八三		二、五四六	一、〇八八	二、八五三	三、二八七	一五、四三三
六月	七、二六六		八、三五一	一、三五一	二、三〇〇	一、一九九	二二、八四九
七月	六、五四〇		九、八〇二	三、五二一	二、八六三	一、八三七	二二、八四九
八月	四、五四三		三、二〇七	二、八九一	四、四一〇	二、七八九	一三、八四六
九月	六、四三六		一、九六一	三、六八二		二、四六六	一四、四九〇
十月	八、六八四		二、三九九	三、六七一		二、三三七	一六、〇七九
十一月	九、八八〇		二、三五八	四、四九九		二、一六三	一八、六九二
十二月	九、九六三	五、七五〇	三、七四二	五、二六五		三、九一八	二二、九八二



總計	七,九六〇〇	五,七五〇〇	二九,二九九〇〇	三三,九九二〇〇	一八,四七七〇〇	二九,二五四〇〇	一八六,三五〇〇
每月平均	六,二四九八三	五,七五〇〇	二,四四一五九	二,七九九三三	一,三〇二二三	二,四七〇八三	一五,五一,二五

備考 第二鑛廠於九年十二月始行出炭 第五鑛廠自八月分以後被水淹沒並未出炭 其每月平均項係上八箇月平均數

乙、民國十年度各鑛廠產炭額表 (以噸為單位)

月別	第一鑛廠	第二鑛廠	第三鑛廠	第四鑛廠	第五鑛廠	第六鑛廠	合計
一月	八,八二二	九七八	三,六九四	四,九四〇	一,三九三	二,八三四	二二,六六一
二月	七,二三二	四〇〇	二,七〇〇	二,五二六	三六二	三,二一六	一六,四三六
三月	八,〇七一	四〇〇	二,九〇〇	二,三五〇	一,一四五	一,九八五	一六,八五一
四月	五,五六八	二〇四	三,一一四	三,〇八七	一,六一一	二,五五六	一六,一四〇
五月	五,三四八	一,〇三五	三,八〇一	一,九四九	一,二三五	二,〇〇七	一五,三七五
六月	五,八〇八	四七九	二,四〇五	一,三二三	一,八四三	二,〇六〇	一三,九〇八
七月	八,八二六	四三五	二,七六一	二,四八七	二,五二八	一,八二四	一八,八六一
八月	八,七六四	一,五五四	二,六六七	一,六六八	一,二七四	一,六七四	一七,六〇一
九月	七,九三六	一,三九五	二,三九〇	二,二三六	一,二六一	一,四四四	一六,六六二
十月	七,七四四	一,六九三	二,一五九	二,五八九	一,八六七	一,二二六	一七,二七八
十一月	一一,九八六	一,四三五	三,八一	三,七二二	二,六九三	一,四一三	二五,〇六〇
十二月	一二,二八五	二,七九二	四,四三三	四,四五五	三,五二二	一,四〇七	二八,八七四
合計	九八,三九〇	一二,八〇〇	三六,八二五	三三,三二二	二〇,七二四	二二,六四六	二二五,七〇七

丙、民國十一年度各鑛廠產炭額表 (以噸為單位)

月別	第一鑛廠	第二鑛廠	第三鑛廠	第四鑛廠	第五鑛廠	第六鑛廠	合計
一月	四,八四六	一,四一四	三,〇九九	三,三二八	二,四三〇	一,一七五	一六,二九二
二月	七,二三一	二,二四七	二,九七〇	三六六	一,六六四	一,三四八	一五,八二六
三月	一〇,八三三	一,六九二	五,三六七	二,五五八	二,七八六	二,九五	二六,一八七
四月	六,七四四	二,六一六	三,五五八	二,九四四	二,八九六	一,五一九	二〇,二七七
五月	六,四二八	三,〇九六	三,一二八	三,六一四	二,八八一	一,四六六	二〇,六一三
六月	七,八四六	二,三八七	三,六〇九	三,六八二	三,〇四五	一,五〇七	二二,〇七六
七月	七,一一〇	三,三五八	二,〇三九	三,四四八	二,五二六	一,四一四	一九,八九五
八月	七,一八八	五,四四七	一,四五七	四,二八〇	一,〇一八	一,一九八	二二,〇五八
九月	一〇,一五六	四,四四四	二,二〇四	二,〇七九	一,〇一三	一,一六一	二一,〇五七
十月	七,四八五	三,四〇四	一,六九五	二,一一三	一,〇九九	九六八	一六,七七四
十一月	九,八八八	四,一〇二	三,八七一	三,三三〇	一,七〇一	一,〇〇三	二三,八九五
十二月	八,〇九七	三,七四二	四,〇五二	三,四九九	一,九九七	一,四五三	二二,八四〇
合計	九五,八五二	三七,九九九	三七,〇四九	三五,二五一	二五,〇五六	一七,一六三	二四八,三二〇



販路及炭價

販路 平定ノ石炭ハ無煙炭ニ屬シ汽車汽船及製造工廠等ニハ多ク適用セサルモ最モ適スルハ洋爐(暖房)厨竈等ニシテ大量ノ市場ヲ有セサルトキ即チ正太鐵路未タ開通セサルトキニ於テハ駱駝ヲ用ヒテ獲鹿正定一帶ニ運搬シテ民家ノ燃料用ニ供給シ土人ハ之ヲ大煤ト稱セリ、正太鐵路開通後ハ汽車ニテ石家莊南北各驛ニ積送販賣シ該公司ハ極力販路ヲ擴張シタル爲メ保定北京天津等ニ於テハ販路大ニ開ケ續イテ上海鎮江、瓜州等ニ擴張シ民國六年ニハ又漢口ニ七年ニハ日本大阪ニ八年ニハ廣東香港等ニ擴張セントシタルモ交通阻滯及ヒ遠隔ニシテ費用重キ爲メ石家莊南北ヲ以テ最大ノ市場ト爲セリ、爲メニ石家莊分公司ノ總賣場ハ約十分ノ六ニシテ漢口、上海、北京、天津等ノ賣場ハ十分ノ四ニ過キス保晉公司ノ採掘スル壽陽晉城等ノ石炭ハ殆ント地賣ニシテ大同ハ尙能ク、京漢一帶ニ販賣セルモ現時未タ出炭セス今最近五年間ニ於ケル各地分銷地點及賣炭額ヲ表示スレハ左ノ如シ

分銷地點 或分銷地點	分銷地點範圍	煤 額				
		民國七年	民國八年	民國九年	民國十年	民國十一年
石家莊分公司	鄆城以南北	四〇,七八〇	七四,四八〇	七三,三六〇	四八,九八〇	一三,七八〇
保定分公司	望都以南北	一〇,七八〇	一六,二八〇	一三,九〇〇	一二,七四〇	一一,六〇〇
北京分公司	蘆溝橋以南北	一〇,〇〇〇	七,四八〇	一九,六〇〇	一六,一〇〇	一二,八八〇
壽陽分公司	至北京一帶	八,二六〇	七,〇四〇	四,八六〇	六,七八〇	八,五四〇
石獲售煤處		三〇,四八〇	三一,五〇〇	三三,五二〇	四四,〇八〇	一三八,二二〇

分銷地點	天津寶興昌號	漢口分銷處	濟南分銷處	海外分銷處	其他	合計
天津寶興昌號	八〇〇	一六,一六〇	一,二〇〇	四,四〇〇	一,二二,八六〇	一四,一〇〇
漢口分銷處	八,五〇〇	八,四〇〇	一四,一〇〇	二一,二四〇	一九一,六八〇	一四,一〇〇
濟南分銷處	一三,六〇〇	六,八〇〇	四,八〇〇	二,〇二〇	二二三,五八〇	一四,一〇〇
海外分銷處	一四,一〇〇	二,〇二〇	一〇,〇〇〇	六四,三八〇	一四,五〇〇	五,八〇〇
其他	一四,一〇〇	二,〇二〇	九,二〇〇	一一,五〇〇	一一,五〇〇	五,八〇〇
合計	一四,一〇〇	五,八〇〇	二,九四〇	九,二〇〇	一一,五〇〇	二二三,〇六〇

備考 本表以一月至十二月爲年度以噸爲單位

炭 價

平定產出ノ硬炭ハ鐵路運賃頗ル高キ力故ニ產炭地ニ於テ賣炭スレハ極メテ廉ナリト雖モ各港ニ運搬スレハ賣價甚タ大ナリ茲ニ民國九年十月中ニ於ケル一噸ノ各地賣價ヲ示セハ次ノ如シ

售 處	煤 別	煤 價				
		大	中	小	碎	末
陽 泉	大	二・二五〇	二・〇〇〇	一・七五〇	一・五〇〇	〇・八〇〇
石 家 莊	中	五・九〇〇	五・六五〇	五・四〇〇	五・一五〇	
保 定	小	七・二〇〇	六・九五〇	六・七〇〇	六・四五〇	
北 京	碎	八・五〇〇	八・二五〇	八・〇〇〇	七・七五〇	



天	上	漢
津	海	口
九・二〇〇	一七・〇〇〇	一三・〇〇〇
八・九五〇		
八・七五〇		
八・四五〇		

八六

備考 表中煤價以每噸計算並以銀圓爲單位

民國十二年五月調平定產石炭ノ各地ニ於ケル一噸ノ賣價左ノ如シ

煤	級	大	中	小	碎	末	煤
每噸均價	石家莊	保定府	北京	天津	漢口		
二・五〇〇	六・二五〇	七・七〇〇	八・五〇〇	九・七五〇	一三・二五〇		
二・二五〇	六・〇〇〇	七・五〇〇	八・二五〇	九・五〇〇	一三・〇〇〇		
二・〇〇〇	五・七五〇	七・三〇〇	八・〇〇〇	九・二五〇	一二・七五五		
一・五〇〇				八・七五〇	一二・二五〇		
〇・六五〇							

備考 表中煤價以每噸計算



平定縣保晉公司各礦區關係圖





# 平定縣保晉公司各礦區關係圖

縮尺四分萬分之一



號	符
坑	豎料土
坑法	豎料土用
坑地	



關東州鑛區及鑛產額統計

(自大正十年度至昭和元年度)

大正十年度

地方別	鑛區		業數		地方別	鑛區		業數	
	區	業數	區	業數		區	業數	區	業數
旅順連	八	一	八〇五、九六〇	一	旅順連	七	一	二、七四六、二二六	一
大連	八	四	四〇〇、三四三	一	大連	一三	三	五九〇、一一三	一
金州	一	一	一、八二五、二六〇	一	金州	一	一	二、三三一、三四八	一
普蘭店	一	一	一、八二五、二六〇	一	普蘭店	一	一	九九九、六九二	一
貔子窩	一	一	一、八二五、二六〇	一	貔子窩	一	一	一、八一八、九〇三	一
總計	八	四	一、八二五、二六〇	一	總計	一〇	九	七五、六九〇	一

大正十一年度

地方別	鑛區		業數		地方別	鑛區		業數	
	區	業數	區	業數		區	業數	區	業數
旅順連	八	一	八〇五、九六〇	一	旅順連	八	一	一、八二五、二六〇	一
大連	八	四	四〇〇、三四三	一	大連	八	四	一、八二五、二六〇	一

支那鑛業時報 第六十九號

八七



地 方 別	鑛 區		坪 業		休 區		坪 業	
	計	子	計	子	計	子	計	子
旅 順	二	一	四七、五六〇	一	一	三二九、三四八	一	七七〇、九五〇
大 連	一	一	七二三、四一七	一〇	一	一、四五五、一五二	一	一、七一九、一一六
金 州	一	一	二六八、四一九	五	五	二、〇五九、三六五	一	七五、六九〇
普 蘭	一	一	一、〇一九、三九六	八	八	三四五、九四六	一	四、七九一、三五九
總 計	一三	四	三、〇二七、〇三九	一二二	一〇八	八、八八〇、九四九	八	一、七一九、一一六

大正十二年度

大正十三年度

地 方 別	鑛 區		坪 業		休 區		坪 業	
	計	子	計	子	計	子	計	子
旅 順	一	一	七四一、五七〇	一	三	三八二、三六八	一	一、五六四、二五三
大 連	一	一	二六八、四一九	一	一	三、二九九、四三四	一	一、六六〇、五六六
金 州	一	一	一、〇〇九、九八九	九	九	七五、三三九	一	五、九八一、九六〇
普 蘭	一	一	一、〇一九、三九六	八	八	六九、八〇九	一	一、四七八、三一〇
總 計	一〇	四	三、〇二七、〇三九	一〇	一〇	八、八八〇、九四九	一〇	一、七一九、一一六

大正十四年度

地 方 別	鑛 區		坪 業		休 區		坪 業	
	計	子	計	子	計	子	計	子
旅 順	一	一	二八、二一五	一	一	一、四七八、三一〇	一	一、四七八、三一〇
大 連	一	一	七七九、〇八七	一	一	二、二九九、四三四	一	二、二九九、四三四
金 州	一	一	二六八、四一九	一	一	一、六五六、〇六六	一	一、六五六、〇六六
普 蘭	一	一	一、〇七五、七二一	一	一	六九、八〇九	一	五、五〇三、六一九
總 計	一三	四	三、〇二七、〇三九	一〇	一〇	八、八八〇、九四九	一〇	一、七一九、一一六

昭和元年度

地 方 別	鑛 區		坪 業		休 區		坪 業	
	計	子	計	子	計	子	計	子
旅 順	二	一	四七、五六〇	一	一	三二九、三四八	一	一、四七八、三一〇
大 連	一	一	七二三、四一七	一	一	一、四五五、一五二	一	一、四七八、三一〇
金 州	一	一	二六八、四一九	一	一	二、〇五九、三六五	一	一、四七八、三一〇
普 蘭	一	一	一、〇一九、三九六	一	一	六九、八〇九	一	一、四七八、三一〇
總 計	一四	四	三、〇二七、〇三九	一〇	一〇	八、八八〇、九四九	一〇	一、四七八、三一〇



地方別	礦區		業		休		業	
	數	坪	數	坪	數	坪	數	坪
旅順	一		二八、二一五		一		三二九、三四八	
大連	一四		七八四、九六四		一六		一、一六四、〇三四	
金州	二		二七一、五七二		五		二、〇七五、八二八	
普蘭店					七八		四〇三、四八五	
貔子窩					九		七五、三三九	
計	一七		一、〇八四、七五一		一〇九		四、〇四八、〇三四	

昭利元年度鑛種別鑛區表

鑛種	前年末現在		本年中許可		本年中廢業		本年末現在		鑛產量	價格
	數	坪	數	坪	數	坪	數	坪		
砂金	一				一		一			
鐵	一四						一四			
苦灰石	三		四八、八六〇		一部廢業		二六			
計	一八		四八、八六〇		一		二六			

石綿	雲母	硫化鐵	亞鉛	銀	金	數量		價格	
						數量	價格	數量	價格
一六	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三六、八四九	三〇、九七	一六、四三三	一六、三六〇	四、七三三	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇
三九、九六六	三〇、九七	一六、四三三	一六、三六〇	四、七三三	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇
二六、八四九	三〇、九七	一六、四三三	一六、三六〇	四、七三三	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇
三〇、九七	三〇、九七	一六、四三三	一六、三六〇	四、七三三	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇
一六	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一五、〇七	一五、〇七	一五、〇七	一五、〇七	一五、〇七	一五、〇七	一五、〇七	一五、〇七	一五、〇七	一五、〇七

大正十年度鑛產額(數量及價格)

地方別	數量		價格	
	數量	價格	數量	價格
旅順	一		一	
大連	一四		一四	
金州	二		二	
計	一七		一七	

大正十一年度鑛產額(數量及價格)



地方別	大正十二年度鑛產額(數量及價格)		
	金	鉛	亞鉛
計	一三三 五三		
旅順			
大連			
金州			
鐵			
硫化鐵			
石炭			
雲母			
重晶石			
苦灰石			
石綿			

大正十二年度鑛產額(數量及價格)

地方別	大正十三年度鑛產額(數量及價格)		
	金	鉛	亞鉛
計	一八〇 一八〇		
旅順			
大連			
金州			
鐵			
硫化鐵			
石炭			
雲母			
重晶石			
苦灰石			
石綿			

大正十三年度鑛產額(數量及價格)

地方別	大正十四年度		
	金	鉛	亞鉛
計			
旅順			
大連			
金州			
鐵			
硫化鐵			
石炭			
雲母			
重晶石			
苦灰石			
石綿			

大正十四年度

地方別	昭和元年度		
	金	鉛	亞鉛
計			
旅順			
大連			
金州			
鐵			
硫化鐵			
石炭			
雲母			
重晶石			
苦灰石			
石綿			

昭和元年度



地方別	金	鉛	亞鉛	鐵	硫化鐵	石炭	雲母	重晶石	苦灰石	石綿
旅順										
大連										
金州										
計										

撫順及煙臺炭礦採炭概況 (自昭和二年一月至同二年九月)

昭和二年一月分

一、各坑別出炭高年度同期出炭比較

坑別	本年		前年		增減
	月計	一日平均(二八)	月計	一日平均(二八)	
古城子坑	內過炭 三九,〇〇〇 二五,五〇〇	八,五〇〇	內過炭 一八,〇〇〇 一六,三九四	六,七二二	五五,五〇〇
東岡坑	同	一〇,〇〇〇	同	—	一〇,〇〇〇
大山南坑	同	一八,九〇〇	同	一七,五〇〇	一,四〇〇
大山本坑	同	一,九二一	同	一,九二六	△
東鄉坑	同	一,六二一	同	一,三三八	二,八〇〇
楊柏堡坑	同	二,〇六二	同	一,九三三	二,七〇〇
老虎臺坑	同	一,八八〇	同	一,八七七	一〇〇
萬達屋坑	同	一,五〇六	同	一,五〇〇	五,五〇〇
計	—	—	—	—	九五







一人一日探炭高	二・七七	一・六五	一・一一
現在延人員	二・〇一	一・一七	〇・八四
一人當探炭高員			

但シ本表中一人一日探炭高及現在人員一人當リ探炭力ハ古城子及東ヶ岡露天掘ヲ除外シ且ツ剩餘炭ヲ控除シタル出炭高ヲ以テ算出セリ

ロ、探炭華工移動成績表

別	前月末現在	來		坑計	退散	本月末現在	増△減
		募集	自來				
大山南坑	一、四四一	—	二六五	二六五	二〇八	一、四九八	五七
大山本坑	一、六二一	三	一八〇	一八三	二二一	一、五九三	二八
東郷坑	一、四〇四	一	二二四	二二四	二三八	一、三八〇	二四
楊柏堡坑	一、六一三	一五三	二〇六	三五九	二五八	一、七一四	一〇一
老虎壺坑	一、四九七	—	一五一	一五一	二〇四	一、四四四	五三
萬達屋坑	一、二二三	—	二四九	二四九	二〇四	一、二六八	四五
新屯坑	一、一七八	—	一四三	一四三	二五五	一、〇六六	△ 一一二
龍鳳坑	八二一	三七	二二七	二五四	一六八	九〇七	八六
搭連坑	三九六	—	一一八	一一八	八八	四二六	三〇
計	一、一九四	一九三	一、七四三	一、九三五	一、八三四	一一、二九六	一〇二

ハ、一般狀況

前表ニ示スカ如ク本月ハ華工激増セリ

募集人員一九三名ヲ除ク一、七四三名ハ山元募集ニシテ其ノ多クハ山東ヨリ東三省各地ニ來ルモノニシテ早賊戰禍匪害ハ遂ニ彼等ヲシテ家ヲ捨テ老幼一族ト共ニ南北滿洲ニ安住ノ地ヲ求メシメ或ハ北上ノ途次當地ニ足ヲ留メタルモノナリ

奉海線工事ハ清源縣ニ達シタルモ奉票暴落ニ伴レ工賃ノ増給ニ迫ラレ且ツ岩石ノ箇所ニ遭ヒ寒氣ト作業難ノタメ逃走者多ク一方官憲ハ經費ノ節約ヲ計リ一月以降從來二元四毛ノ工賃ヲ一元八毛ニ減シタルタメ益逃走者ヲ出シ其大半ハ當地ニ歸來セリ

張氏出京以來奉省省庫空虚ノタメ之カ救濟策トシテ各縣ニ禁煙局ヲ設ケ阿片ノ栽培販賣吸飲ニ課税シ洋酒類ニモ一様ニ二割ノ増税ヲナシ奉票ハ一時五百五十元ヨリ四百九十五元ニ昂騰セルモ吉林省ニ於ケル金票排斥ニヨル一時的ノ現象ニシテ本月中最高四七五元最低五九二元ヲ唱ヘ物價ハ尙ホ漸騰ノ氣味アリ年初ノ物價ニ比シ約二倍ニ上リ労働者ノ收入之ニ伴ハス隨所ニ工賃値上ノ要求起リ當地ニ於テモ製靴工等ノ請負單價改正ニ關シ雇主ト意見ノ衝突アリシモ商務會長ノ調停ニヨリ極メテ迅速ニ解決ヲ見タリ

昭和二年二月分

一、各坑別出炭高前年度同期出炭比較



坑別	本年		前年		增減
	月計	一日平均(二七)	月計	一日平均(二七)	
古城子	內過炭 二七,〇〇〇	10,000	內過炭 一八,〇〇〇	六八七	六,〇〇〇
東岡坑	一六,〇〇〇	六七	—	—	一六,〇〇〇
大山南坑	一三,〇〇〇	一六一	三九,〇〇〇	—	一三,〇〇〇
大山木坑	一七,〇〇〇	一七七	一三,〇〇〇	一,〇〇〇	五,〇〇〇
東鄉坑	一三,〇〇〇	一三三	一三,〇〇〇	—	—
楊柏堡坑	一八,〇〇〇	一八四	一八,〇〇〇	—	—
老虎臺坑	一三,〇〇〇	一三五	一三,〇〇〇	—	—
萬達屋坑	一三,〇〇〇	一三五	一三,〇〇〇	—	—
新屯坑	一三,〇〇〇	一三四	一三,〇〇〇	—	—
龍鳳坑	一三,〇〇〇	一三四	一三,〇〇〇	—	—
搭連坑	一三,〇〇〇	一三四	一三,〇〇〇	—	—

前表ノ如ク總出炭高六〇五、一〇〇噸ニシテ之レヲ作業日數二七日ニ割當テタル一日平均二二、五五四噸ニシテ之ヲ前月ニ比スレハ合計ニ於テ二七、五〇〇噸一日平均ニ於テ三八噸ノ減少ヲ示セリ  
然シ之レヲ前年度同期出炭高四九六、七〇〇噸ニ對比セハ一〇八、四〇〇噸ノ増加ヲ示セリ之單ニ出炭獎勵法ニ基因ス

煙臺炭坑出炭

煙臺炭坑	本年		前年		增減
	二月分(二九日)	一月分(二九日)	二月分(二九日)	一月分(二九日)	
總出炭高	六〇五,一〇〇	四六七,〇〇〇	—	—	一〇八,一〇〇
總出炭一日平均	二〇,八〇〇	一五,七〇〇	—	—	五,一〇〇

二、採炭華工狀況

イ、採炭華工就業成績表

別	本年		前年		增減
	二月分(二九日)	一月分(二八日)	二月分(二九日)	一月分(二八日)	
大山南坑	二五,四一六	二九,六〇七	—	—	四,一九一







一月二十九日奉天省長ノ命ニヨリ空取引ヲ絶對ニ禁止シ一月ヨリ以降換算率金百圓ニ付奉票六百三十元現大洋百元ニ付奉票六百二十元ト定メラレタリ

物價ハ亦甚シク昇騰シ單ニ下層ノ工人ノミナラス一般ニ生活ノ脅威ヲ感シ舊正月モ甚ク蕭條ヲ極メタリ  
當地撫順印刷會社支那人職工五十名ハ一月二十九日午前十時ヨリ罷工ヲ開始シ工賃値上ヲ要求シ警務署ノ調停ニヨリ無事解決シ翌日四十五名復業シタリ

猶同會社ハ奉票建金拂ナリシ處昨今奉票ノ下落ニ伴ヒ數字換算率ヲ改メタルモノニシテ更ニ奉天一元六角ヲ金一元ニ換算センコトヲ要求シ折衝ノ結果一元七角ニ換算シ一月分給料ヨリ支給ノコト、セリ  
一月十三日各招工公所主席者ヲ召集シ招工公所事務取扱募集地開拓其他諸般ノ打合ヲナス  
産業會社跡ニ設立セラレシ教養工廠ヲ舊千金寨市場跡ニ移轉シタリ

昭和二年三月分

一、各坑別出炭高前年度同期出炭比較

坑別	本年度(四〇)		前年度(二六)		増計	減
	月計	一日平均	月計	一日平均		
古城子	內過炭 30,900	10,133	內過炭 17,100	6,593	13,800	3,641
東箇岡	同 33,610	880	同	同	33,610	840
大山南坑	同 6,000	1,555	同 10,100	1,576	10,000	△ 51

坑別	本年度(四〇)		前年度(二六)		増計	減
	月計	一日平均	月計	一日平均		
大山本坑	同 6,900	1,725	同 10,000	1,652	3,100	7
東郷坑	同 5,300	1,325	同 5,500	1,375	2,200	291
楊柏堡坑	同 7,500	1,875	同 4,100	1,025	3,400	275
老虎臺坑	同 5,100	1,275	同 4,000	1,000	1,100	△ 66
萬達屋坑	同 5,300	1,325	同 3,100	775	2,200	125
新屯坑	同 5,000	1,250	同 4,000	1,000	1,000	41
龍鳳坑	同 3,000	750	同 1,100	275	1,900	△ 7
搭連坑	同 1,100	275	同 5,000	1,250	5,000	55
計	91,750	22,938	46,100	11,726	45,650	5,183
前月分出炭	60,100	1,503	47,700	1,245	12,400	518
同比較	31,650	790	同	同	同	同

前表ノ如ク本月分出炭九一七、五一〇噸ニシテ之ヲ採炭作業四〇日間ニ割當テタル一日平均出炭高ハ二二、九三七噸ニ當リテ之ヲ前月ニ比較スレハ合計ニ於テ三二、四一〇噸ノ増加ヲ示セリ而シテ前年度同期出炭高四六一、八〇〇噸ニ對比セハ合計四五五、七一〇噸ノ増加一日平均ニ於テ五、一七六噸ノ増加ヲ示セリ之レカ原因ハ出炭獎勵ト從來ノ出炭



締切ノ十五日ヲ毎月末日締切ニ變更ノタメ本月分ニ十五日間ノ出炭増加セルタメナリ  
煙臺炭坑出炭

煙臺炭坑	三月分(三九日)	二月分(二九日)	増△減(増十日)
總出炭一日平均	一五、二〇〇・〇〇	九、一〇〇・〇〇	六、一〇〇・〇〇
總出炭一日平均	三八九・七四	三一三・七九	七五・九五

二、探炭華工狀況

イ、探炭華工就業成績表

別	三月分(四〇日)	二月分(二九日)	増△減
大山南坑	三五、八三六	二五、四一六	一〇、四二〇
大山本坑	四〇、九三二	二八、一六五	一二、七六七
東郷坑	三一、七七四	二一、五一〇	一〇、二六四
楊柏堡坑	三九、三九四	二八、七四九	一〇、六四五
老虎壑坑	三八、三三九	二七、七五六	一〇、五八三
萬達屋坑	三二、三一七	二一、四二八	一〇、八八九
新屯坑	二六、六八五	一七、九五八	八、七二七

龍鳳坑	搭連坑	計	一日平均探炭就業人員	探炭華工現在延人員	同上 一日平均	探炭就業率	一人一日探炭高	現在延人員	一人當探炭力
二四、二五五	九、二一六	二七八、七四八	六、九九九	四一五、八九九	一〇、三九七	六七	一、六一六	一、〇八三	一、〇六一
一七、六四九	六、四五九	一九五、〇九〇	六、七二七	二九一、四三〇	一〇、〇四九	六六	一、五八六	一、〇六一	一、〇六一
六、六〇六	二、七五七	八三、六五八	二四二	一二四、四六九	三四八	一	三〇	二二	二二

備考 1、但シ本表中一人一日ノ探力炭及現在人員一人當探炭力ハ古城子及東ケ岡露天掘チ除外シ且ツ過炭ヲ控除シタル出炭高ヲ以テ算出セリ

2、月末締切期日變更ノ結果各坑就業人員ノ比較ニ異數ノ増加ヲ示セリ

ロ、探炭華工移動成績表

別	前月末現在	來		坑計	退散	本月末現在	増△減
		募集	自來				
大山南坑	一、四三八	一一六	三八七	五〇三	四一六	一、五二五	八七

支那礦業時報 第六十九號



坑別	本年	前年	増	減
大山本坑	一、五六〇	四二六	四四八	一、六三九
東郷坑	一、一九〇	三九二	四四九	一、二六五
楊柏堡坑	一、五二六	三七三	六七八	一、五九六
老虎壘坑	一、三五二	三一五	四七一	一、四五〇
萬達屋坑	一、一九六	四六九	六〇四	一、三四八
新屯坑	一、〇一〇	三〇四	三〇三	一、〇五六
龍鳳坑	七八八	三八四	五二九	九六二
搭連坑	三七四	一三二	一八六	三五四
計	一〇、四三四	三、一八二	三、六八八	一一、一九五

ハ、一般狀況

本月ハ山東避難民ノ來撫セルモノ約二萬ノ多キニ達シ其ノ一部分ハ當礦ニ職ヲ求メタルモノアリシモ殆ト坑外作業ニ從事シ坑内作業ニ從事シタルモノハ毎年舊年末ニ歸國シ正月後復渡來スル者ニシテ大體ニ於テ坑内作業ハ避難民ヲ吸收セルコト少ク各坑間ノ移動激シク遠隔地募集激増ハ舊正月後ノ募集華工着坑セシモノナリ

奉天票ハ月末九百元臺ニ下落シ物貨ハ益々昂騰シ小洋銀モ低下シ來ルタメ炭礦使役ノ華工モ其ノ實收ニ影響ヲ受ケルコト尠カラス市中ニ於テハ既ニ印刷會社ノ工賃値上ケ運動アリ更ニ靴工ノ罷業アリ支那側ニ於テハ各職工徒弟間ニ各々雇主ニ對シ奉票暴落ノタメ生計困難ナリトシ各官衙職員等ニ對シテハ現況ニ鑑ミ三割宛ノ増俸ヲ認メラレタル今日當然工賃モ増給セララルヘキモノナリトシ若シ増給ヲ爲ササル場合ハ罷業スヘント態度強硬ニシテ形勢惡化ノ恐レアリ

リ一方雇主側ハ彼等ノ要求ヲ諒トスルモ單獨ニ協定スルコトハ統一ヲ缺キ面白カラサル結果ヲ招致スルモノトシ俄ニ決定シ難キ事情アリシヲ以テ商務會ニ於テ辦法研究シ一律ニ相當額ノ増給ヲナスコトヲ約シテ一時鎮定シ其ノ後二割ノ増給ヲナシテ無事解決セリ

吉敦線工事ニ關係セル當地請負者ハ何レモ當地ヨリ華工募集ヲ計畫シ目下來撫中ノ華工ヲ自家ノ小把頭ヲシテ招來シ旅店ニ宿泊セシメ臨時華工或ハ請負作業ニ從事セシメ居リシモノヲ昨今需用地ニ輸送シ日々相當ノ數ニ上リ炭礦使役中ノモノヲ誘拐サルル恐レアルヲ以テ警戒中ナリ

尙奉天省財政逼迫ノタメ之方救策トシテ禁煙令ヲ發シ省内ニ阿片ノ栽培ヲ許シタルヲ以テ土着農民ハ勿論出稼華工中此ノ方面ニ吸收サル、モノアルヘク開水期ヲ眼前ニ控ヘ華工ノ需供ヲ圓滑ナラシムヘク對策講究中ナリ

一、各坑別出炭高前年度同期出炭比較

坑別	本年度 (二六日)		前年度 (二六日)		増	減
	月計	一日平均	月計	一日平均		
古城子	內過炭 二四、七〇〇 一、六五五	九四三〇	一九、六〇〇 二、八六三	七、三三八	四九、七〇〇	一、九三三
東ヶ岡	—	—	—	—	—	—
大山南坑	同 一、六五五	一、六五五	同 一、〇〇〇	一、〇〇〇	△	一、六五五
大山本坑	同 一、二三四	一、二三四	同 九八、〇〇〇	一、〇〇〇	—	一、〇〇〇



東 鄉 坑	楊 柏 堡 坑	老 虎 臺 坑	萬 達 屋 坑	新 屯 坑	龍 鳳 坑	搭 連 坑	計	前 月 分 出 炭	同 比 較 增 減
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三,六〇〇	四,七五〇	四,〇〇〇	三,七〇〇	三,七五〇	三,五〇〇	七,〇〇〇	五,四八〇	五,四八〇	三,二七〇
一,六四一	二,三〇〇	四,〇〇〇	三,五〇〇	一,四〇〇	一,二二八	四,〇〇〇	二,七二二	二,七二二	一,一〇〇
一,三六九	一,八二七	一,五三八	一,四二二	一,四四二	九〇四	二,六九	三,九〇〇	三,九〇〇	一,一〇〇
二,九,〇〇〇	四,二,〇〇〇	四,七,〇〇〇	三,六,〇〇〇	三,九,〇〇〇	一,三,〇〇〇	七,〇〇〇	五,六,〇〇〇	五,六,〇〇〇	四,八,〇〇〇
一,一,四〇〇	一,六,七九	一,二,二〇〇	八,九〇〇	一,五,四〇〇	一,三,三三	二,六九	九,八四四	九,八四四	一,一〇〇
一,三三四	一,六二七	一,八〇八	一,六九五	一,五七	一,〇三八	二,六九	一,〇三八	一,〇三八	三,五〇〇
六,一〇〇	五,一〇〇	七,〇〇〇	一,〇〇〇	一,七〇〇	△	△	△	△	一,八七九
二,三三	一〇〇	三〇	三六	三	△	△	△	△	一,八七九

前表ノ如ク本月分出炭五六四、八〇〇噸ニシテ之レヲ採炭作業日數二六日間ニ割當テタル一日平均出炭高二、七二三噸ニ當リ之ヲ前月ニ比較セハ合計ニ於テ三五二、七二〇ノ減少ヲ示セリ而シテ前年度同期出炭高五一六、〇〇〇噸ニ對比セハ四八、八〇〇噸ノ増加一日平均ニ於テ一、八七七噸ノ増加ヲ示セリ

煙臺炭坑出炭

煙 臺 炭 坑	四 月 分	三 月 分	增 減
作 業 日 數	二七日	三九日	△
總 出 炭 高	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一五,二〇〇,〇〇〇	△
總 出 炭 一 日 平 均	三五五,三三五	三七二,九九五	△
			五,二〇〇,〇〇〇
			一七,六〇〇

二、採炭華工狀況

イ、採炭華工就業成績表

別	四 月 分 (二六日)	三 月 分 (四〇日)	增 減
大 山 南 坑	二八,四一八	三五,八三六	△
大 山 本 坑	二六,七七七	四〇,九三二	△
東 鄉 坑	二二,五四三	三一,七七四	△
楊 柏 堡 坑	二七,五五六	三九,三九四	△
老 虎 臺 坑	二七,五二七	三八,三三九	△
萬 達 屋 坑	二二,七六四	三二,三一七	△
新 屯 坑	一八,四〇六	二六,六八五	△
龍 鳳 坑	一七,五九三	二四,二五五	△
			六,六六二



塔連坑	一日平均探炭		華工就業人員		現在延探炭力
	探炭	就業率	探炭	就業率	
計	一九七、三三八	七、五九〇	二八九、六五七	一〇、三九七	一、〇八三
塔連坑	五、七五四	二八	一一、一四一	六八	一、〇六五
大山南坑	二七、八、七四八	六、九六九	四一五、八九九	一〇、三九七	△
大山本坑	九、二一六	二、九六〇	二八、六五七	一〇、三九七	△
計	三、四六二	六二一	一、二六、二四二	七四四	一八

備考 1、三月分は締切期日ノ關係ニヨリ作業日數二十數日ノ増加アリシタメ本月トノ就業人員比較ニ於テ非常ノ差ヲ示セリ

2、本表中一人一日ノ探炭力及現在人員一人當探炭力ハ古城子及東ヶ岡兩露天堀ヲ除外シ且ツ過剩炭ヲ除外シタル出炭高ヲ以テ算出セリ

探炭華工移動成績表

別	前月末現在	來		坑計	退散	本月末現在	増△減
		募集	自來				
大山南坑	一、五二五	一九二	二五八	四五二	四三三	一、五四四	一カ
大山本坑	一、六三九	二二一	二八四	五〇五	四七〇	一、六七四	三五

ハ、一般狀況

結氷期炭礦ニ集採シタル華工カ解氷ヲ待テ漸次農業土木建築其ノ他ノ作業へ轉出スル例年ノ現象ニ鑑ミ當月ハ坑所採用二、三四六名以外ニ七七五名ノ募集ヲナシタルタメ三、三一三名ノ退散ヲ見タルモ結局前月ニ比シ月末一九二名ノ減員ニ止メ一日平均一一、一四一名ノ華工ヲ維持スルコトヲ得タリ移動頻繁ヲ來シタル結果能率ノ低減ハ素ヨリ免レサルトコロニシテ本月分華工一人當出炭噸數一、五六四噸前月ニ比シテ〇、〇五二噸ノ減少ヲ示シ從ツテ平均工賃ニ於テモ本月一人當六十六錢三厘前月ニ比シ一錢五厘ノ減收ヲ示セリ

坑内請負華工ハ從來把頭請負制ニヨルモノヲ以テ多數トセシモ本制度ノ陥リ易キ把頭搾取ノ弊ヲ除去スルタメニ一律ニ個人計算個人拂制ヲ採用シ且又工賃支拂方法トシテ從來ノ三十滿工拂制ニ對シテモ滿工期間長期ニ失スル弊害ヲ認メタルニヨリ本月ヨリ二十滿工制ニ變更實施スルコト、セリ







總出炭	1,000,000	1,000,000	116
總出炭一日平均	337,822	355,357	17,535

イ、採炭華工就業成績表

二、採炭華工狀況

別	五月		四月		増減
	分	分	分	分	
大山南坑	26,742	28,418	△	1,676	
大山本坑	29,037	26,777	△	2,260	
東山坑	21,407	22,543	△	1,136	
楊柏堡坑	28,718	27,556	△	1,162	
老虎壑坑	28,148	27,527	△	621	
萬達屋坑	21,576	22,764	△	1,188	
新屯坑	18,911	18,406	△	505	
龍鳳坑	16,522	17,593	△	1,071	
塔連坑	6,816	5,754	△	1,062	
計	197,929	197,338	△	591	
華一日平均採炭人員	7,330	7,590	△	260	

採炭華工現在延人員	287,303	289,657	△	2,354
同上一日平均	10,640	11,141	△	501
就業率	0.68	0.68		
一人一日採炭高	1,623	1,564		59
現在延人員	1,118	1,065		53

備考 本表中一人一日ノ採炭力及現在人員一人常採炭力は古城子及東ヶ岡露天堀ヲ除分シ且ツ過剩炭ヲ控除シタル出炭高ヲ以テ算出セリ

ロ、採炭華工移動成績表

別	前月末現在	來		坑計	退散	本月末現在	増減
		募集	自來				
大山南坑	1,544	101	375	375	437	1,482	△ 62
大山本坑	1,674	312	315	416	505	1,585	△ 89
東山坑	1,181	312	312	312	404	1,089	△ 92
楊柏堡坑	1,598	270	270	373	461	1,510	△ 88
老虎壑坑	1,390	364	364	397	395	1,392	二
萬達屋坑	1,353	243	243	243	464	1,132	△ 221
新屯坑	1,049	265	265	265	306	1,008	△ 41







前表ノ如ク本月分出炭高一四、四〇〇噸ニシテ之レヲ作業日數二六日間ニ割當テタル一日平均出炭高一九、七八四六一噸ニ當リ之レヲ前月ニ比較セバ合計ニ於テ二二、四〇〇噸一日平均ニ於テ五九、八三噸ノ減少ヲ示セリ之レガ主ナル原因ハ採炭華工ノ減少ニ因スルモノナリ

煙臺炭坑出炭

別	六 月 分	五 月 分	增 減
作 業 日 數	二八日	二八日	
總 出 炭	一一、〇〇〇〇〇	一〇、〇〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇
總 出 炭 一 日 平 均	三七〇〇〇	三三七・八二	三二・一八

二、採炭華工狀況

イ、採炭華工就業成績表

別	六 月 分	五 月 分	增 減
大 山 南 坑	二二、四六五	二六、七四二	△
大 山 本 坑	二五、七八一	二九、〇三七	△
東 山 坑	二〇、〇九〇	二一、四七〇	△
楊 柏 堡 坑	二六、一〇二	二八、七一八	△
總 計	一八三、三九六	一九七、九二九	△

別	六 月 分	五 月 分	增 減
老 虎 臺 坑	二六、六二九	二八、一四七	△
萬 達 屋 坑	二一、一〇六	二一、五七六	△
新 屯 坑	一七、三八一	一八、九一一	△
龍 鳳 坑	一五、九六四	一六、五二二	△
塔 連 坑	六、八七八	六、八一六	△
計	一八三、三九六	一九七、九二九	△
一 日 平 均 採 炭 華 工 就 業 率	七、〇五三	七、三三〇	△
採 炭 華 工 現 在 人 員	二六五、四二〇	二八七、三〇三	△
同 一 日 平 均 採 炭 就 業 率	一〇、二〇八	一〇、六四〇	△
一 人 一 日 採 炭 高	六九	六八	△
現 在 採 炭 人 員	一、〇一三	一、六二三	△
一 人 當 採 炭 力	一、二二八	一、一一八	△

備考 本表中一人一日ノ採炭力及現在人員一人當採炭力ハ古城子及東ヶ岡露大風ヲ除分シ且ツ過剩炭ヲ控除シタル出炭高ヲ以テ算出セリ

ロ、採炭華工移動成績表



別	前月末現在	來		坑計	退散	本月末現在	増△減
		募集	自來				
大山南坑	一、四八二			二三七	二四八	一、三七一	△ 一一一
大山本坑	一、五八五		三九六	三九六	四三一	一、五五〇	△ 三五
東郷坑	一、〇八九	三	二六六	二六九	二九七	一、〇六一	△ 二八
楊柏堡坑	一、五一〇	二	二四一	二四三	三五三	一、四〇〇	△ 一一〇
老虎壘坑	一、三九二		二四七	二四七	三八二	一、二五七	△ 一三五
萬達屋坑	一、一三二		三六五	三六五	三〇四	一、一九三	△ 六一
新屯坑	一、〇〇八		二二二	二二二	二五四	九八六	△ 二二
龍鳳坑	八六二		一八三	一八三	二〇三	八四二	△ 二〇
塔連坑	四四四	五	一三三	一三三	一四六	四三一	△ 一三
計	一〇、五〇四		二、三〇〇	二、三〇五	二、七一八	一〇、〇九一	△ 四一三

ハ、一般狀況

安國軍ノ敗退ニヨル山東方面騷擾ノタメ募集ヲ妨ゲラレ本月中募集採用僅ニ五名坑所採用二、三〇〇名合シテ二、三〇五名退散者二、七一八名ヲ算シ結局前月末ニ比シ本月末四一三名ノ減少ヲ示シ平均一日在籍人員ニ於テ三七七名ノ減少從ツテ就業延人員ニ於テモ前月ニ比シ一五、九三八名ノ減少就業率ニ於テマタ〇・〇一％ノ低減ヲ見一九、六〇〇噸ノ出炭減少ヲ示シタルモ華工ノ質ニ於テハ幾分精選セラレタル結果カ一人當出炭噸數前月ニ比シテ〇・〇五噸ヲ増

加シ工賃又一錢五厘ノ増額ヲ示セリ

三四月以來山東方面ヨリノ渡來者例年ニ數倍セルモニアルニ拘ラス斯如探炭華工ニ漸減ノ趨勢ヲ示スハ聊カ奇異ノ感アルモ渡來者ノ大部分ガ農民ニシテ探炭作業ノ如キニハ全然經驗ナク爲メニ探炭華工トシテ滯留稼働スルコトヲ好マス漸次奥地ヘ向ツテ通過流出スルニヨルモノト想像セラル

奉票相場月初メ一、〇九〇元月半一、〇七〇元月末一、〇六〇元微々タリナガラ持直リノ情勢ヲ辿リ居ルモ物貨ハ個定シテ何等ノ變動ヲ示サズ持合ノ状態ニアリ初春當時銀相場下落ノ影響ト相俟チ華工ニトリ工賃購買力ノ減退ニヨリ時ニ金建制採用希望ノ聲ヲ耳ニシタルコトアリシモ二月來銀相場漸ク持直シ本月ニ於テハ換算率モ八十八圓トナリシタメ此種脅威モ漸次緩和サレルコト、ナレリ

昭和二年七月分

一、各坑別出炭高前年度同期出炭比較

坑別	本年度 (二六)		前年度 (二七)		増	減
	月計	一日平均	月計	一日平均		
古城子	內過炭 一六、七〇〇 二二、〇五五	六、四九九	內過炭 一六、七五〇 二二、三一一	六、四〇〇	一、〇〇〇	二、八六六
東箇岡	一		一			
大山南坑	同 一〇、〇〇〇 〇、九七〇	一、五七七	同 一〇、〇〇〇 〇、九七〇	一、五七〇	△ 〇、〇〇〇	△ 一、三三三



同比較増△減	前月出炭高	計	塔連坑	龍鳳坑	新屯坑	萬達屋坑	老虎臺坑	楊柏堡坑	東鄉坑	大山本坑
△同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三,四三〇〇	三,二八一	四,〇一〇	七,二〇〇	一,四一五	三,五〇〇	三,八〇〇	四,〇〇〇	一,七三三	三,三〇〇	一,〇〇〇
		一八,四六六	二二六	一,〇〇〇	一,三三七	一,四三三	一,五二六	一,六二二	一,三二五	一,七〇〇
		同	同	同	同	同	同	同	同	同
		四七,〇〇〇	六,五五三	二五,〇〇〇	三,五〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇	四,七〇〇	三,二〇〇	五,〇〇〇
		一七,七二二	二四	九四八	一,三三四	一,一九六	一,四八一	一,六五五	一,三三四	一,五二六
		一,四六九	六六七	四〇〇	一〇〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
		七四	三	五	三	二六	五	二	一〇	一〇

前表ノ如ク本月分出炭高四八〇、一〇〇噸ニシテ之ヲ作業日數二六日間ニ割當タル一日平均出炭高一八、四六五噸ニ當リ之ヲ前月ニ比較セバ合計ニ於テ二、四、三〇〇噸一日平均ニ於テ八一三一、八六一噸ノ減少ヲ示セリ

之レカ主ナル原因ハ地方農繁期ノタメ華工移動減少ノタメナリ  
煙臺炭坑出炭

別	七月分	六月分	増	減
作業日數	二七日	二八日	△	一日
總出炭	一〇,四〇〇・〇〇	一〇,〇〇〇・〇〇	△	六〇〇・〇〇
總出炭一日平均	三八五・一六	三九二・八六	△	七・七〇

イ、採炭華工就業成績表  
二、採炭華工狀況前年度比較

坑別	七月分	六月分	増	減
大山南坑	二二、八九六	二三、四六五	△	五六九
大山本坑	二五、一四三	二五、七八一	△	六三八
東山坑	一九、七二五	二〇、〇九〇	△	三六五
楊柏堡坑	二五、四三一	二六、一〇二	△	六七一
老虎臺坑	二六、九一八	二六、六二九	△	二八九
萬達屋坑	一一、〇〇四	一一、一〇六	△	八九八







影響ナルベク之ガタメ坑内掘採炭華工ノ移動モ頻繁ナラシメラレタルノ觀アリ尙ホ從來暴落シ居タル奉票相場モ南方派分裂ニヨル北軍ノ大勢挽回ニヨリ月半以來一、〇〇〇元代ヨリ月末九三〇元代ニ持直シタルタメ主食品物貨モ約五%方低落シタルモ華工ノ生活上ニハ何等ノ影響ヲモタラスモノニ非ス依然トシテ臨時華工ノ繁昌ヲ持續セシメ居レリ

豫テ一般華工ノ福利増進ノ見地ヨリ炭礦ハ觀樂園ヲ設ケ居ルガ今回更ニ華工ノ慰安娛樂修養ヲ圖ル目的ヲ以テ同園内ニ華人俱樂部ヲ設置セシムルコト、シ工事ニ着手セリ本俱樂部ニハ娛樂室讀書室浴場食堂等ヲ設備スル計畫ナレバ竣成ノ上ハ華工ノタメ一層ノ福益ヲモタラスコト、ナルヘシ

前年度比較坑別出炭高 (△ハ減ヲ示ス)

坑別	豫算對實績比		前年度比較	
	豫算	實績	前年度	比較
古城子	五九,〇〇〇	二,五〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	△
東ヶ岡	五八,八〇〇	一,九〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	△
大山南坑	五三,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	△
大山本坑	五八,七〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	△
東郷坑	五七,五〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	△

坑別	豫算對實績比		前年度比較	
	豫算	實績	前年度	比較
楊柏堡坑	五八,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	△△
老虎臺坑	五三,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	△△
萬達屋坑	四七,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	△
新屯坑	四七,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	△
龍鳳坑	三〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	△
搭連坑	七八,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	△
計	六九一,九〇〇	六,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	△



各坑別一日平均出炭

別	作業一日出炭高		比較	本年度末現在一日平均出炭高	
	本年度	前年度		本年度	前年度
古城子	六八二・五	五九六・八	一一・二四	九七五・三	六二二・四
東箇岡	五五・四〇		五五・四〇	八〇〇・四	八〇〇・四
大山南坑	一七七・六	一六五・八	七三・二	一六〇・六	一五六・九
大山本坑	一七六・三	一七四・二	七二・九	一八二・七	一六五・八
東郷坑	一三二・五	一四九・二	六八・三	一四九・三	一四三・二
楊柏堡坑	一六五・五	一六〇・三	三・七	一八八・〇	一五四・二
老虎臺坑	一七五・三	一六三・六	八・三	一四七・五	一五八・四
萬達屋坑	一三三・九	一三九・〇	五・二	一三三・五	一三四・六
新屯坑	一三四・八	一三八・三	四・四	一六五・〇	一三四・六
龍鳳坑	九〇・九	九二・七	一・八	八五・〇	八七・六
搭連坑	三九・三	二五・八	一〇・四	三七・五	三三・〇
計	一九二六・八	一七四七・〇	一〇・七	三三六六・三	一七三二・四

備考

- 一、本年度出炭中年度締切變更ノ爲追加出炭ヲ含ム
- 一、本年度各坑作業日數左ノ如シ

古城子 (三七〇)	東箇岡 (一五)	大山南 (三二九)
大山本 (三二八)	東郷 (三三)	楊柏堡 (三三)
老虎臺 (三三)	萬達屋 (三三)	新屯 (三三)
龍鳳 (三三)	搭連 (三九)	

- 一、本年度出炭ニハ年度締切期日變更ノ爲追加出炭ヲ含ム
- 一、本年度作業日數ハ締切期日變更ノ爲十五日間ヲ追加ス又本表ニ於ケル作業日數ハ坑内掘ト露天掘ト作業日數ヲ平均シタルモノヲ以テ炭礦ノ作業日數トナシタルモノナリ
- 一、就業人員一人一日ノ出炭高ハ露天掘(古城子東箇岡)ヲ控除シタル出炭及就業人員ヲ以テ計算セリ(過剩炭カ除外)
- 一、本表ニ於ケル純採炭就業率ハ露天掘ヲ除外シタルモノノ各坑ノ純採炭率工率ナリ
- 一、本年度豫算ハ大正十五年二月二十四日編成本社興業部販賣課へ提出豫算へ含搭連六、一〇〇、〇〇〇噸ニヨリ算出セリ
- 一、本表各坑ノ添書數字ハ過剩炭ニシテ總出炭中ニ含ムモノナリ
- 一、本年度十二月分ヨリ純採炭就業率ハ露天掘ヲ除外シタルモノノ各坑ノ純採炭及跡間採炭率工ノ就業率ナリ

煙臺探炭坑一般狀況

本年度出炭	一二六、八〇〇噸
同 豫想	一五六、三〇〇同
比較増△減	一九、五〇〇噸
前年度出炭	一一七、七〇〇同
比較増△減	一九、一〇〇同

昭和二年八月分  
支那礦業時報 第六十九號



一、各坑別出炭高前年度同期出炭比較

坑別	本年度(二七)		前年度(一)		增別	一日平均
	月計	一日平均	月計	一日平均		
古城子	內過炭 一五,九〇〇 一五,九〇〇	一五,六三三	內過炭 一五,四〇〇 一七,四九七	一六,三三三	△	一,五〇〇
東ヶ岡坑	一	一	一	一	一	一
大山南坑	四三,五〇〇 九六八	一六二	四四,五〇〇 八八六	一七二	△	一,〇〇〇
大山本坑	四八,〇〇〇 九九五	一七八	四七,〇〇〇 六九九	一五九	△	一,〇〇〇
東郷坑	三三,八〇〇 一〇九五	一三五	二四,八〇〇 九四六	九四	△	九,〇〇〇
楊柏堡坑	四四,二〇〇 一,〇〇〇	一三七	三三,〇〇〇 一,四〇六	一三五	△	九,〇〇〇
老虎臺坑	四二,一〇〇 四一八八	一五九	三九,一〇〇 四〇七	一五九	△	二,〇〇〇
萬達屋坑	四〇,〇〇〇 七九九	一五八	三九,〇〇〇 一,一〇〇	一五〇	△	六,〇〇〇
新屯坑	三六,七〇〇 一,六八六	一五九	三三,〇〇〇 一,四〇〇	一四九	△	五,〇〇〇
龍鳳坑	三三,〇〇〇 一,三三四	八七	三三,〇〇〇 五,〇〇〇	九〇	△	一〇〇
計	同	同	同	同	同	同

前表ノ如ク本月分出炭高四七二、八五〇噸ニシテ之ヲ作業日數二七日間ニ割當テタル一日平均出炭高一七、五一三噸ニ當リ之ヲ前月ニ比スレハ合計ニ於テ七、二五〇噸一日平均ニ於テ九五二噸ノ減少ヲ示セリ之レガ主ナル原因ハ露天掘ノ出炭減少ニヨリ坑内掘ニ於テハ反ツテ前月ヨリ出炭増加セリ

煙臺炭坑出炭

別	八 月 分		七 月 分		増 減
	月計	一日平均	月計	一日平均	
東庵坑	二,四四〇 一九七	九一	六,七〇〇 四一五	二五九	五〇〇
搭連坑	四八〇 三六四	一七八	四四,五五〇	一七二六	二七,三〇〇
計	同	同	同	同	同
作業日數	二九日		二七日		二日
總出炭	一,〇〇〇,〇〇〇		一〇,四〇〇,〇〇〇		一,六〇〇,〇〇〇
總出炭一日平均	四一三・七八		三八五・一六		二八・六二

二、採炭華工狀況

イ、採炭華工就業成績表

支那鑛業時報 第六十九號



坑別	八月份	七月份	增減	備考			
				一日平均探炭	華工現在人員	探炭華工現在人員	同日平均
大山南坑	二二,五六五	二二,八九六	△	六,六八五	二六,九四五	△	二六〇
大山本坑	二四,三一八	二五,一四三	△	二六八,一九九	二六四,七〇九	△	三,四一〇
東鄉坑	一七,九六九	一九,七二五	△	九,九三〇	一〇,一八一	△	二五一
楊柏堡坑	二五,四一六	二五,四三一	△	六七	六八	△	〇一
老虎壘坑	二七,八三六	二六,九一八	△	一〇,七七三	一〇,六二二	△	一五一
萬達屋坑	二一,五八六	二二,〇〇四	△	一七,六六七	一五,七五〇	△	一,九一七
新屯坑	一六,三八六	一六,五二二	△	一八〇,五〇三	一八〇,五八一	△	一三六
龍鳳坑	五,七六〇	六,一九二	△	一〇,一九三	一〇,一〇七	△	八六
搭連坑	一八〇,五〇三	一八〇,五八一	△	二,五六七	三,一五七	△	二二二
計							

口、探炭華工移動成績表

備考 本表中一人一日ノ探炭力及現在人員一人當探炭力ハ古城子及東箇岡露天堀ヲ除分シ且ツ過剩炭ヲ控除シタル出炭高ヲ以テ算出セリ

別	前月末現在	募集		坑計	退散	本月末現在	増減
		來	自來				
大山南坑	一,三二七	一八二	三九一	五七三	三九八	一,五〇二	一七五
大山本坑	一,五一四	五八	三六九	三六九	四六七	一,四一六	九八
東鄉坑	一,〇三九	九七	二二一	二七九	四六八	八五〇	一八九
楊柏堡坑	一,四〇八	二〇五	二三五	三三二	四三八	一,三〇二	一〇六
老虎壘坑	一,三五五	九七	二三五	五九二	四九五	一,四五二	九七
萬達屋坑	一,二五四	二〇五	二七五	二七五	四九五	一,二〇四	五〇
新屯坑	九五八	四二	三六七	四〇九	三三五	一,〇三二	七四
龍鳳坑	八五四	一	一九九	一九九	二九九	七五四	一〇〇
搭連坑	三六二	一	一二三	一二三	一五八	三二七	三五
計	一〇,〇七一	五八四	二,五六七	三,一五一	三,三八三	九,八三九	二二二

ハ、一般狀況

北支戰禍ノ影響並不作ニヨル農村疲弊ノタメ山東方面募集ニ應スル者頗ル多ク本月八五八四名ニ達シ坑所自來者ノ



數亦前月ト大差無カリシモ土工作業農作等ニ轉出スルモノ多カリシタメ退散者ノ數著シク増加シ三、三八三名ニ及ヒタルタメ結局前月ニ比シ一日平均在籍人員ニ於テ二五七名就業人員ニ於テ二四八名ノ減退ヲ來セリ  
 移動右ノ如ク頻繁ナリシ結果就業率ニ於テハ聊カ減退ヲ來セルモ能率ニ於テハ寧ロ好現象ヲ呈シ一人當出炭量二二三噸工賃小洋・七一二元前月ニ比シ出炭量ニ於テ・〇六噸工賃ニ於テ・〇一二元ヲ増加セリ  
 奉票ハ依然トシテ九百元代ニ於テ上下シ物貨前月ニ比シ幾分低落シタルモ華工ノ生活ニハ殆ント影響ヲモタラス程度ノモノニ非ス偶々本溪湖煤鐵公司ニ於テ賃銀制ノ改正ヲ動機トシ豫テ日支幹部間ノ軋轢曝露シテ本月二十三日ヨリ採炭華工同盟罷工勃發シ遂ニ暴動化シ發電所製材所等ヲ襲撃シ漸クニシテ日本官憲並軍隊ノ出動ニヨリ鎮定セラレタル事件アリ其ノ餘波撫順ニモ及フヘク謠言アリシモ當礦ニ於テハ別ニ何等不穩ノ動勢モ無ク全ク其ノ影響ト見受クヘキモノヲ認メス

昭和二年九月分

一、各坑別出炭高及前年度同期出炭比較

坑別	本年度 (二八日)		前年度 (二七日)		増別	△減
	月計	一日平均	月計	一日平均		
古城子	內過炭 17,150 10,112	六一五	內過炭 15,100 3,775	五六三	一九四〇	四九
東ヶ岡坑	同 14,000 1,977	一七	同	—	四四〇〇	一五七

大山南坑	同	四四,〇〇〇 七五三	內過炭 四一,〇〇〇 七六一	一,五七	二,五〇〇	三五
大山本坑	同	五二,五〇〇 一一五	同 四二,五〇〇 九六四	一,七四	一〇,〇〇〇	三〇一
東郷坑	同	三九,五〇〇 一,一五四	同 二六,八〇〇 一,五六七	九九	一二,七〇〇	四一九
楊柏堡坑	同	四九,〇〇〇 一,二六	同 三九,五〇〇 二,〇八七	一,三三	九,七〇〇	三〇一
老虎壺坑	同	四三,〇〇〇 二,六六	同 三九,〇〇〇 六四五	一,四三	三,五〇〇	七
萬達屋坑	同	三九,〇〇〇 一,九七	同 三二,〇〇〇 一,四六	一,二四八	八,〇〇〇	二四五
新屯坑	同	三八,〇〇〇 一,九七四	同 三三,七〇〇 一,一七	八七七	一四,四〇〇	四八四
龍鳳坑	同	二五,〇〇〇 一,一五三	同 二二,〇〇〇 一,五六五	七七	三,〇〇〇	一六
東龍坑	同	二八,九〇〇 四一五	同 五,七〇〇 三〇一	一一〇	三,〇〇〇	一〇〇
搭連坑	同	五八,八〇〇 八〇〇	同 四二,九〇〇 三,九四九	一一〇	—	—
計	同	五〇,九〇〇 三,七六六	同 四二,九〇〇 三,九四九	一五,五四	九一,六〇〇	二,七三四

前表ノ如ク本月分出炭高五一〇、九〇〇噸ニシテ之ヲ作業日數二八日間ニ割當タル一日平均出炭一八、二四六噸ニ當リ之ヲ前月ニ比スレハ合計ニ於テ三八、〇五〇噸ノ増加ヲ示セリ而シ作業日數一日平均出炭ハ反ツテ作業日數ノ關係



三四〇噸ノ減少ヲ示セリ

煙臺炭坑出炭

別	九 月 分	八 月 分	增 減
作 業 日 數	二八日	二九日	△
總 出 炭 一 日 平 均	四一〇・七一	四一三・七九	△
總 出 炭	一一、五〇〇・〇〇	一二、〇〇〇・〇〇	△
			五〇〇・〇〇

二、探炭華工狀況

イ、探炭華工就業成績表

別	本 月 分	前 月 分	增 減
大 山 南 坑	二六、三五八	二三、五六五	△
大 山 本 坑	二五、八九一	二四、三一八	△
東 鄉 坑	二〇、二八四	一七、九六九	△
楊 柏 堡 坑	二五、四五五	二五、四一六	△
老 虎 臺 坑	二七、六五四	二七、八三六	△
萬 達 坑	二〇、一五	二一、五八六	△
搭 計	一八五、九八八	一八〇、五〇三	△
新 屯 坑	一九、〇二五	一七、六六七	△
龍 鳳 坑	一五、四一四	一六、三八六	△
計	五、七九二	五、七六〇	△
			五、四八五

ロ、探炭華工移動成績表

備考 本表中一人一日ノ探炭力及現在人員一人當探炭力は古城子及東ヶ岡露天堀ヲ除外シ且ツ過剩炭ヲ控除シタル出炭ヲ以テ算出セリ

別	前月末現在	來		坑 計	退 散	本月末現在	增 減
		募 集	自 來				
大 山 南 坑	一、五〇二	一五六	二六〇	四一六	四五二	一、四六六	△
大 山 本 坑	一、四一六	三〇四	二七四	五七八	二七四	一、七二〇	△
							三〇四
一 日 平 均 探 炭 人 員	六、六四二			二六八、一一九	六、六八五	△	四三
探 炭 華 工 現 在 人 員	二八六、九八四			九、九三〇	二八八、一一九	△	一八、八六五
同 一 日 平 均	一〇、二四九			六五	九、九三〇	△	三一九
探 炭 就 業 率	六五			一、七三三	六五	△	〇二
探 炭 華 工 一 日 平 均 探 炭 人 員	一、五三一			一、一九三	一、七三三	△	〇二四二
一 日 平 均 探 炭 人 員	一、一六六				一、一九三	△	〇二七



東 鄉 坑	八五〇	三六六	一七五	五四一	二一六	一、一七五	三二五
楊 柏 堡 坑	一、三〇二	一九一	二〇三	三九四	二八七	一、四〇九	一〇七
老 虎 臺 坑	一、四五二	一六一	三二六	四八七	四二六	一、五一三	六一
萬 達 屋 坑	一、二〇四	一	二二〇	二二〇	二二〇	一、二〇四	一
新 屯 坑	一、〇三二	一	二八〇	二八〇	二八二	一、〇三〇	△
龍 鳳 坑	七五四	六四	二〇二	二六六	一八五	八三五	八一
搭 連 坑	三二七	一四〇	八四	二二四	九四	四五七	一三〇
計	九、八三九	一、三八二	二、〇二四	三、四〇六	二、四三六	一〇、八〇九	九七〇

ハ、一般狀況

北支那動亂ノ影響ハ北支一帯殊ニ山東方面居住民ノ安定ヲ脅カシ併セテ張宗昌ノ苛斂誅求農作ノ不況ハ遂ニ彼等ヲシテ郷土ヲ棄テ滿蒙ノ地ヘ移住セザルベカラザルニ至ラシメ最近著シク渡來者ノ數ヲ増加シツ、アルガ之カ爲メ採炭華工ノ募集モ前月ニ引續キ益々盛況ヲ呈シ本月ハ實ニ一千三百八十二名ニ達シ尙陸續トシテ應募ヲ切望スルモノアルノ狀態ナリ如斯募集華工潤澤ナリシタメ自來者ノ數ニ於テハ前月ニ比シ聊カ減少シタルモ採用數ニ於テハ却テ二百五十餘名ヲ増加シ退散亦前月ニ比シ九百四十七名ヲ減少シタルニヨリ本月中ノ在籍人員ハ前月ニ比シ著シク増加シ月末一萬八百九名トナレリ右ノ如ク退散者減シ華工ノ居付前月ニ比シ良好トナリシ結果就業率ハ前月ニ比シ三%方低下シ六四%トナレルモ就業者ノ出炭能率ハ寧ロ向上シ本月分一人當一日出炭二・二七噸前月ニ比シ〇・〇四噸ヲ増加シ從而工賃ニ於テモ一日一人當小洋七十二錢七厘前月ニ比シ一錢五厘方増加ヲ示セリ奉票モ前月ニ引續キ平均相場一、〇〇

五元ヲ中心トシ僅少ノ開ヲ以テ上下シ物價亦殆ント變動ヲ見ス其他特ニ華工狀態ニ影響ヲ及ホス程ノ時象モナシ



時事彙報

●滿洲

▲關東州

◎關東州鑛業規則中鑛物名改正

昭昭二年七月關東廳告示第七號ヲ以テ關東州鑛業取締規則中ノ鑛物名ヲ改正シ「重晶石」ノ下ニ「螢石」ヲ加ヘラレタルガ今其改正理由ヲ聽クニ左ノ如シ

關東州鑛業取締規則ニ依ル鑛物名改正理由

一、螢石ノ用途ハ廣汎ニシテ重要ナリ

用途概略次ノ如シ

(イ) 冶金工業

製鐵製鋼用

ニツケル製鍊用

アルミニウム製造用

其他鉛ノ電氣精鍊、金、銀、銅、鉛ノ鑄造用等

(ロ) 陶器工業

琺瑯鐵器用

硝子工業用

(ハ) 化學工業

弗化水素酸、弗化アンモニヤ、弗化アンチモニー共

他人造氷晶石ノ原料

炭化カルシウム及サイアナマイド

(ニ) 光學工業

農業

弗化カルシウム、弗化硫酸カルシウム

裝飾

(ト) セメント工業及治療用

右ノ内最モ主要ナルハ製鐵製鋼等用トシテ消費セラル

ルモノニシテ米國ノ例ニ見ルニ全使用料ノ八十%ヲ越エ

殆ンド大部分ヲ占ム、最近日本ニ於テハ「アルミニウム」

工業企劃ニヨリ重要視サレツ、アルガ如ク石膏及アルミ

ニウム鑛分共ニ新ニ鑛物中ニ追加ノ議起リツ、アリト云

フ、朝鮮ニ於テハ既ニ昨年六月鑛業令ヲ改正シ追加セラ

レタリ

二、内地ニ於ケル螢石ノ需要ハ殆ンド輸入ニ依ル

内地ニ於ケル螢石ノ産額ハ甚ダ少ク商工省鑛山局ノ調

査ニ依ルニ大正十一年僅ニ九千五百六十八貫(三十五英

屯餘)價格二千三百九十二圓ヲ産シタルノミニシテ其後

引續キ産出ヲ見ズ

内地ニ於ケル需要額ハ不明ナルモ大部分ノ消費者タル

製鐵業者ニ就キ鑛山局ノ調査セル結果ニ依レバ製鐵製鋼

用トシテ使用セル輸入品ハ全部支那産ニシテ數量概略ハ

次ノ如シ

大正十年

大正十一年

同 十二年

?

四百越

?

同 十三年

同 十四年

同 十二年

同 十三年

同 十四年(三月迄)

同 十二年

同 十三年

同 十四年(三月迄)

同 十二年

同 十三年

同 十四年(三月迄)

同 十二年

同 十三年

同 十四年(三月迄)

同 十二年

同 十三年

同 十四年(三月迄)

滿洲ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海

州ニ於ケル螢石ノ産地ハ蓋平附近(蘆家屯、沙崗臺)海



城附近及州内普蘭店管内(上隋家屯、吳家屯、孫家溝)等アルモ其産額ハ次ノ如ク最近ハ殆ント休業中ナリ

産地	大正七年同	八年同	九年同	十年同	十一年
上隋家屯	不明	不明	二〇〇立坪 (九〇〇圓)		
同 西 南 山	同	同	(二四〇圓)		
吳 家 屯	同	同	(二五〇圓)		
沙 崗 臺	同	同	不明	六〇〇噸	
盧 家 屯	二五〇	八七〇	二八八	九〇〇圓	一三〇一〇噸

備考

一、大正七八年ノ産額不明ナルモ探掘現場ヨリ推察スル時ハ相當探掘サレシモノノ如シ  
 二、大正十二年以降産額無シ、但シ大正十五年上隋家屯ニ於テ五十噸探掘セリ  
 三、盧家屯産額ハ滿鐵地質調査所ニ依ル  
 右ノ如ク産出甚ダ少キハ滿洲ニ於ケル需要少ク加フルニ内地ヘノ輸出ハ品質優良ニシテ價格低廉ナル上海品ニ壓迫セラレタルニ依ルベシ然ルニ最近内地ニ於ケル品不足ニ依リ(價格二倍半ニ暴騰セリト云フ)上隋家屯ニ於テ

昨年以來探鑛ヲ始メ一方販賣開始中ナリ  
 滿洲産螢石ハ從來上海品ニ比シ品質下等ナリトノ定評アリ上隋家屯産モ外見不良ナルモ滿鐵調査ニ依ルニ左表ニ示ス如ク精撰セバ可成ノ優良品ヲ得ヘク製鋼用トシテ充分使用ニ堪フベシ

上隋家屯産螢石分析表

箇 所 別	手撰鑛ニヨル成績			弗化カルシウム 含 有 量
	上 鑛	中 鑛	下 鑛	
北端(三箇平均)	五四	一六	三〇	九一、二二%
中部(同)	四一			八〇、三一%
南部(四箇平均)	三六	八	八	九二、九二%

鑛量ハ探鑛ノ結果上隋家屯ニ於テ可採鑛量一萬五千屯尙深部迄計算セバ數萬屯ヲ有スルト稱セラレ其他吳家屯及孫家溝等ヲ合セハ州内ニ於テモ相當ノ量ニ達スヘシ  
 右ノ如ク州内螢石ハ鑛量豊富ナラサルモ内地ノ補給品トシテ探掘セラル、ニ至ルヘク尙鞍山ニ於テ將來製鋼業

ヲ開始セハ著シク需要ヲ惹起スヘシ

四、鑛床ノ性質上鑛物トシテ取扱ヲ妥當トス

螢石ハ普通ノ石材ト異リ鑛脈ノ分布或ハ探鑛上相當ノ面積ヲ要スルニ拘ハラス多クハ官有地内ニ産スルヲ以テ多額ノ土地使用料ヲ要スルコト、ナリ例ヘ豫定ノ探掘坪數ニ對スル使用料ヲ課セラル、トスルモ鑛床使用料ニ比シ著シク高率ナリ從テ苦灰石、石綿或ハ雲母等ト同様鑛物トシテ保護獎勵スルヲ妥當ト認ム

◎苦灰石探掘費

大連附近ニ於ケル苦灰石探掘費左ノ如シ

一、大連附近苦灰石ノ探掘ハ概ネ支那人苦力頭ニ採掘受負ニシテ一立坪受負價格ノ標準ヨリ噸當リノ價格算出セハ次ノ如シ

一立坪探掘價格	小洋七圓位トス
噸當リノ推定内譯	
苦力賃(苦力頭費ヲ含ム)	五三錢
支那鑛業時報 第六十九號	

諸用具代

七錢

火藥代

一〇錢

計

七〇錢

右ハ純然タル探掘費ノミノ場合ニシテ今福昌公司及大連工材會社ニ就キテ取調ヘタルモノヲ記載スレハ次ノ如シ

福昌公司

今公司ノ受負制度ハ火藥ハ公司持チトス

探掘量ニ對スル火藥使用量ハ大體一箱ニツキ二十八立坪ノ探掘基礎破暴ヲナシ得ルモノトス而シテ火藥價格ハ附屬共四五圓―五〇圓ト見做セハ噸當リ金二十錢位ニ相當ス

右ニ依リ同公司ノ探掘費ヲ計算セハ

苦力賃(苦力頭費ヲ含ム)	五五錢
火藥代	二〇錢
諸用具代	一三錢
解積込	一五錢
淨賃	三五錢
一四五	



本船積替

一五錢

右ノ如キ内譯ヲ示スモ同公司ニ於テハ〇印ヲ以テ採掘費ト稱スルカ故ニ大體噸當リ八十三錢トス(實際ハ小洋勘定ナルモ本表ハ便宜金勘定トシテ掲ケタリ)

一、大連工材會社

大連工材會社ニ於テモ同様受負制度ヲ採用セルモ同社係員ノ算定セルトコロ左ノ如シ

苦力賃(苦力頭ヲ含ム)

六三錢

火藥代

一五錢

諸用器具代

七錢

貯積込

一三錢

舁代

三五錢

本船積替

一五錢

右ノ内採掘費ト稱スルハ〇印ヲ附セルモノニシテ大體ノ噸當リ八十五錢位トス

▲奉天省

◎馬鹿溝鑛山近況

一、鑛業權者

奉天 李 鴻 吉

鑛業代理人

同 尙 志

二、位置及所在

本溪湖内ニシテ安奉線本溪湖ノ東南約十四里

三、沿革

大正八年大倉組ニテ經營休止後放棄ノ状態ナリシカ大正十四年六月初ヨリ鑛業權者ト久原鑛業會社ノ買鑛ニ從事セル兒玉好正氏ノ間ニ受負契約成リ稼業ヲ開始シ大正十五年十月上旬マデ事業ヲ繼續セシカ爾後又作業ヲ休止シ目下再開ノ準備中ナリ

四、稼業中ノ出鑛高ト賣鑛高

開業後ノ出鑛高ハ約十九萬五千貫ナルガ内約十八萬貫ヲ賣鑛セリ平均品位ハ銅十一%位銀十萬分ノ八位ナリ金

モ百萬分代ヲ含有スルコトアリ

五、賣鑛先

久原鑛業株式會社鎮南浦製鍊所

六、鑛石運搬

採鑛現場ヨリ約一里ノ間ハ駄馬ヲ使用シ二十貫入一俵ノ運賃奉天票三十七錢(奉天票金票對ノ相場ニヨリ多少ノ相違アリ)百貫一元三角五毛

馬車運搬ノ道程(夏秋中六箇月)日本里四里、鑛洞溝ヨリ泉水河子(太子河岸)ニ至ル運賃一俵(二十貫入)六十元(奉天票)百貫當三元、泉水河子ヨリ本溪湖マテ一俵(二十貫入)一元八角、百貫當九元、太子河ヨリ本溪湖驛マテ一俵(二十貫入)一角五毛、百貫當七角五毛  
結氷期中ハ鑛洞溝ヨリ本溪湖マテ一俵(二十貫入)二元(右ハ金票一圓ニ對シ奉天票約四元ノ交換相場ノ時)

七、採鑛所ノ現狀

鑛床ノ露頭部ヲ第一坑道トシ第二坑道マテ掘下ルコト約百二十尺ナリ既ニ第二坑道以上ハ鑛床内ニ現ハレタ

九、採 鑛

大倉組採鑛時代ニハ第二坑道以下ニハ見込ナキモノトシテ採鑛ヲ中止シタル如キモ現今ハ探鑛ノ結果第二坑



道ニ品位良好鑛脈大ナルモノヲ發見シ稼業セシニヨリ尙相當下底ニ相等ノ望ミヲ囑シ得レリ  
現今採鑛中ノ鑛脈ニ平行シテ二十間位ヲ距レ(傾斜西八十度)タル所ニ露頭アリ此部分ニ對シ探鑛スル時ハ尙相當ノ鑛石ヲ發見スル豫定ナリ鑛脈ハ東西ノ走向ナリ一箇月ノ探鑛高(精鑛高)約二萬貫位ノ豫定ニシテ大ナル設備ラシテノ稼業ハ今日望マレシ

### ◎黑松林滿俺礦近況

玉華公司ノ經營セル興城縣黑松林滿俺鑛ハ從來奉天孫子鐵ノ手ニテ時々本溪湖、鞍山等ニ賣鑛セシカ昨年八月鑛主張玉琛代理人徐雲山ト大連福井米次郎氏等トノ間ニ新ニ賣鑛契約成立シ福井ハ鑛石ヲ本邦ニ輸出スル計畫ノ下ニ該契約ノ成立ヲ斡旋セシ大森新一ヲ興城縣ニ派遣シ鑛石ノ受取、船積ニ當ラシメ更ニ進ンテ貯鑛ノ選別、新坑ノ探掘ニ着手セシメントセシカ同年九月偶々興城縣ノ玉華公司事務所失火燒失等ノ事アリテ作業稍遅クレシモ

同年中ニ概ネ準備ヲ終リタルヲ以テ今春ヨリハ豫定ノ通り探掘及積出ノ運ヒニ至ルヘシト尙大森氏等ノ踏査セシ當時山元ハ左ノ如キ狀況ナリシト云フ

- 小鷄冠山 從來十二箇所探掘セシ跡アリ本區域ニハ最モ多量ノ鑛石アルヘシト認ム
- 老虎洞山 未タ開掘セラレサルモ主要ナル露頭ハ長サ百五十尺幅六尺及至三尺位ニシテ他ニ露頭五箇所アリ
- 宋紅溝樑 二箇所露頭アリ未タ探掘セシ
- 様子溝 一箇所露頭アリ未タ探掘セシ
- 大面山 二箇所露頭アリ未タ探掘セシ
- 大面山 頂上ヨリ約十尺北方ニ面シタル所ニ坑道ヲ穿チアリ公司員ノ談及其後ノ調査ニヨレハ本鑛區ハ一大鑛體ナルカ如シ他ニ六箇所ノ露出アリ
- 尙ホ東方頂上ヨリ約百尺ノ所ニ露頭アリテ探掘スル運ヒトナリ居レリ

西方山腹迄ニ露頭三箇所アリ之レヨリ西東方ニ一箇年前奉天鑛務局王子文ノ經營セル興華公司ノ探掘セル箇所一箇所アルモ此邊一帶鑛質惡シク本溪湖ニテハ採用セザリシト云フ

### ◎復縣產石版石工場

復縣管内ニ產出スル印刷用石版石(泥灰岩)ノ加工工場ヲ瓦房店附屬地外ニ設立セシ中國人アリ該工場概況左ノ如シ

- 一、名 稱 奉瓦印石鑛區有限公司
- 一、資本金額 二十五萬元
- 一、使用機關及動力
  - 十五馬力石油發動機 一基
  - 斷 裁 機 一基
  - 研 磨 機 二基
  - 鑼 旋 盤 一基
- 一、使用職工數 二十五人(中國人)

- 一、製出品種 大小ニヨリ一號ヨリ六號ニ分ツ
- 一、一日ノ製產高 二號型 二十枚内外
- 一、職工ノ賃銀單價 最高奉天票六元最低四元
- 一、賣 價 重量一磅ニ付現小洋一角
- 一、取引方法 創業忽々ニシテ大量製產ナキカ故ニ未タ特約店等ノ豫約ナク奉天方面ニ直賣シ居レリ
- 一、經理ノ氏名 盧迺庚

### ◎石門寨、英盤地方炭田近況

#### 白龍山炭坑

白龍山炭坑ハ撫順縣下章堂部落ノ南約三支里白龍山東南麓ニアリ、炭層ノ走向ハ殆ント東西ニシテ支那人ノ言ニヨレ八十枚ノ炭層アリテ二尺乃至四尺ノ厚サヲ有スト稱セリ、其探掘セラレタル石炭ニハ琥碧(煤黃)ヲ含有シ一見撫順炭ノ如キ色澤ヲ有ス



該礦區地主ハ下章堂干某ニシテ二十餘年前ニ開坑セラレタルモ經營僅ニ數年ニシテ中止シ民國十三年把頭干某之ヲ繼承シ三箇ノ舊坑ニツキ何レモ四十六七度ノ急傾斜ヲ以テ坑ニヨリ二百尺内外ノ深處ニ於テ土法採炭シ専ラ附近村落ノ家庭用ニ供給セシカ實行不良ノ爲メ本年五月以來殆ント休止ノ状態ニアリ、目下山元ニ約五十噸ノ貯炭ヲ有シ現場渡切込一噸奉票五十七八元ニテ販賣セリ

### 土口子炭坑

本炭田ハ下章堂ノ東南五六支里ニ位シ奉海鐵路其側ヲ通過ス、本炭田ハ奉天伊豫組ノ經營ニシテ中日合辦天興煤礦公司ト稱ス、炭層ノ走向ハ殆ント東西ニシテ南へ二十五度傾斜シ位置走向及傾斜ヨリ推スルニ白龍山ノ炭層ト連續セルコト疑ナシ、本炭田ハ往時盛ニ稼行セラレタルモノニシテ五箇ノ舊坑アルモ現今ハ採掘セラレス、其一箇ノ舊坑ニハ目下三噸爐ノ「ポンプ」ヲ据ヘ付ケ排水ニ從事セルモ汽罐及ヒ「パイプ」ハ頗ル不完全ニシテ破損常ナキヲ以テ此ノ「ポンプ」ニテハ到底目的ヲ達スルコト

能ハサルヘシ、又此ノ外本層採炭ノ目的ヲ以テ新坑掘鑿中ニシテ二十四人ノ坑夫ハ晝夜三交替ニテ作業ニ從事シ目下約三十尺(傾斜二十度)掘進セリ當炭田ニハ三十名ノ坑夫アリテ總テ請負制度ヲ採レルカ一人當賃金ハ奉票平均五元内外ナリ

### 石門寨炭坑

石門寨炭田ハ下章堂ノ東南十二三支里石門寨部落ノ南三四支里ニアリテ奉海鐵道其間ヲ貫通ス此炭坑モ亦伊豫組ノ經營ニシテ中日合辦天順煤礦公司ト稱シ支那人側代表ハ楊玉生ナリ大正八年ヨリ十年四月迄前記伊豫組ニ於テ稼行セシモ實行不良ノタメ中止セラレタルカ本年五月十六日ヨリ新坑ノ掘鑿ニ着手シ調査當時ハ七八尺ヲ掘下ケタルモ湧水多量ノタメ手汲ニテ排水シツ、作業シ一方五噸爐「ポンプ」ヲ据付準備中ニシテ一箇年後ニハ本層ニ到達セシメント大ニ意氣込メリ此外一箇ノ舊坑ニツキ斷續的ニ採炭シ現場ニ十四五噸ノ貯炭ヲ有シ奉海線工夫ノ炊事用其他附近ノ需要者ニ供給セリ一噸奉票六十元目下十

二三名ノ坑夫ヲ使用セリ現場員ノ談ニヨレハ本石炭ハ白龍山及土口子炭ニ比シ稍良好ニシテ一日一百噸ノ出炭ヲ見ルニ至ラハ奉海線ニ於テハ驛ヲ設置スヘシト稱セリト石門寨ハ東房西房ノ二部落ニ分タレ各二百戸内外ノ戸數奉海鐵路線路ニ沿ヒ沖積層ノ沃野ヲ有シ農産物豐富ナルヲ以テ將來當地ニ停車場設置セララル、ニ於テハ石炭ノ産出ト相俟テテ相當發展スヘシ

### 腰堡炭坑

腰堡炭田ハ營盤ノ東北七八支里腰堡部落ノ北側底丘地ニアリテ目下舊坑ハ全部埋没シ露頭亦見當ラサルヲ以テ之カ精査ヲ遂ケ難シ

當地人ノ談ニヨレハ民國五六年頃奉天ノ孫某出資シ石門寨ノ高、黃ノ兩把頭ヲ使用シテ二坑ヲ開キ何レモ百數十尺斜坑ヨリ採炭セシモ出水多量ニシテ稼行困難ノタメ中止セリト云フ

## ◎南嶺煤礦有限公司設立計劃

支那側ノ紳商張寶銘氏ハ會テ奉天實業廳ニ對シ炭礦ノ採掘方ニツキ出願中ノトコロコノ程漸ク許可ノ指令ニ接セシヲ以テ張氏ハ在奉紳商七名ト共ニ發起人トナリ株式ヲ募集シ南嶺煤礦有限公司ナルモノヲ組織スルニ至レリ因ミニ該炭礦所在地ハ本溪縣ノ東南ニシテ南嶺山ト稱セラル、地方ナリ  
尙ホ該炭礦ノ組織草案ハ左記ノ通りナリ  
一、名稱 南嶺煤礦股份有限公司  
二、資本金 資本總額ヲ奉天票二百萬元トシコレヲ四百株ニ分チ一株ヲ五十元トシ先ニ株金半額ヲ拂込ミ發起人ニ於テ五千株ヲ引受ケ残り三萬五千株ヲ公募スルコト  
三、炭礦區域 本溪縣管内南嶺山ニアリ礦區畝數ハ五百畝場所ハ本溪縣ヲ距ル百支里ノ處ニアリ  
四、發起人 張寶銘(文寶官紙局經理)尙席珍(潤興煤礦公司經理)朱有三(德發合財東)白際田(同和堂藥種商經理)王香閣(同興公煤局經理)楊永芳(永發祥煤局經理)



王佐臣(奉天資産者)周樹棠(奉天資産者)

### ◎遼陽縣の石灰礦採掘

最近遼陽縣東北六十支里石灰窰子村西南紅泥坑西礦坑老石廠西石廠長嶺崗等ニ於テ石灰礦ヲ發見シタルヲ以テ該地方ノ商民代表ハ奉天實業廳ニ對シコレヲ採掘方ヲ請願シ來タリシカ實業廳ニテハ係人ヲ派シ調査セシメタルトコロ礦區擴大礦質優良ナリトノ報アリタルニ由リ十月二十日採掘權ノ許可ヲ與ヘタリト而シテ目下採掘準備中ナルカ一説ニ依レハ右耐火粘土ノ採掘ニアラサルカト風説セラレ居レリ

### ◎北京農商部の鑛山調査命令

張作霖氏ハ十六日農商部ヲ經テ奉天ニ打電シ來リ本部ハ國産ニ重キヲ置キ鑛産ノ調査ヲナサシメントスルニ付東三省ノ鑛山ハ計何箇處アリ開掘中ノモノ未開掘中ノモノ各何箇處アリ尙又内外人ノ投資等詳細調査ノ上報告ス

五、硫黃礦ハ官營トシテ一切利賣ヲ嚴禁スルコト

### ◎錦西帽兒山炭礦開掘

在奉支那側ノ楊樹滋、王寶衍、周學田其他數人ノ豪商ハ實業廳ニ對シ、石炭礦ノ採掘方ヲ請願セリ場所ハ錦縣ノ西北二十支里、地名ハ帽兒山地方、礦區ハ三百畝然カモ本溪湖炭ニ比較シテ炭質、燃燒力共頗ル善ク最近實業廳礦務局ニ於テ調査ノ結果之ヲ許可シ資本總額奉小洋五十萬元ヲ以テ愈々着手スルコト、セシカ所産ノ石炭ハ錦縣西高橋驛ニ積出シ汽車ニヨリ沿線各地ニ賣出ス計畫ナリト稱セリ

### ◎張作霖氏の鑛山開掘訓令

張作霖氏ハ鶴ニ奉天實業廳ニ打電シテ東三省ニ於ケル各地各種鑛區ニ對シコレヲ調査方ヲ命シ來リシカ更ニ又奉天吉林黑龍江等三省ノ實業廳ニ命シ未開掘ノ鑛區ニ對シテハ官商合辦制組織ノ下ニ本年ヨリ十年ノ間ニ完全ニ

ルヤウ命シ來レルヲ以テ莫省長ハ直ニコノ旨實業廳ニ移牒セリ更ニ二十一日農商部ヨリ直接莫省長ニ宛打電シ來リ至急調査スルヤウ督促シ來タレリト

### ◎西定煤礦公司

西安煤礦公司ノ經營ニツキ昨秋莫省長ハ省長公署ニ翁兵工廠總辦王奉海鐵路總辦丁總商會長等ヲ招キ種々協議ノ結果各官廳ヨリ三百萬元ヲ兵工廠及ヒ奉海鐵路ヨリ二百萬元ヲ各商界ヨリ二百萬元ヲ募集スルコトニ決定セリ

### ◎劉省長の奉天省富源開發策

劉省長ハ奉天省富源ノ開發策ヲ講スヘク銳意コレヲ攻究ヲナシツ、アリシカ最近決定セシ方案ハ左記ノ如シ  
一、省長トシテ保留セル各鑛ハ悉ク開掘スルコト  
二、鴨綠江附近ノ國有林ハ採伐ノ方法ヲ講スルコト  
三、窯業工廠ヲ設立スルコト  
四、養蠶ヲ獎勵スルコト

開掘スルヤウ訓令ヲ發セリト云フ

### ◎北票炭現狀

北票炭礦ノ區域擴大、埋藏量豐富ナルハ世人ノ知ル所ナルカ、該炭礦公司技師ノ推測ニヨレハ、現在ノ區域ヲナホ二倍ニ擴張シ、毎日四千噸ヲ採炭シテ四十年以上繼續シ得ルトノコトナリ、北票公司現在毎日ノ採炭量ハ九百噸乃至一千噸内外ニシテ採礦工夫二千名ヲ算ス、而シテ尙昨年九月以來各地石炭商ニシテ直接公司營業課ニ注文スルモノ毎日四百噸ニ達シ、炭礦ヨリ日日二回輸出スル石炭ハ六百噸乃至七八百噸ノ多額ニ及フ、又該石炭ノ價格カ他炭ニ比較シテ低廉ナルタメ賣行頗ル良好ニシテ各地ノ需用者ニ頗ル歡迎セラレ居レリ、而シテ北票公司ノ隆盛ハ他炭礦ノ石炭賣行ニ影響ヲ及ホシ隨ツテ同業者間ノ競争ハ免レ難キ所ナリ、殊ニ開藻炭礦ハ北票炭ノ山海關内輸入ヲ阻止シ販路ノ蠶食ヲ免レントシテ京奉路局ト結ヒ北票公司ノ關内輸入石炭ニ對シテ貨車ヲ供給セ



ス又供給スルモ僅カニ秦皇島マテトスル等アラユル手數ヲ講スルニ至リシヲ以テ北票公司ハ開源煤礦公司ト屢々ノ接衝ヲ行ヒシモ圓滿ナル了解ヲ得ルニ至ラス、遂ニ北票公司ハ相手トノ感情融和ヲ計ルタメ關内ノ販路ヲ放棄セリト云フ

### ▲吉林省及黑龍口省

#### ◎昨年中吉林各炭礦出產量

十五年度ニ於ケル吉林省各炭礦ノ出炭量ニ付テ最近吉林當局ノ發表スル處ニ依レハ合計三萬三千七百六十噸ニシテ前年度ヨリモ五千餘噸ノ増加ヲ示セリ、之ヲ各礦別ニ示セハ左ノ如シ

- 一、火石嶺炭礦 九、五〇〇噸
- 一、馬家屯炭礦 一、〇〇〇噸
- 一、地局子炭礦 六五〇噸
- 一、奶子山炭礦 五六〇噸

- 一、南大溝炭礦 一、二五〇噸
- 一、穆陵炭礦 一六、〇〇〇噸
- 一、其他諸礦 四、八〇〇噸

#### ◎興安嶺ノ金礦

哈爾濱ニ於ケル滿洲文物研究會ノプリノコール氏ハ曩ニ興安嶺探險隊ヲ組織シ北滿各地ヲ調査シテ歸哈シタルカ茲ニ該氏ノ報告ニヨレハ北滿ノ金礦ハ頗ル豊富ニシテ殆ント各地ニ存在セルモ未タ完全ニ調査セラレサルハ遺憾トナス、興安嶺ノ東方ニハ廣大ナル金礦アリテ一部分ハ盜掘セラレ支那側ニ於テ速カニ之ヲ採掘ヲ計畫セシテ放棄セルカ如キハ誠ニ惜ムヘキコト、ス、云々ト

#### ●蒙古及西比利亞

#### ◎英國ノ對露金礦利權會社

英國ノ對露金礦利權會社「レナゴルドフィールド」ノ事業

### ●北支那

#### ▲直隸省

#### ◎天津輸移出入鑛產物

ハ英露斷交ニモ拘ラス著シク進捗ヲ示シ最近同社ハ米國ヨリ「ドラガ」ト稱スル最新式ノ採金網附機械ノ大量輸入ヲ企テ勞農側運輸會社「トランスポルト」社カ其運送ノ任ニ當リ九月下旬「レナ」河流域ノ利權地送込ヲ終リシガ其荷送筒數四千三百二十筒總重量十五萬三千ブードニ達セリ、因ミニ「レナゴルドフィールド」社ハ昨年モ同機械ノ多數買込ヲ行ヒシカ今次ノ再購入ハ同社ノ事業擴張ヲ語ルモノト見做サレ居レリ

天津輸移出入重要支那鑛產物數量最近三箇年比較左表ノ如シ

一、輸移出  
本表ハ外國向輸出及支那諸港向移出ヲ合算セルモノナリ

品名	單位	一九二六年	一九二五年	一九二四年
石炭	噸	九六〇元	八二七元	一五〇〇元
同(バンカー用)	噸	六九四元	六八二元	七五二七元
銅錠及塊	噸	二〇六八	二〇五三	五三三
鐵製品	噸	五二	四四	一
海關兩		六六五七	六二七	一四八元
		一五五		

#### ◎勞農踏查隊ウラルに白金鑛發見

勞農聯邦地質調査會ハ今夏來ウラル西伯利、極東、中亞、北露、中露等國內各地ニ班ヲ分ツテ實地踏查隊ヲ派遣シ各種鑛物資源ノ調査並ニ試掘ニ努メツ、アリシカ其中ウラル地方派遣ノ一隊ハ「ブルマントフ」地方ニ白金ノ新産地ヲ發見シ試掘ノ結果有望ト判明シタルヲ以テ愈々採掘作業ヲ開始スルコトニ決定セリ



品名	單位	一九二六年	一九二五年	一九二四年
生鐵	擔	5,500	4,000	1,000
鉛塊及條	擔	26	1	
錫塊	擔	26		
石綿	海關兩	3,338	3,011	2,768
辰砂	同	1,100	2,520	3,000
亞鉛	同	2,404	2,815	2,696
セメント	擔	5,765	8,963	6,966
曹達	擔	5,765	2,937	2,219
石炭	噸	11,088	10,323	19,888

二、輸移入

品名	單位	一九二六年	一九二五年	一九二四年
石炭	噸	10,622	6,885	18,889
錫箔紙	擔	8,541	8,292	9,773
アシチモニ	擔	6	77	26
銅錠及塊	擔	3,333	5	9
鐵製品	海關兩	1,485	9,555	5,992

品名	單位	一九二六年	一九二五年	一九二四年
鉛塊及條	擔	239	166	
信石	海關兩	3,815	2,699	4,391
辰砂	海關兩	5,753	780	975
窓硝	百平方呎	2,425	3,285	1,010
磁器(粗)	擔	4,822	2,990	4,384
磁器(細)	擔	10,255	9,454	1,995
同器	擔	14,906	13,033	1,434
土器	擔	5,831	5,413	4,852
石材及石器	海關兩	6,998	15,467	2,423

▲山東省

◎青島附近ノ石材

青島ヲ中心トセル舊獨逸租借地ハ僅々五百五十平方キロメートルノ一小區ニ過キサルモ北ニ有名ナル嶗山、大山、旭山等之レヲ縱橫斷シテ地域ノ大部分山地ヲナシ、而カモ主トシテ花崗岩類ヨリ成レル山骨陵々トシテ所在ニ

露頭シ之レカ採石非常ニ容易ナル而已ナラス三面海ヲ以テ廻リ誠ニ天與ノ石材搬出地ヲナス

サレハ青島市街大小一萬戸ノ建築及一般土工ハ素ヨリ地域内支那部落ノ土人家屋、塋等所有方面ニ古來專ラ石材ヲ用ヒラレ之レカ利用發達セル他ニ類例少ナク殊ニ獨逸開拓當時ニ於ケル採石ノ旺盛ナリシト蓋シ想像ニ難カラス現ニ領域内ニ石工ヲ職トセシモノ三千人ヲ下ラスト謂フ、只加工技術ハ一般ニ叩キヲ限度トシ石碑等ニ僅ニ荒磨キヲ見ル外ハ未タ美術的ニ研磨材料ヲ十分利用スルニ至ラス

領域内ニ產出セル石材ハ岩石上ヨリ論スル時ハ

- 花崗岩
- 石英斑岩 (一ニ青島岩ト稱ス)
- 燧斑岩

ノ三種ニ大別スヘク、更ニ之レヲ各其特質及實用上ヨリ觀ルニ

一、花崗岩

所謂租借地全域ヲ構成シ比較的新時代(第三紀?)ノ噴出ニシテ浮山附近ノ一部分ヲ除キ他ハ概シテ粗粒狀、色彩不鮮明ヲ特徵トシ產出石材ノ八〇%(八割)ヲ占メ從來一般ニ青島花崗石又ハ山東花崗石ト通稱セラルルニ至リタルモノニシテ左記數種ニ區別スヘシ

- (1) 湛山產 南海岸湛山ヲ中心トシ青島附近ヨリ浮山所附近ニ至ル區域、崖島等ニ產スルヲ總稱ス  
長石ハ帶紅褐色ノモノ主要成分ヲナシテ全色彩ヲ支配シ白色乃至帶黃褐色ノモノ少量ヲ雜フ、石英ハ透明ニ近キモ長石ノ全色彩ニ壓セラレ肉眼的ニハ顯著ナラス、黑色鑛物トシテ二乃至四「ミリメートル」ノ黑雲母稍多量ニ散布セラレ角閃石ハ多カラサルモ時ニ五「ミリメートル」内外ノ結晶ヲナスコトアリ、質堅緻ナレトモ粗粒狀ヲナシ雲母、角閃石ハ分解速カナルカ爲メ其風化浸蝕面ニ於テハ著シキ凸凹狀ヲ呈スルコトアリ

青島附近ニテ使用セル石材ハ大部分本產類似ノモノ



ニシテ一般土工用ハ勿論廣ク建築其他ニ用ヒラルルモ我國へ輸出品トシテハ土木工用ヲ主トスヘク建築其他ノ特種用ニハ不適當ナリ

(2) 大麥島産 湛山ノ東、浮山ノ西部、大麥島附近ニ出ツルモノヲ綜稱セリ

組織殆ト湛山産ニ等シク、只其主要成分ヲナス長石カ前者ノ帶紅色ナルニ反シ本産ハ帶紫灰色ノモノ主トナリテ全色彩ヲナシ、角閃石多少増加セルカ如ク概シテ、美的觀念ヲ與ヘス

青島附近ニテハアヲユル方面ニ使用セラルルコト湛山産ト異ラサルモ我國へノ輸出向トシテハ土木工用タルヘシ

(3) 黒花崗岩 等シク粗粒組織ナルモ前者ニ比シ著シク角閃石加ハリ往々「ミリメートル」以上ニ及フモノアリ從テ岩石ノ全色彩ハ甚ク暗灰綠色トナリ、其或ルモノハ一見黒色ニ似タリ黒花崗石ノ稱アル所以ナリ、前記大麥島附近及浮山西部ノ一小區域

産ニ於テ隱色セル孔隙多ク研磨利用ノ途ヲ缺ク、槐石産ノ東海岸ニ産ス、水運便ニシテ輸出向トシテハ土木專用ナリ

(7) 柳樹臺産 嶗山西口、柳樹臺附近ノ産ヲ稱ス前記劉清河産ニ於ケル灰白色長石ノ淡紅白色トナレルモノニシテ雲母及角閃石ノ量更ニ減シ一面孔隙甚シク増加シ愈其ノ特徴ヲ示ス

輸出向トシテハ土木專用ナルモ青島へノ運輸不便ナリ

(8) 北九水産 前者ノ長石カ帶紅紫色トナリ半透明ノ石英良ク之レニ調和シテ淡桃色ヲ呈シ色彩ヨリ謂フ時ハ建築其他ノ特種用トシテ好適ナランモ本産ノ特徴タル孔隙多キ爲メ加工磨困難ニシテ到底其用ニ堪ヘサルヘシ運輸亦不便ナリ

(9) 浮山産 上來説述ノ第一乃至第八項ニ渉ル諸産即チ租借地域内ニ於ケル花崗岩ノ大部分カ粗粒組織ヲ特質トセルニ反シ獨リ浮山方面ニ於ケルモノハ其組

ニ産ス  
輸出向トシテハ依然土木工用専用ナラン

(4) 小花崗岩 前項ノ組織細粒トナレルモノニシテ大麥島附近及薛家島ニ産ス

從來餘リ使用セラレス輸出向トシテノ價値明カナラサルモ石質概シテ前三者ニ勝リ建築ニモ利用セララヘキカ

(5) 槐石(南甯)産 沙子口ノ東、租借地境界、南嶗山ノ海岸ニ面セル區域一帯ヲ稱ス

粗粒組織ニシテ長石ハ殆ト帶紅褐色ノモノ而已トナリテ全色彩ヲナシ雲母、角閃石共ニ著シク減スルモ嶗山附近ニ特徴ナル孔隙多シ

(6) 劉清河産 前項槐石ノ長石カ白色乃至灰白色ヲナセルモノニシテ全色彩ハ自ら稍白色トナリ爲メニ多

織著シク細粒トナリ雲母、角閃石等ノ黒色礦物多カラス、加之、嶗山方面ニ特徴ナル孔隙ナク此等ノ條件ハ採石、加工、研磨等ノ作業ヲ非常ニ容易ナラシメ租借地域産中建築石材トシテ最モ良好ナルモノナリ唯一ツ遺憾ナルハ全色彩ヲ支配セル淡紅色長石カ僅ニ紫色ヲ帶フルカ爲メ其研磨面ヲ甚シク暗灰色ニ導クコトアリ

青島正金銀行支店、鈴木商店出張所等ノ主要建築ハ皆本産ヲ使用セリ、輸出向トシテハ建築其他ノ特種用ニ適スヘシ運輸亦不便ナラス

(10) 山東頭産 浮山連峰ノ東部、山東頭ノ西、道士帽子及北山附近ノ小區域ニ産スルモノヲ謂フ

石質ハ前項浮山産ト全然同一ナルモ長石ノ淡紅色著シク加ハリタル以テ前者ノ缺點タル暗紅色ヲ變シテ濃紅色トナシ研磨面ハ爲メニ小櫻模様ノ明快ナル色彩ヲ放ツ

輸出向トシテ碑石、建築其他ノ特種用ニ適シ、所謂



青島花崗岩ノ白眉ナラン

二、石英斑岩

租借地域内所在ニ前述花崗岩ヲ貫キ大小無數ノ岩脈ヲナセルモノニシテ纏リタル産出ナシ、主トシテ帶紫灰色ノ石基ニ多數ノ石英及少量ノ長石ノ小斑晶アルヲ特徴トシソノ主トシテ長石ヨリ成レルモノハ露出面ノ分解速カニシテ陶土ニ移化シ土人ノ所謂白土ヲナス柳樹臺老官莊後山ニ出ツルモノハ石基著シク肉紅色ヲ呈シ斑晶稍大トナリ美觀ヲナスモ加工、研磨、非常ニ困難ナルカ上ニ其量少ナク且運輸不便ナリ本岩ハ一般ニ裂隙多ク往々玆ニ溝溝ヲ浸染シ美事ナル模樹石ヲナスコトアリ

岩脈ノ大ナルモノハ所在ノ土人採ツテ利用セルモノナキニアラサルモ輸出石材トシテハ望少ナカルヘシ

三、煌斑岩

支那石工ノ所謂「青石」ニシテ前記石英斑岩ノ副脈トシテ花崗岩ヲ貫キ所々ニ露出ヲ見ルモ前者ニ比シ岩脈一

層細少、之レヨリ多量ノ石材ヲ得ルコト望ミ難ク、青島市街ノ土木工事等ニハ從來少量ヲ見ルモ輸出向トシテハ其量ニ於テ見込薄カルヘシ

◎石炭戰時特別稅

山東省ニテハ昨二年石炭禁輸問題不成功ニ終リタル以來省當局ニ於テ内々計畫中ナリトノ噂アリシ石炭戰時特別稅ノ徵收機關トシテ特ニ山東鑛政公署ナルモノヲ新設シ元津浦鐵道局長李士奎及ヒ元高等警察廳長邱任元氏ヲ正副局長トシテ同年十一月一日ヨリ其事務ヲ開始シ同時ニ從來ノ鑛區鑛產稅以外戰時特別稅徵收ニツキ布告ヲ公示セルカ其要點ハ省内産出ノモノ及ヒ省内へ輸入スルモノニ對シ

- 一、コークス 每噸ニ付 銀 二 元
- 一、コークス粉塊炭 同 銀 一元五十仙
- 一、有烟粉炭 同 銀 一 元

ニシテ之レヲ鑛業條例ニ依レル鑛業稅ノ坑所原價一千分

一五即チ假リニ坑所生産費ヲ最高銀五元ト見ルモ銀七仙五厘トナルヘキ鑛產正稅ニ比シ正ニ二十倍以上ニ相當スル特別稅ニシテ如何ナル場合ニモ古今内外ヲ通シテ類例ナキ稀有破天荒ノ暴舉タルハ識者ヲ俟タスシテ知ルヘシ

管ニ鑛業經營者ヲ死地ニ陥ラシムル而已ナラス時恰カモ石炭需要期ニ際シ一般消費者ニ對シテモ過重ナル負擔ヲ強フルコト、ナリ實ニ民生上ノ大問題ナルヲ以テ邦人ノ鑛業部ヲ以テ組織セル山東鑛業會ニ於テハ之レヲ對策ヲ講スヘク特ニ理事、顧問會ヲ開催シ需要者側ヨリモ多數出席ノ上協議ノ結果

- 一、主義トシテ該特別稅ニハ絶對反對ナルコト
- 二、本件ト最モ關係深キ商業會議所ト連絡ヲ採リ同所ノ協力ヲ請ヒ相互一致、積極的ニ取消運動ヲ開始スルコト

三、一面總領事ヨリ直接支那側ニ交渉依頼スルコト等ヲ決シタルカ本特別稅ハ單ニ山東省而已ナラス北方軍閥勢力圈ニ在テ一律賦課ノ計畫ニシテ現ニ天津ニ於テハ

十一月一日ヨリ實施シ、之レニ對シテ支那側炭業組合ヲ始メ各國租界同業者、開鑛炭坑等協力一致之ヲ拒否スルト共ニ非賣同盟ヲ行ヒ各國租界ニ在テハ租界局自ラ分配主體トナリ各自國軍隊警護ノ下ニ必要ナル運搬ヲ開始シ僅カニ其難ヲ免レツツ一面官憲ヨリ嚴重ニ交渉スル等北支那鑛業界空前ノ騷擾ヲ惹起セリ

今參考ノタメ山東鑛政公署ヨリ發布セル石炭軍事特別稅徵收ニ關スル佈告書ノ譯文ヲ掲グ

佈告ノ事

石炭ハ日用燃料トシテ必需品ナルモ軍事以來運輸ノ阻滯、車輛缺乏ノ結果各鑛廠ノ産額増加スルト雖モ運炭伴ハス各炭商ハ石炭ノ供給ヲ杜絶セラレ爲メニ營業困難ヲ極メタリ、需要者方面亦タ石炭ノ沸底ニテ日ニ炭價ハ勿論一切柴草類迄昂騰ヲ來タセル結果困憊シツ、アル事情ハ我督辦省長ノヨク推察スル處ナリ、玆ニ於テ本公署ニ特設シテ鑛業ヲ維持シ運輸ノ疏通ヲ計リ並ニ鑛政ヲ整理セントス、財政ヲ補助スル意味ニ於テ徵稅シ以テ軍用



ニ充ツルハ又不得止ノ苦衷ナリ、本署長副署長ハ、上ハ督辦ノ意ヲ體シ下ハ商民ノ苦境ヲ恤ミ事アル毎ニ屢々義威上將軍ニ呈請シテ極力多數車輛ノ配合ヲ求メ石炭輸送ノ專用ニ供シ竝ニ軍隊ノ力ヲ以テ輸送ヲ保護シ礦政ノ停頓無キヲ期シタリ、炭商ハ爲メニ多量販賣ノ利ヲ獲得シ輸送ノ順調ハ平時ト同シク其利益ヲ受ケタリ、各礦業商民ハ宜ク商業ノ損益ハ運輸ノ順不順ニ懸リ無ク一屯ノ利益有ルヲ知ル可シ、又其ノ徵稅ハ極メテ僅少ナルモノナレハ石炭缺乏ニ依ル炭價ノ昂騰十元二十元ナルニ比シ其差天地霄壤モ管ナラス、此稅額ヲ炭價内ニ含有スルトモ商民ハ已ニ廉價ナル石炭ヲ使用シ得ルヲ以テ欣然之レニ從フ可シ、茲ニ本公署ハ成立ノ始ニ際シ商民ノ未タ周知セサルヲ恐レ軍事特別稅徵收章程ヲ佈告シテ一體ニ知悉セシム

石炭軍事特別稅徵收章程

一、本公署ハ山東全省鑛業軍事特別稅ヲ徵收スルモノニシテ其鑛產鑛區等ノ諸稅ハ舊ノ如ク財政廳實業廳之レ

ヲ徵收ス

一、石炭軍事特別稅ノ稅率ハ左ノ如シ

甲 骸炭 每屯 二元

乙 骸粉炭 無烟炭 塊炭 同 一元五角

丙 有煙炭 粉炭 同 一元

一、凡ソ山東省内ニテ產出スル石炭ニシテ本省各地又ハ省外ニ搬出販賣スル者ハ宜ク發送地ニ於テ本公署管轄ノ分局所ニ種類數量ヲ報告シ章程ニ從ヒ特別稅ヲ納付ノ上之レカ損照(完納票)ヲ受クヘシ、何地ニ搬出販賣スルモ凡テ本公署管轄分局所ニ於テ一律損照(完納票)ヲ驗查ノ上通過セシメ以後ハ再ヒ徵稅セス

一、凡ソ省外ニテ產出スル石炭ニシテ山東省内ニ搬入シ或ハ山東省ヲ經テ他省ニ搬出販賣スル者モ亦入省ノ時本公署管轄最初ノ分局所ニ種類數量ヲ報告シテ章程ニ從ヒ特捐ヲ納付ノ上捐照ヲ受ケ何地ニ搬出スルトモ本公署管轄分局ニ於テ一律損照ヲ驗查シテ通過セシメ以後再ヒ徵稅セス、但シ搬入セル石炭ニシテ山東省内ニ於

テ確實ニ販賣シ再ヒ他省ニ搬出セサルモノ、特捐ハ途中納稅セスシテ只入省ノ時最初ノ局所ニ理由ヲ報告シテ許可證ヲ受ケ積卸地ノ局所ニ至テ納付ノ上捐照ヲ受クヘシ、但シ驗照地點ヲ通過スル時ハ該完納票ヲ以テ納稅ノ證明トナスヘシ

一、炭商ハ特捐ヲ納付スルニ先立ツ報單ニ其種類數量積卸地等ヲ明記ノ上該地ノ分局所ニ送致シ、局員ノ驗查ニ符合スルトキハ特捐ヲ納付シ捐照ヲ受ケテ初メテ搬出スルヲ得ルモノトス

一、凡ソ山東省内ニテ炭商ヲ經營スル者ニテ若シ隱匿シテ報告セス免稅ヲ企圖スルモノ或ハ貨票ノ符合セサルモノ等、分局所ニ查明セラレタルトキハ其罪ヲ論シテ納稅額ノ一倍以上五倍以下ノ罰金ニ處シ、罰金ノ領收證ヲ給ス、若シ炭商ニシテ特捐納付方ヲ肯セサル者又ハ章程ニ違反スル者ハ場合ニヨリテ營業停止ヲ命スルカ本省軍民長官ニ呈報シ竝ニ地方官廳ニ移牒シテ究辦スヘシ

本件ハ其後濟南藤田總領事ヲ始メ山東鑛業會及青島商業會議所役員其他當業者等ニ於テ支那側鑛政公署ト數次接衝ノ結果支那側ニモ不已事情アルヲ認メ且此上紛擾ヲ重ヌルトキハ取引上ニ影響スルトコロ勸カラサル爲メ左記ノ如ク假協定ヲナシ暫行的ニ納稅スルコト、ナレリト云フ

一、地賣及ヒ移入炭(假令ハ撫順開平炭等ノ如キ)ハ糞ニ抗議付納付ヲ内諾セル金額ヲ徵セラル、コト

二、移出炭(青島ヨリ支那領土、假令ハ上海、天津等ノ如キ)及ヒ支那領土内ノ港灣ヘ向ケ出向セル船舶用炭ハ第一項稅率ノ二分一額

三、國外輸出(主トシテ日本領土)及ヒ同上國外向ケ船舶用炭ハ無稅

四、以上ノ課稅ハ本令實施ノ日即チ十一月十六日ヨリノ分ニ賦課セラレ、今日マテニ青島及沿線ニ到着セルモノニシテ既契約ノモノハ之レヲ除外スルコト

右第一項ノ抗議付納付ヲ内諾セル金額トハ十二月上旬



濟南ニ於テ本邦當業者ト支那側ノ當局トノ間ニ假ニ取極メタル左記稅率ノコトナリ

一、省内消費炭

コークス 銀 一元 塊炭 八十仙

切 込 五十仙 粉炭 四十仙

一、輸出入炭

前記稅率ノ二分ノ一

●中支部

▲安徽省、湖北省、湖南省

◎東亞通商株式會社支那產鑛石輸入

當社ハ明治四十五年高木陸郎等ノ設立ニカ、ル旭公司ヲ以テ始リ大正二年九月株式組織トシ漢冶萍煤鐵有限公司製品ノ日本内地一手販賣ヲ引受ケ更ニ高木商會ノ名ヲ以テ支那各省ニ亙リ鐵鑛、滿僱鑛ノ採掘ヲ助成シ長江一

帶ニ於ケル鐵鑛石、湖南、廣西、廣東、諸省產ノ滿僱鑛石ヲ日本内地ニ輸入シ本邦製鐵業ノ發達ニ貢獻セシトコロ尠カラス、其最顯著ナル成績ヲ舉クレハ

鐵鑛石ハ

安徽省太平附近ノ鐵鑛石

湖北象鼻山鐵鑛石

同上鄂城鐵鑛石

滿僱鑛石ハ

湖南省湘潭附近滿僱鑛石

廣東北海滿僱鑛石

廣西省滿僱鑛石

等ノ輸入ナルカ鐵鑛石ハ日本製鋼所輪西工場、釜石鑛山株式會社釜石工場、三菱製鐵所兼二浦工場、淺野造船株式會社鶴見製鐵所ニ供給シ又湖南滿僱鑛石ハ八幡製鐵所日本鋼管株式會社、伏木及川崎工場並ニ右各製鐵所、大日本ビール株式會社製瓶部、其他大阪方面電氣化學用品材料トシテ供給セリ

鑛石ハ

浙江省產鑛石ヲ八幡製鐵所、淺野小倉製鋼所、釜石鑛山株式會社其他阪神地方製鐵所及ヒ硝子製造工場

等ニ供給セシ等ナリ

因ニ當社社長ニシテ日支合辦中日實業株式會社日本側代表高木陸郎氏ハ元清國兩廣總督タリシ故張之洞氏ノ設立セシ官營漢陽製鐵所大冶鑛山萍鄉炭山カ明治二十九年五月盛宣懷手ニ移リ漢冶萍煤鐵有限公司ト改稱サレ其後枝光製鐵所カ大冶鑛山ヨリ原鑛ノ供給ヲ受クルニ際シ盛宣懷ノ顧問トシテ兩者間ニ買鑛契約借款契約一切ヲ斡旋シ轉テ同公司顧問トナリ專ラ支那產鐵鑛、滿僱鑛ノ本邦輸入ニ盡力シ其功績尠カラスト聞ク

◎東亞通商輸入揚子江沿岸鐵鑛及

滿僱鑛概要

安徽省太平附近諸鑛山

位置 本諸鑛山ハ赤鐵鑛山ニテ上海ヲ距ル事約二百四

支那鐵業時報 第六十九號

十里揚子江上流ノ南岸ニアル小市街采石磯ノ東方約十二哩内外ノ個所ニ設在シ即チ南京及蕪湖ノ中間ニ存ス采石磯ヨリハ同諸鑛山ノ何レノ箇所ニ達スルニモ籠ニテ直行スルカ或ハ馬鞍山ヨリ凹山ニ通スル運鑛用輕便鐵道ニヨルモノトス  
鑛石ノ搬出ハ奥地ヨリ通スル水路ニヨリ采石磯ニ運搬スルカ輕便鐵道ニヨリ采石磯下流ニアル馬鞍山棧橋迄搬出貯藏シ海洋汽船ニヨリ輸出ス  
經營 寶興鐵鑛有限公司及益華鐵鑛有限公司  
寶興公司ニ屬スル鑛山ハ平硯崗、大東山、小東山、大凹山、龍山ニシテ寶興公司ハ故章幹臣在世當時大正四五年ノ交當社ト同公司ト日本内地賣込一手販賣契約ヲ締結シ大正十年章幹臣ノ死後其ノ息朗西及述均ノ經營ニ移リ引續キ輸入シ諸製鐵所ヘ納入シツ、アリ、同山ノ鑛量ハ約二百五十萬噸ト推算セララル  
益華公司ニ屬スル鑛山ハ黃梅山、龍家山、蘿蜀山、及硯瓦山ニシテ黃梅山鑛石ハ太平府鑛山中隨一ノ良鑛ニシテ鑛量ハ約五十萬噸ト推算セララル



益華鐵礦有限公司ハ故倪嗣仲氏ノ創立ニ係リ其ノ  
後其ノ息幼丹氏繼承經營シ現今ニ至リシモノニシ  
テ東亞通商會社ニテハ大正十一年以降本公司所屬ノ  
諸礦山產出鑛石ノ内地一手輸入ヲ契約シ各製鐵所ヘ  
納入シ居レリ

象鼻山

位置 漢冶萍大冶鑛區鐵山ノ獅子山トノ間ニアリ大冶  
鐵山系ノ一ナリ一時米商「アングーソンメーヤー」商  
會ノ着目スル所ナリシカ其ノ後官鑛局自身稼行スル  
コト、ナリ大正九年着手セシモノニシテ鑛質堅緻ナ  
ル赤磁鐵鑛ニシテ鑛量ハ八百五十萬噸ト計算セラル  
運搬鐵路ハ漢冶萍公司輕軌道ト併行シ黃石港ト石灰  
窪ノ中間沈家營江岸迄十餘哩ヲ通ス

經營 湖北官鑛局

雷山及西山

位置 本鐵山ハ湖北省江漢道鄂城市街西部江岸ニアリ  
雷山及西山ノ二ヨリナル、此ノ面積約三方支里交通  
ノ至便ナルコト他山ニ比ナシ

増水期ニアリテハ附近一帶ノ地宛然湖中ノ孤山ノ觀  
ヲ呈ス、鑛質ハ赤鑛石ニシテ燐、硫黃ヲ含ムコト少  
シ、雷山鑛質ハ品位比較的低下スルモ西山鑛質ハ優  
レリ、鑛山ハ二山ヲ合シテ二百萬噸ト推算セラル、  
運搬ハ西山ハ採掘場カ江岸ニアルヲ以テ何等困難ナ  
ク採掘場ヨリ直ニ船積スルヲ得ヘシ

雷山モ江岸ヨリ僅カ一支里間陸路又ハ樊江ニヨリ運  
搬積出スルヲ得ヘシ

經營 本山ハ官商合辦鄂城鐵鑛公司ノ經營ニ係リ大正  
十五年十一月始メテ雷山鑛石四千噸ヲ積出シタリ

湖南滿庵

位置 揚子江上長沙ヲ去ル五十一哩ニシテ鑛區ノ一ナ  
ル上五都ニ達ス

搬出ハ貯鑛場ヨリ約二哩ハ輕便鐵道ニヨリ炭塘子ニ  
至ル五哩ハ土車ニ依ル此地ニ於テ民船積トシ漢口ニ  
送り貯鑛ノ上汽船積輸出ス

經營 明治四十二年漢冶萍公司副社長李維格、同前  
支配人王閣臣、高木陸郎等ノ組織スル厚生號ニテ採

●南支那

▲福建省

◎福州ニ於ケル鑛業會社狀況

福建ノ山岳地方ハ鑛產物豊富ニシテ滿洲朝末期以來數  
會社カ福建省ノ首府福州ニ省下ノ各種鑛山ニテ稼業スル  
爲メニ設立セラレシモノトシテ成功セシモノナカリキ  
最初、水鉛鑛山ハ滿洲朝ノ末葉ニ黃子忠カ永泰地方テ  
發見セリ、此發見ハ惹イテ多數ノ資本家ハ省ノ鑛產物ノ  
採掘ニ對シテ外國人ノ鑛山ノ經驗家ヲ雇用セント誘引セ  
リ

其結果永泰州ニ於テ他ノ水鉛及銅鑛山、寧德ニ於テ鉛  
及銀鑛山南平州ニ於テ銅鑛山及邵武ニ於テ炭鑛ヲ次ヨリ  
次ニト發見セラレタ、鑛山開發ノ爲メニ組織セラレシ最  
初ノ會社ハ開源鑛務公司ニシテ永泰州ニ於ケル犁壁坑及

品位	八幡製鐵所其他ニ納入セル平均分析左ノ如シ
特 號 品	滿庵分 五〇・〇〇%
一 號 品	同 四七・〇〇%
二 號 品	同 四三・〇〇%

掘ニ着手セシカ後厚生號ニハ高木ノ出資關係ヨリ地  
方鑛山業經營ニハ不便ナルヲ以テ更ニ厚生號支那側  
關係者ノ外ニ地方富豪ヲ加ヘ裕錫鑛業公司ナルモノ  
ヲ組織シ厚生號ヲ販賣機關トシ東亞通商株式會社ハ  
其總代理店トシテ今日ニ至レリ

大正六年ヨリ本年迄ニ約十二萬噸ヲ八幡製鐵所ニ輸  
出シ民間各會社ニ三萬噸ヲ販賣セリ

鑛區及鑛量 目下採掘ニ着手シ居ル鑛區ハ湘潭縣内ニ  
有ルモノヲ最大トシ七方哩ニ亘ル、其他攸縣衡陽、  
莪洲等ニモ鑛區ヲ有ス

鑛區ノミニテ鑛量約百萬噸ヲ算ス

目下ノ設備ニ依ル一箇年ノ採掘積出能力約五萬噸ト  
ス